

**朝霞市民意識調査
及び青少年アンケート
結果報告書
(速報版)**

**令和6年(2024年)2月
朝霞市**

目次

第1部 朝霞市市民意識調査結果.....	1
I 調査の概要.....	2
1. 調査の目的.....	3
2. 調査の方法.....	3
3. 集計・分析のための地区区分.....	3
4. 調査項目.....	3
5. 回収結果.....	3
6. 報告書の見方.....	4
7. 回答者の属性.....	5
II 回答結果.....	12
1. 朝霞市の住みよさについて.....	13
2. 日頃の地域との関わりについて.....	19
3. 市政について.....	35
4. 市の全般的な取組について.....	45
5. これからのまちづくりについて.....	52
6. 自由意見.....	71
第2部 朝霞市青少年アンケート結果.....	73
I 調査の概要.....	74
1. 調査の目的.....	75
2. 調査の方法.....	75
3. 集計・分析のための地区区分.....	75
4. 調査項目.....	75
5. 回収結果.....	75
6. 報告書の見方.....	76
7. 回答者の属性.....	77
II 回答結果.....	82
1. 朝霞市について日頃感じていること.....	83
2. これからのまちづくりについて.....	93
3. 地域との関わりについて.....	99
4. 市の取組について.....	111
5. 自由意見.....	113

第1部 朝霞市市民意識調査結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

この市民意識調査は令和8年度(2026年度)から10年間のまちづくりの指針となる「第6次朝霞市総合計画」を策定するに当たって、まちづくりに対する市民の意向を把握し、基礎資料として活用するために行ったものである。

2. 調査の方法

- ①調査対象 市内在住の18歳以上の男女(令和5年4月1日時点での満年齢)
- ②対象者数 3,000人
- ③抽出方法 住民基本台帳(令和5年11月1日現在)から無作為抽出
- ④調査方法 郵送による配布・回収、インターネットによる回答を併用
- ⑤調査期間 令和5年11月24日送付、12月25日締切

3. 集計・分析のための地区区分

A地区	大字上内間木、大字下内間木
B地区	朝志ヶ丘、北原、田島、西原、浜崎、宮戸
C地区	大字台、大字根岸、岡、仲町、根岸台
D地区	泉水、西弁財、東弁財、三原
E地区	青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地

4. 調査項目

- ①朝霞市の住みよさについて
- ②日頃の地域との関わりについて
- ③市政について
- ④市の全般的な取組について
- ⑤まちづくりへの市民の参加について
- ⑥これからのまちづくりについて
- ⑦自由意見

5. 回収結果

- ①調査票発送数 3,000票
- ②有効回収数 965票(紙回答:731票、Web回答:234票)
- ③有効回収率 32.2%(紙回答:24.4%、Web回答:7.8%)

6. 報告書の見方

①用語について

- ・ 図表中の「n」(=number)は、設問に対する回答者数を示す。
- ・ 選択肢の文字数が多いものは、本文や図表中で省略した表現を用いている。

②集計について

- ・ 比率は、全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、比率の合計が100%にならない場合がある。なお、集計上の無回答には、無回答のほか無効な回答を含んでいる。
- ・ 複数回答形式の設問については、設問に対する回答者数を母数として比率(%)を算出している。このため、合計が100%を超えることがある。

③意識調査の信頼性について

- ・ 本調査は、調査対象となる母集団から標本を抽出し、母集団の比率を推測する標本調査であるため、調査結果には統計上の誤差が生じることがある。今回の単純集計の場合の標本誤差(信頼度95%とした場合)は、次の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団の数
n=比率算出の基数(回答サンプル数)
p=回答の比率(0≤p≤1)

- ・ 今回の市民意識調査では、母集団の数122,235人を(令和5年11月1日現在)として、有効回収数(サンプル数=965票)から標本誤差を計算すると、±3.2%以内になる(信頼度95%とした場合)。

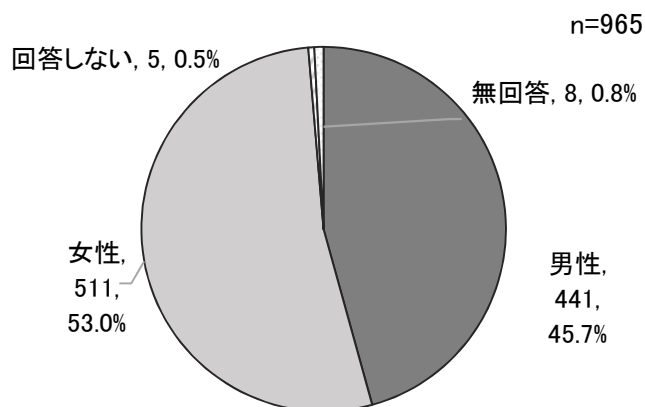
④経年比較について

- ・ これまで実施した意識調査との経年比較を行った。(昭和59年度、平成元年度、平成6年度、平成11年度、平成16年度、平成25年度、令和元年度実施。)

7. 回答者の属性

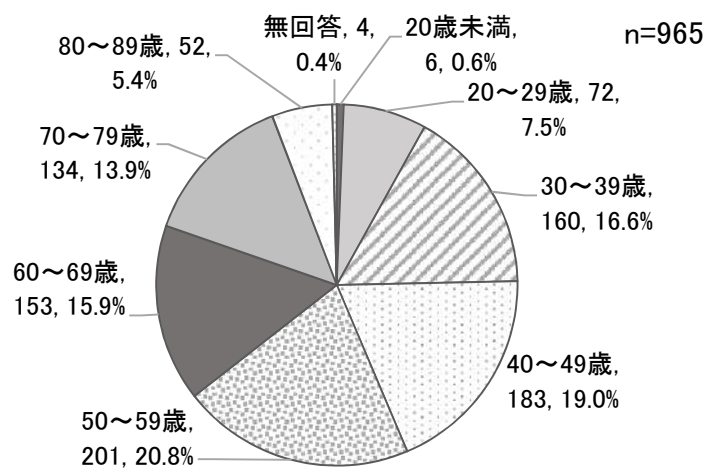
F1 あなたの性別は。

回答者の性別は、「女性」の割合が 53.0%、「男性」の割合が 45.7%となっている。



F2 あなたの年齢は。

回答者の年代は、「50～59 歳」の割合が 20.8%で最も高く、続いて「40～49 歳」(19.0%)、「30～39 歳」(16.6%)となっている。

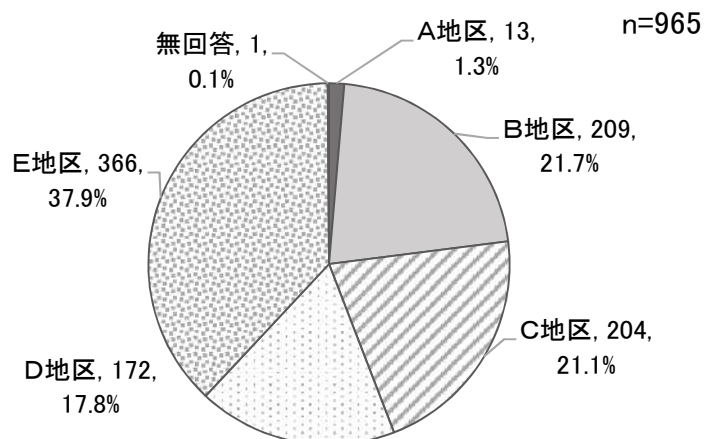


F3 あなたのお住まいはどの地区ですか。

回答者の住んでいる地区は、「E地区」の割合が37.9%で最も高く、続いて「B地区」(21.7%)、「C地区」(21.1%)、「D地区」(17.8%)、A地区(1.3%)となっている。

町(丁)・大字別でみた住んでいる地区は、「根岸台」の割合が13.3%で最も高く、続いて「本町」(10.6%)、「三原」(9.7%)となっている。

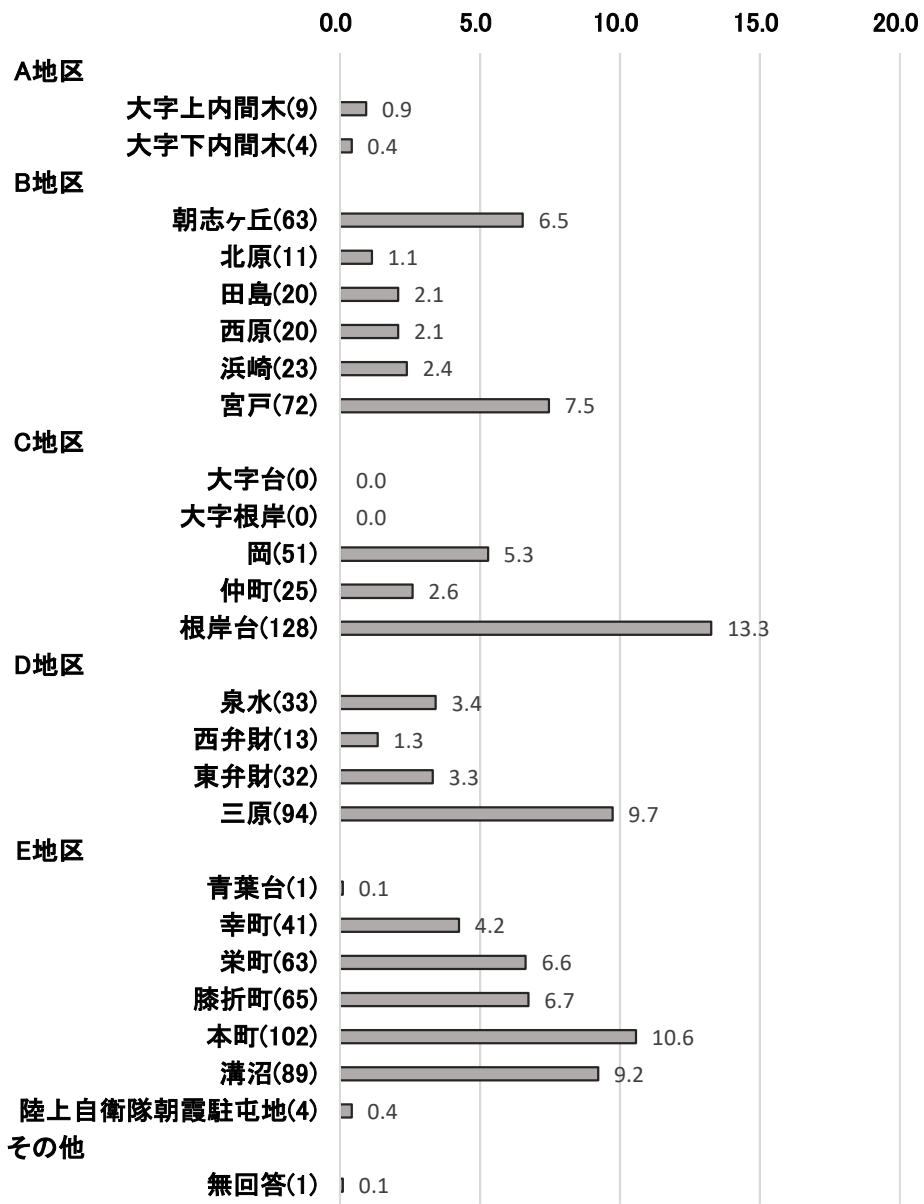
※地区区分については、4ページ「3.集計・分析のための地区区分」参照。



【町（丁）・大字別居住地区】

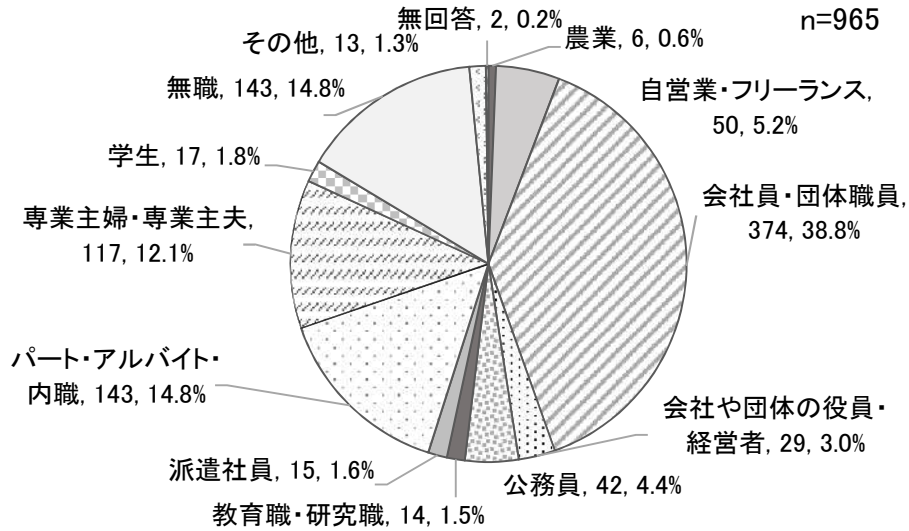
n=965

(%)



F4 あなたの主な職業・就業形態等は。

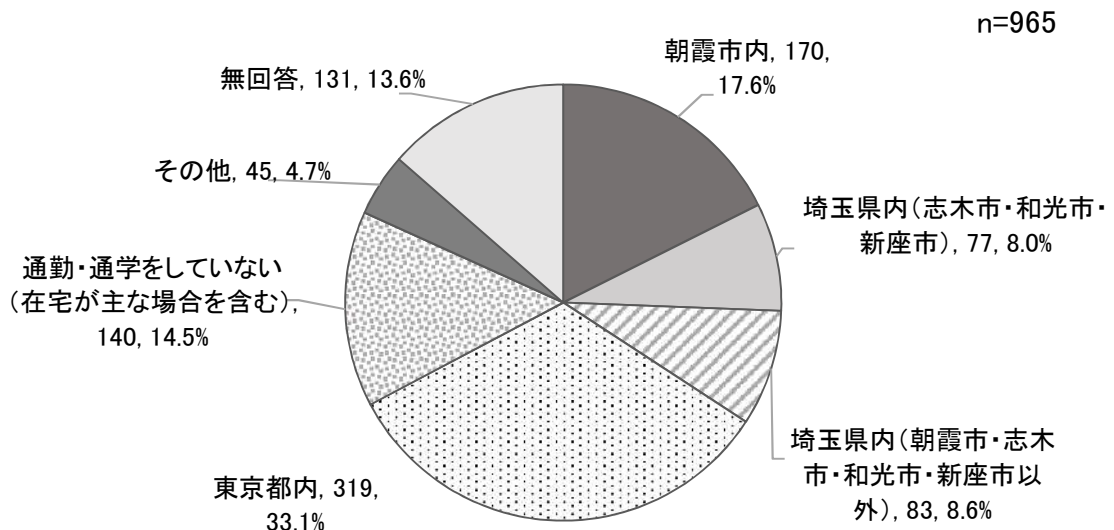
回答者の職業は、「会社員・団体職員」の割合が 32.9%で最も高く、続いて、「無職」(17.7%)、「パート・アルバイト・内職」(16.7%)、「専業主婦・専業主夫」(15.8%)となっている。



F5 あなたの勤務先、通学先はどちらですか。

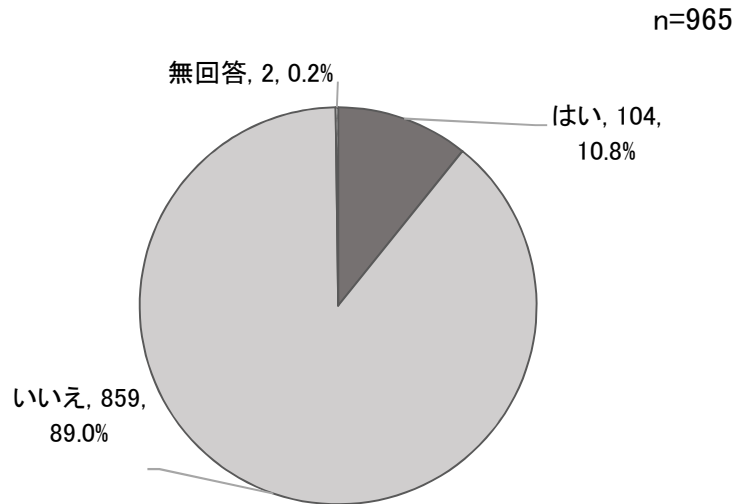
回答者の勤務先、通学先は、「東京都内」の割合が 33.1%で最も高く、続いて、「朝霞市内」が 17.6%、「通勤・通学していない」(14.5%)、「埼玉県内(朝霞市・志木市・和光市・新座市以外)」(8.6%)となっている。

また、朝霞市内を含めた“埼玉県内”は 34.2%となっている。



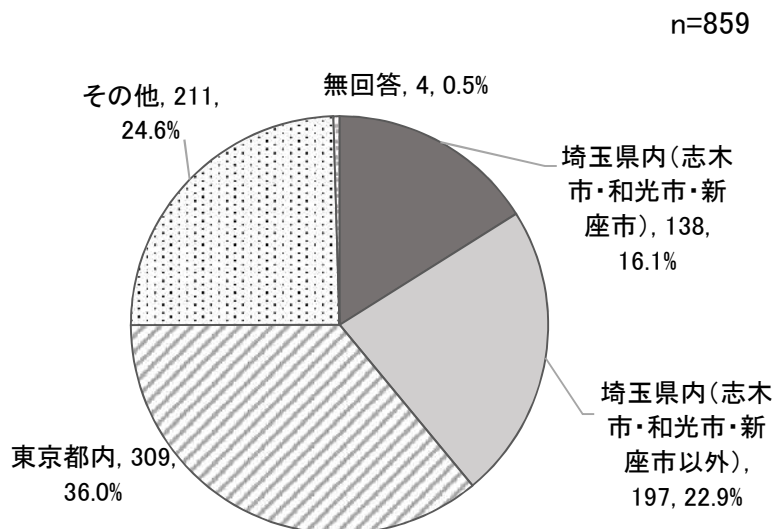
F6 あなたは、生まれた時、または幼少の頃から朝霞市にお住まいですか。

回答者が生まれた時から朝霞市に住んでいるかどうかについては、「はい」の割合が 10.8%、「いいえ」の割合が 89.0%となっている。



F7 F6で「いいえ」と回答された方にお聞きします。朝霞市に住む以前はどちらにお住まいでしたか。

市外から転入してきた回答者の以前の住まいは、「その他」を除くと、「東京都内」の割合が 36.0%で最も高く、続いて「埼玉県内(志木市・和光市・新座市)」(22.9%)、「埼玉県内(志木市・和光市・新座市以外)」(16.1%)となっている。

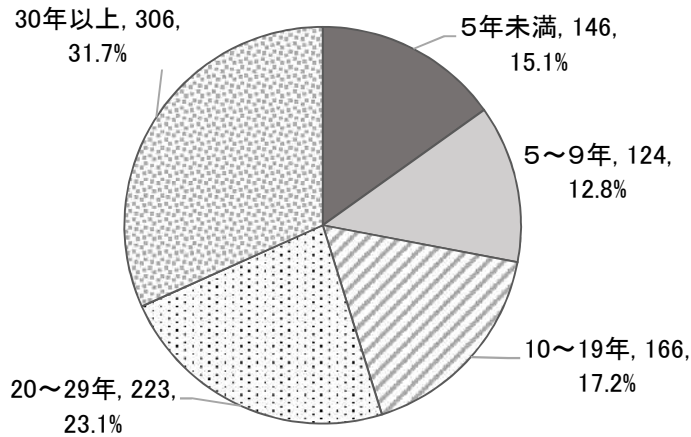


F8 あなたは、朝霞市にお住まいになってどれくらいになりますか。

回答者の朝霞市に住んでいる年数は、「30年以上」の割合が31.7%で最も高く、続いて「20～29年」(23.1%)、「10～19年」(17.2%)となっている。

また、「5年未満」(15.1%)、「5～9年」(12.8%)を合わせた“10年未満”の割合が27.9%となっている。

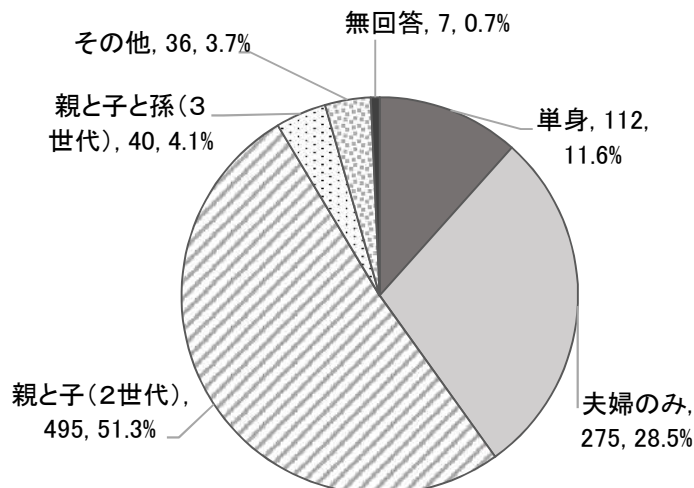
n=965



F9 あなたの同居している世帯・家族の構成は。

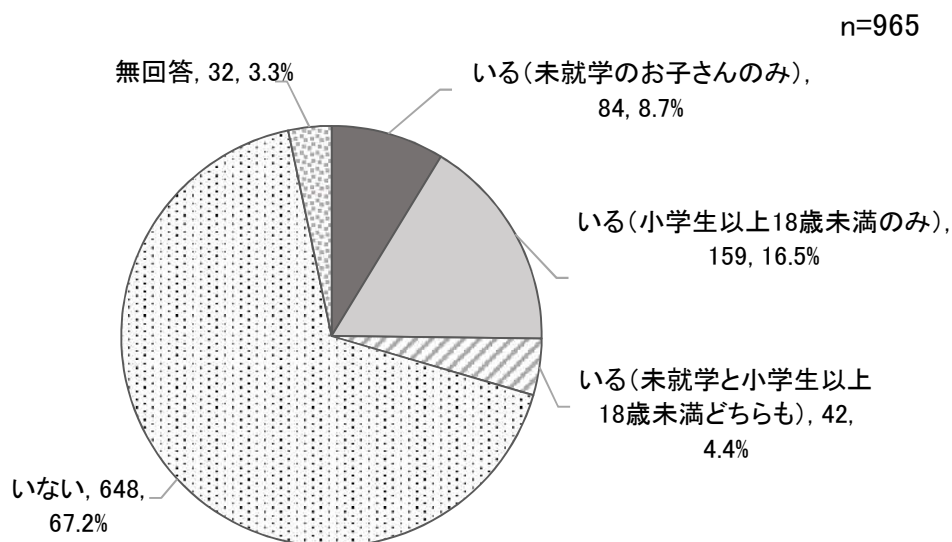
回答者の家族構成は、親と子(2世代)の割合が51.3%で最も高く、続いて「夫婦のみ」(28.5%)、「単身」(11.6%)と続いている。

n=965



F10 あなたと同居している世帯・家族の中に 18 歳未満のお子さんはいますか。

回答者と同居している世帯・家族の中に 18 歳未満のお子さんがあるかどうかについては、「いない」の割合が 67.2%で最も高く、続いて「いる(小学生以上 18 歳未満のお子さんのみ)」(16.5%)、「いる(未就学のお子さんのみ)」(8.7%)となっている。



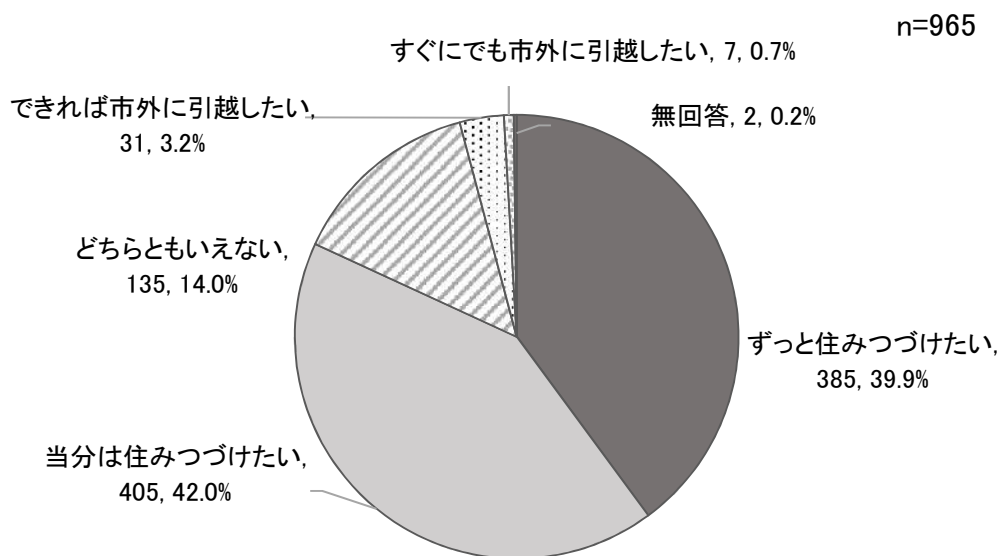
II 回答結果

1. 朝霞市の住みよさについて

問 1 あなたは、これからも朝霞市に住みつづけたいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

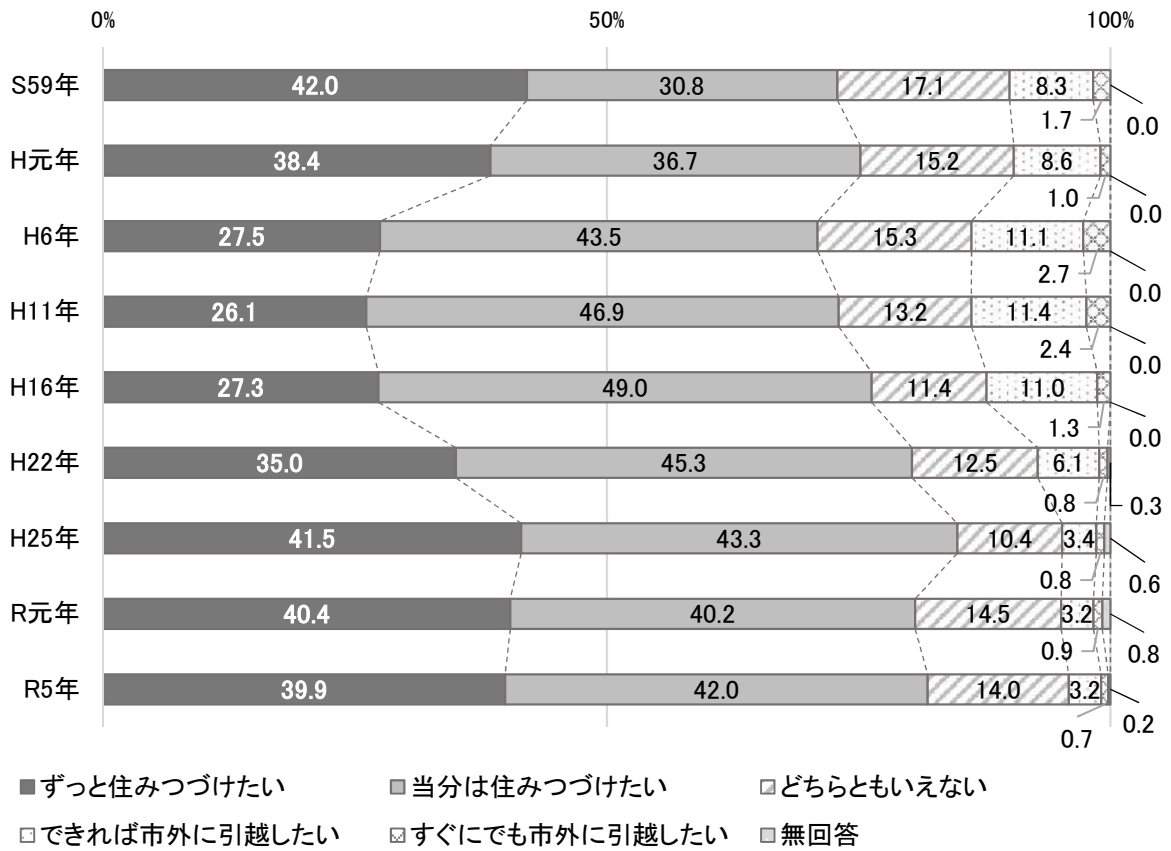
〈全体〉

朝霞市への定住意向は、「ずっと住みつづけたい」(39.9%)、「当分は住みつづけたい」(42.0%)を合わせた“住みつづけたい”の割合が 81.9%となっている。一方、「出来れば市外に移りたい」(3.2%)、「すぐにでも市外に移りたい」(0.7%)を合わせた“住みつづけたくない”の割合は 3.9%となっている。



〈経年比較〉

平成 22 年以降、「ずっと住みつづけたい」、「当分は住みつづけたい」を合わせた“住みつづけたい”の割合が 8 割を超えている。

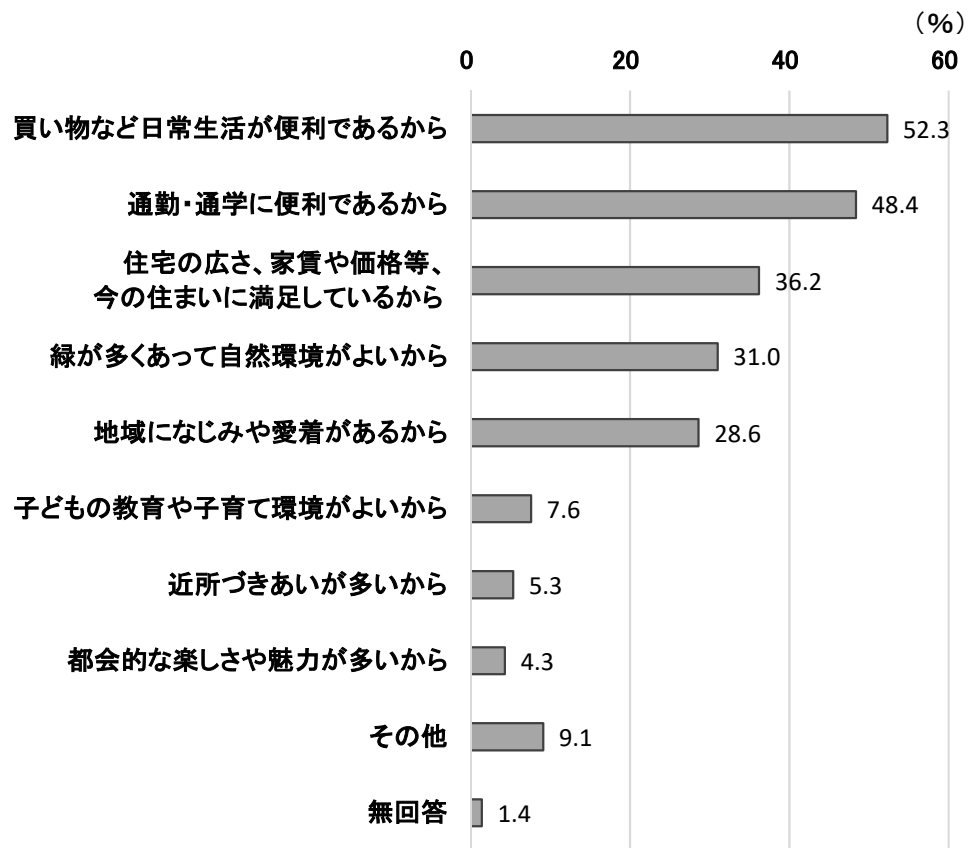


問2 問1で「ずっと住みつづけたい」「当分は住みつづけたい」を選んだ方にお聞きします。
あなたが朝霞市に住みつづけたいとお考えになった理由を、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

住みつづけたい理由は、「買い物など日常生活が便利であるから」の割合が52.3%で最も高く、続いて「通勤・通学に便利であるから」(48.4%)、「住宅の広さ、家賃の価格等、今の住まいに満足しているから」(36.2%)、「緑が多くあって自然環境がよいから」(31.0%)、「地域になじみや愛着があるから」(28.6%)となっている。

n=790

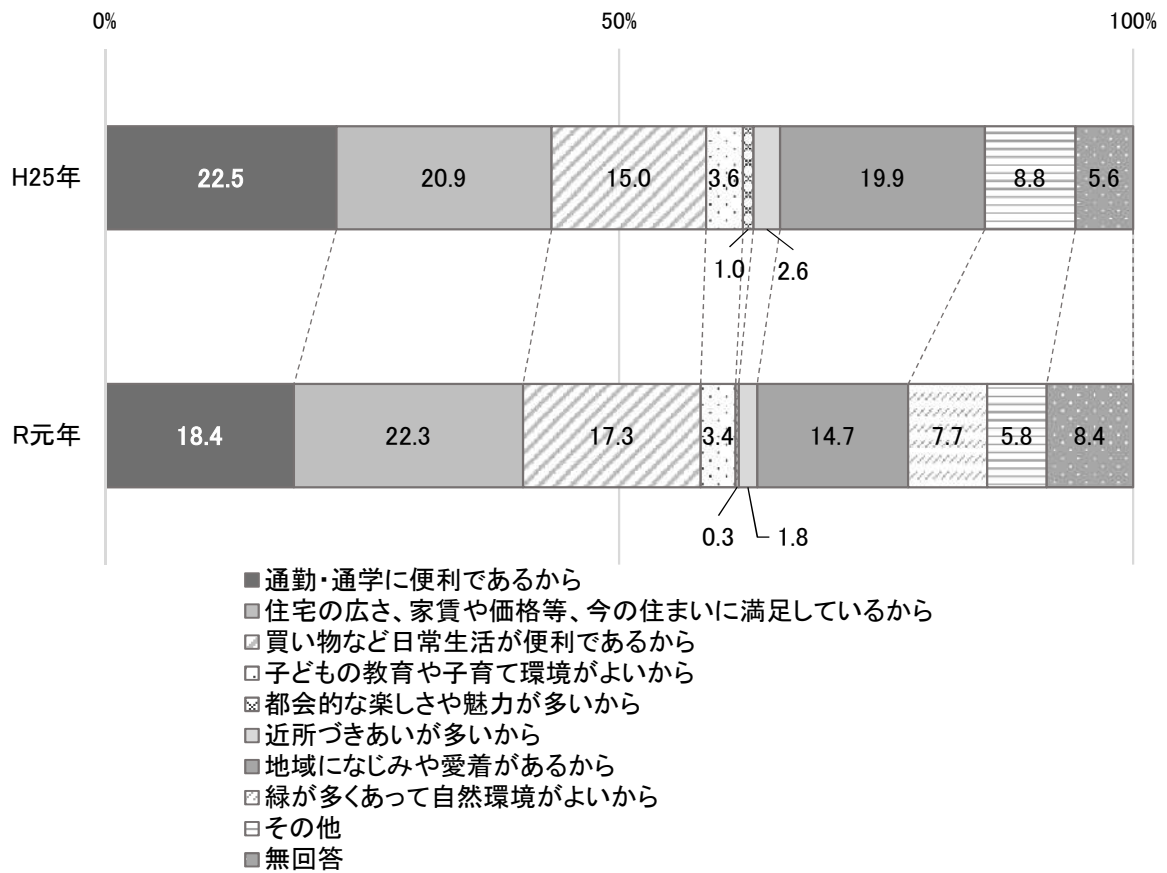


〈経年比較〉

令和元年は、「住宅の広さ、家賃や価格等、今の住まいに満足しているから」、「買い物など日常生活が便利だから」が増加している一方で、「通勤・通学に便利だから」、「地域になじみや愛着があるから」は減少傾向にあった。

※令和元年に追加した選択肢「緑が多くあって自然環境がよいから」は、経年比較の対象外としている。

※令和5年に、単一回答から複数回答に変更しているため、過去2回の調査は参考として示す。

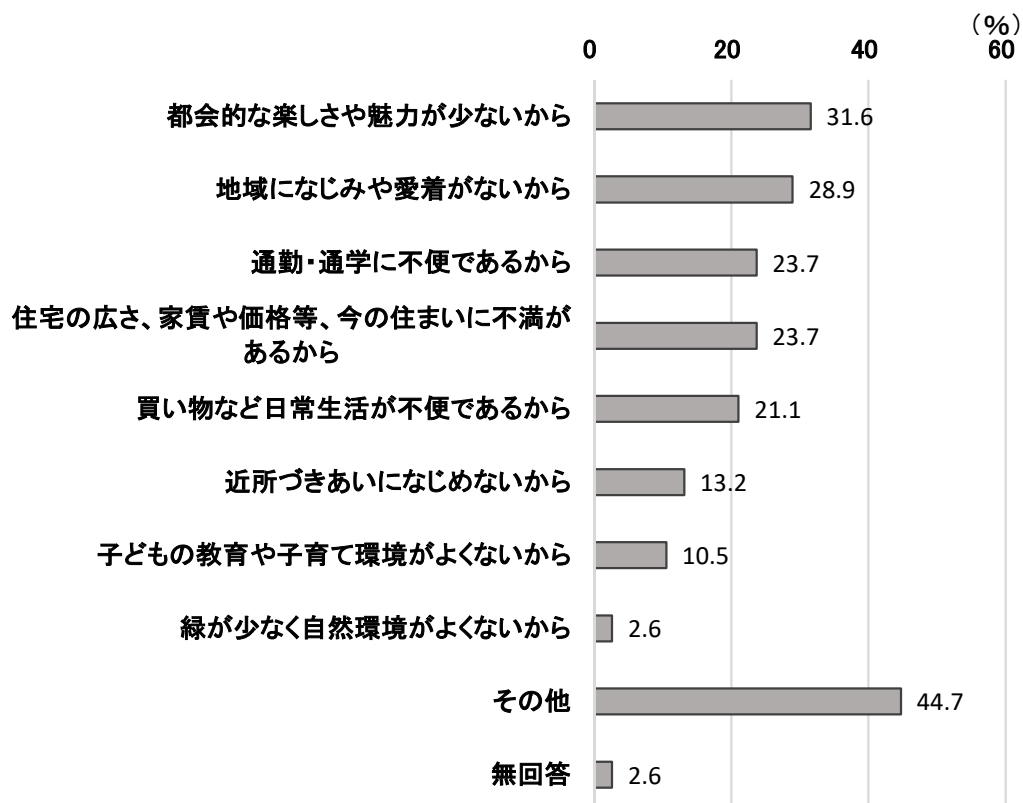


問3 問1で「できれば市外に引越したい」「すぐにでも市外に引越したい」を選んだ方にお聞きします。あなたが市外に引越したいとお考えになった理由を、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

市外に移りたい理由は、「都会的な楽しさや魅力が少ないから」の割合が31.6%で最も高く、続いて「地域になじみや愛着がないから」(28.9%)となっている。

n=38

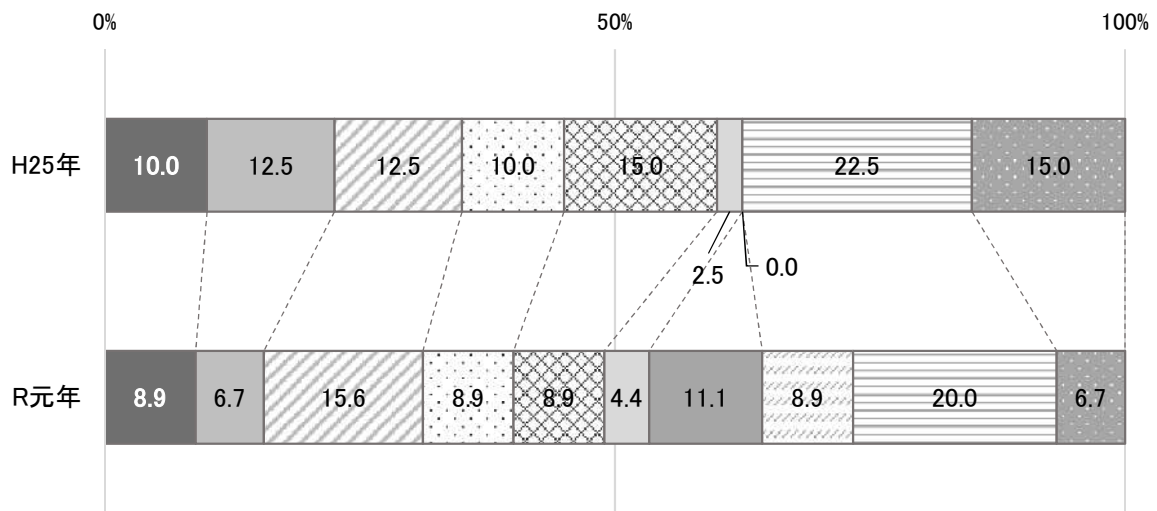


〈経年比較〉

「買い物など日常生活が不便だから」、「地域になじみや愛着がないから」、「近所づきあいになじめないから」が増加している一方で、「通勤・通学に不便であるから」、「住宅の広さ、家賃や価格等、今の住まいに不満があるから」、「子どもの教育や子育て環境がよくないから」、「都会的な楽しさや魅力が少ないから」は減少している傾向にあった。

※令和元年に追加した選択肢「緑が少なく自然環境がよくないから」は、経年比較の対象外としている。

※令和5年に、単一回答から複数回答に変更しているため、過去2回の調査は参考として示す。



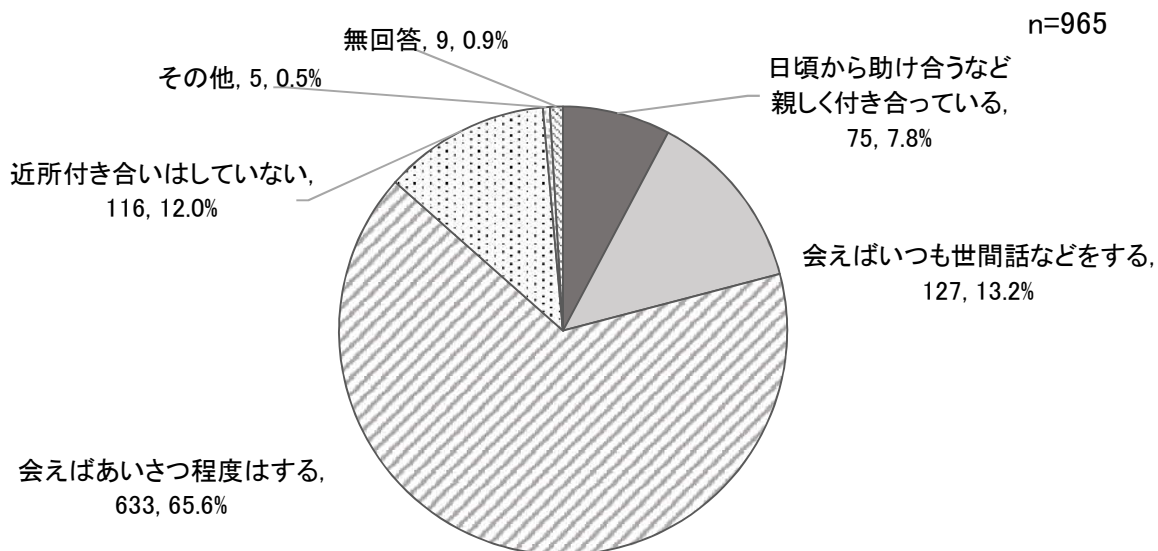
- 通勤・通学に不便であるから
- 住宅の広さ、家賃や価格等、今の住まいに不満があるから
- 買い物など日常生活が不便であるから
- 子どもの教育や子育て環境がよくないから
- ☒ 都会的な楽しさや魅力が少ないから
- 近所づきあいになじめないから
- 地域になじみや愛着がないから
- 緑が少なく自然環境がよくないから
- その他
- 無回答

2. 日頃の地域との関わりについて

問4 あなたは日頃、近所の方とどのようなお付き合いをしていますか。次の中から1つ選んでください。

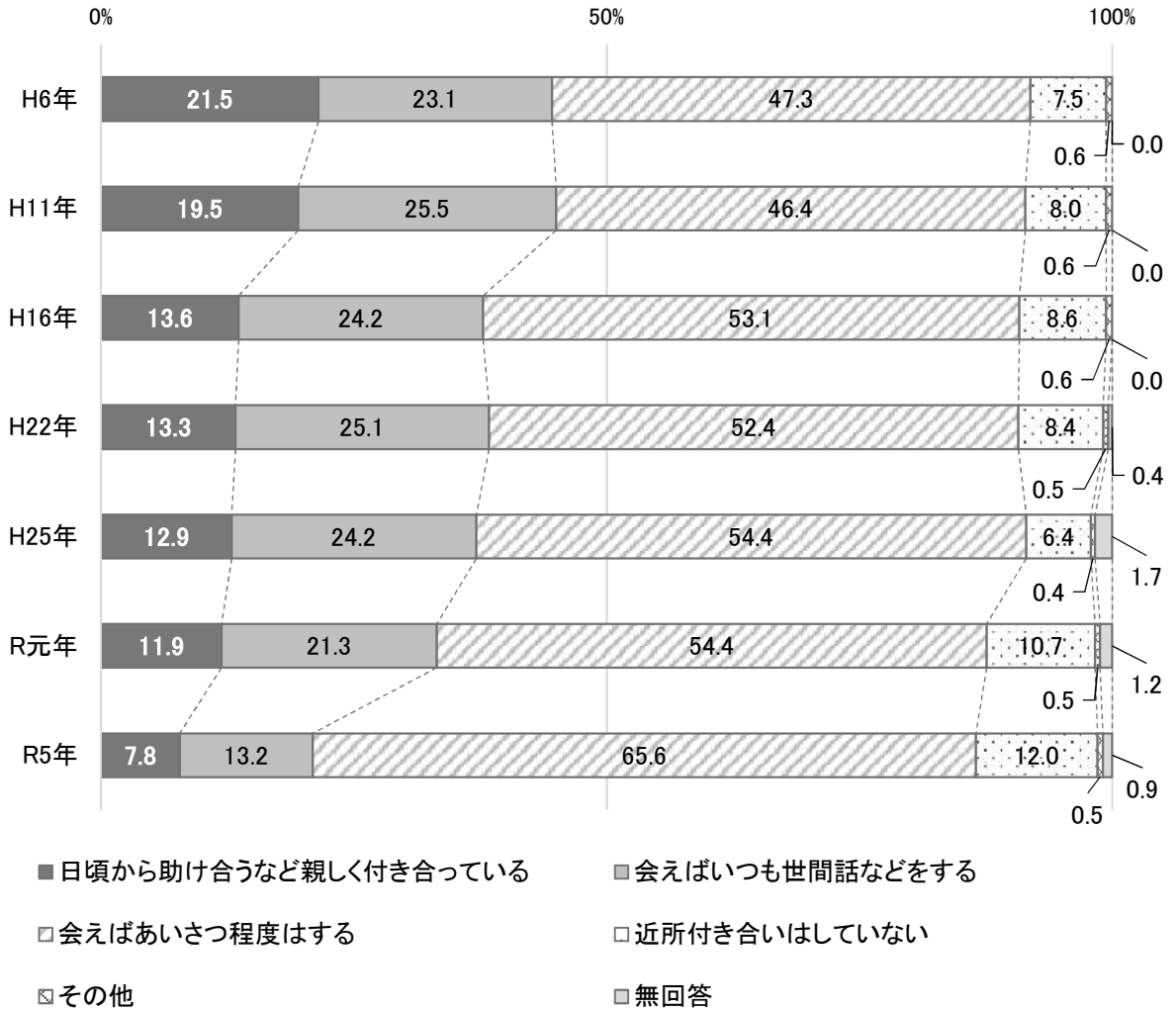
〈全体〉

近所との日頃の付き合いは、「会えばあいさつ程度はする」の割合が65.6%で最も高く、続いて「会えばいつも世間話などをする」(13.2%)、「近所付き合いはしていない」(12.0%)となっている。



〈経年比較〉

「近所づきあいはしていない」の割合は、平成11年以降ほぼ横ばいで推移していたが、令和元年以降増加している。一方で、「日頃から助け合うなど親しく付き合っている」の割合は、平成6年以降減少を続け、令和5年に10%を下回った。

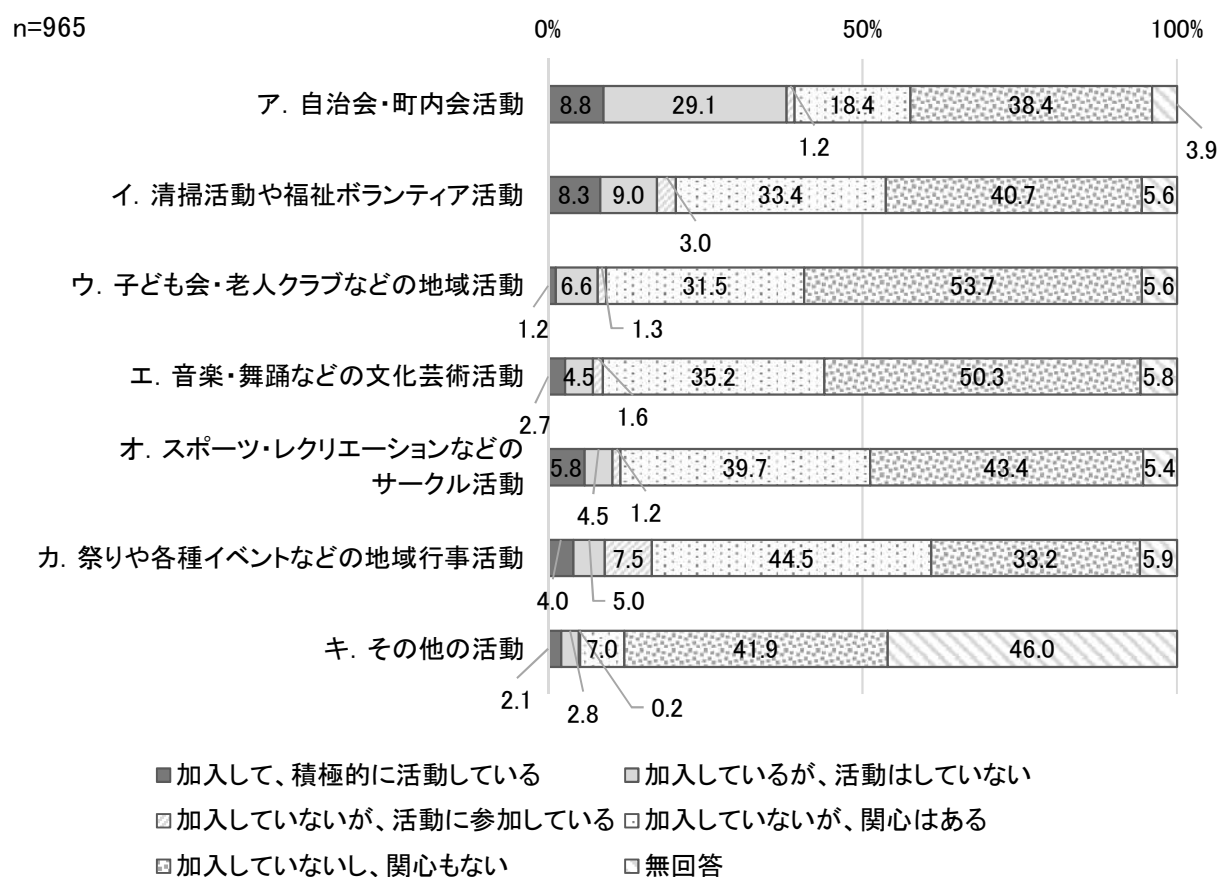


問5 あなたは日頃、地域の自治会・町内会やボランティア団体などで、コミュニティ活動を行っていますか。次の活動（ア～キ）それぞれについて1つずつ選んでください。

〈全体〉

コミュニティ活動への参加は、「加入して、積極的に活動している」の割合は「自治会・町内会活動」が8.8%で最も高く、続いて「清掃奉仕や福祉ボランティア活動」（8.3%）となっている。また、「加入しているが、活動はしていない」の割合も「自治会・町内会活動」が29.1%で最も高い。

「加入していないが、関心はある」の割合は「祭りや各種イベントなどの地域行事活動」が44.5%で最も高く、続いて「スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動」（39.7%）、「音楽・舞踊などの文化芸術活動」（35.2%）となっている。

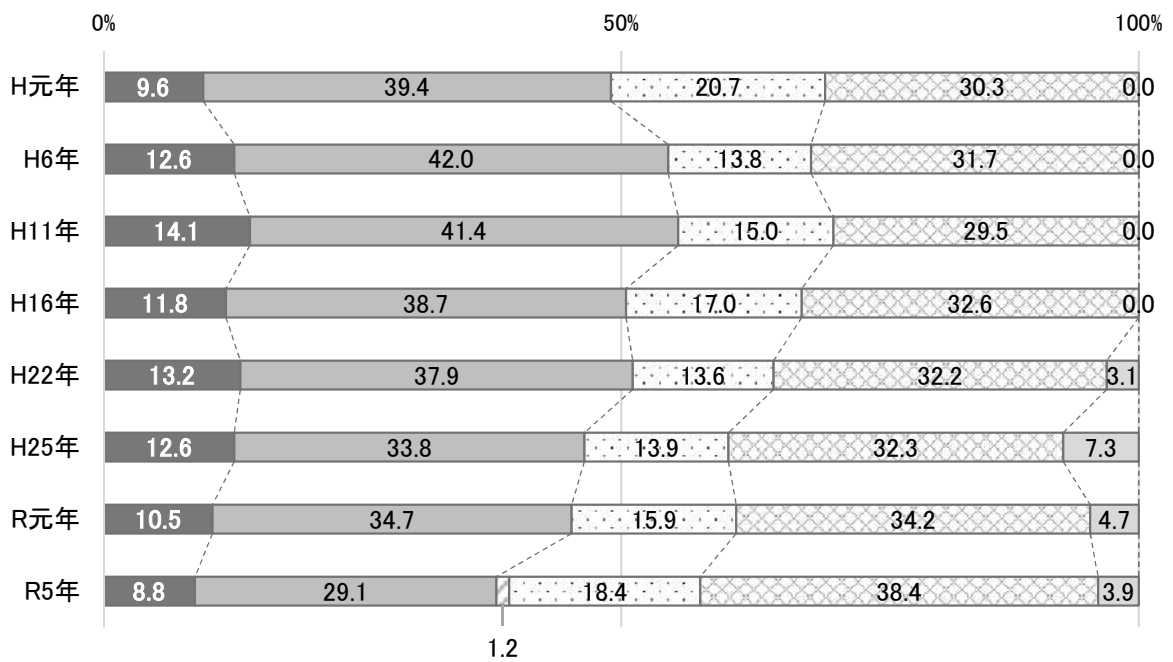


ア 自治会・町内会活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は平成 22 年以降、「加入しているが、活動はしていない」の割合は平成 11 年以降、減少傾向にある。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年以降増加している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



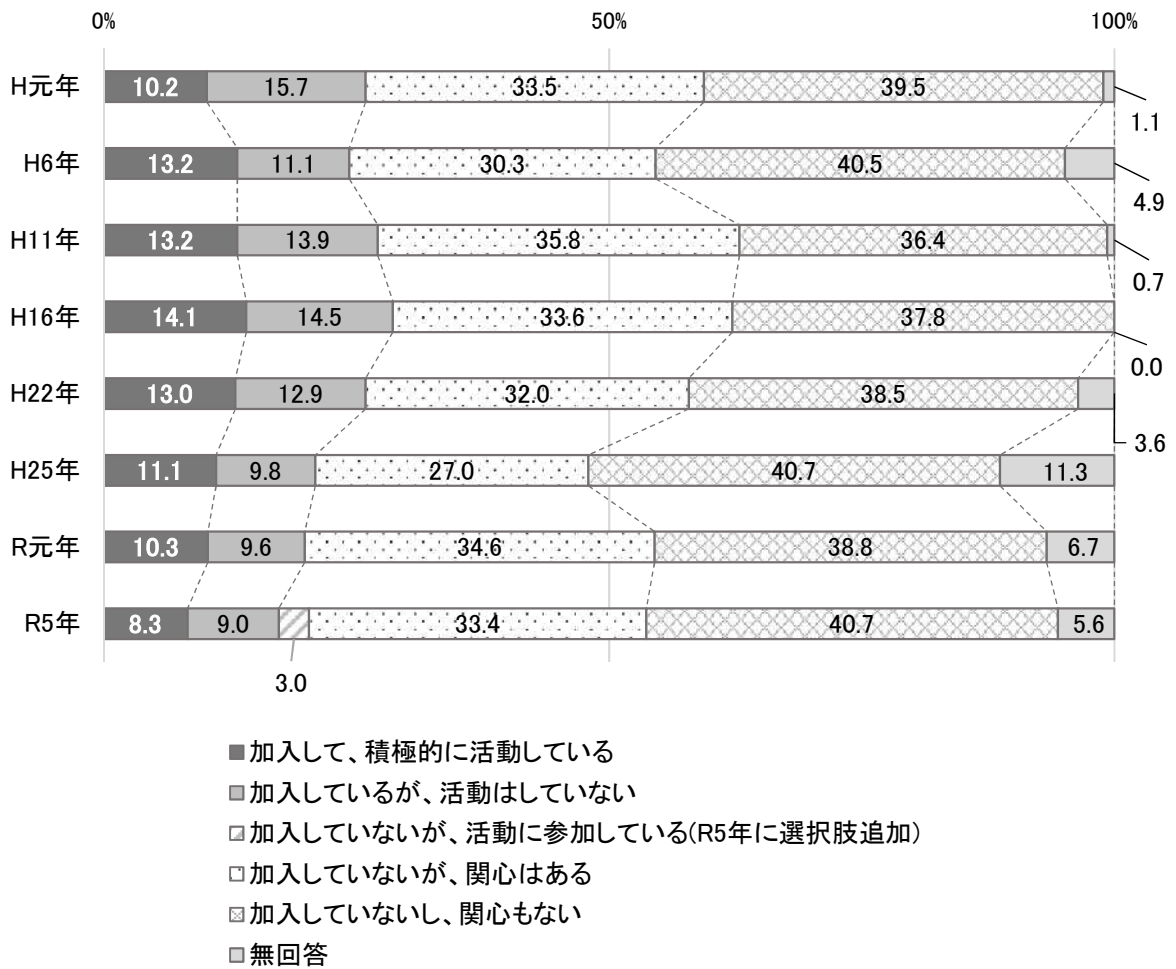
- 加入して、積極的に活動している
- ▣ 加入しているが、活動はしていない
- ▤ 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- ▥ 加入していないが、関心はある
- ▦ 加入していないし、関心もない
- 無回答

イ 清掃活動や福祉ボランティア活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」、「加入しているが、活動はしていない」の割合は平成 16 年以降、減少している。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年、増加に転じたものの、令和 5 年は横ばいである。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。

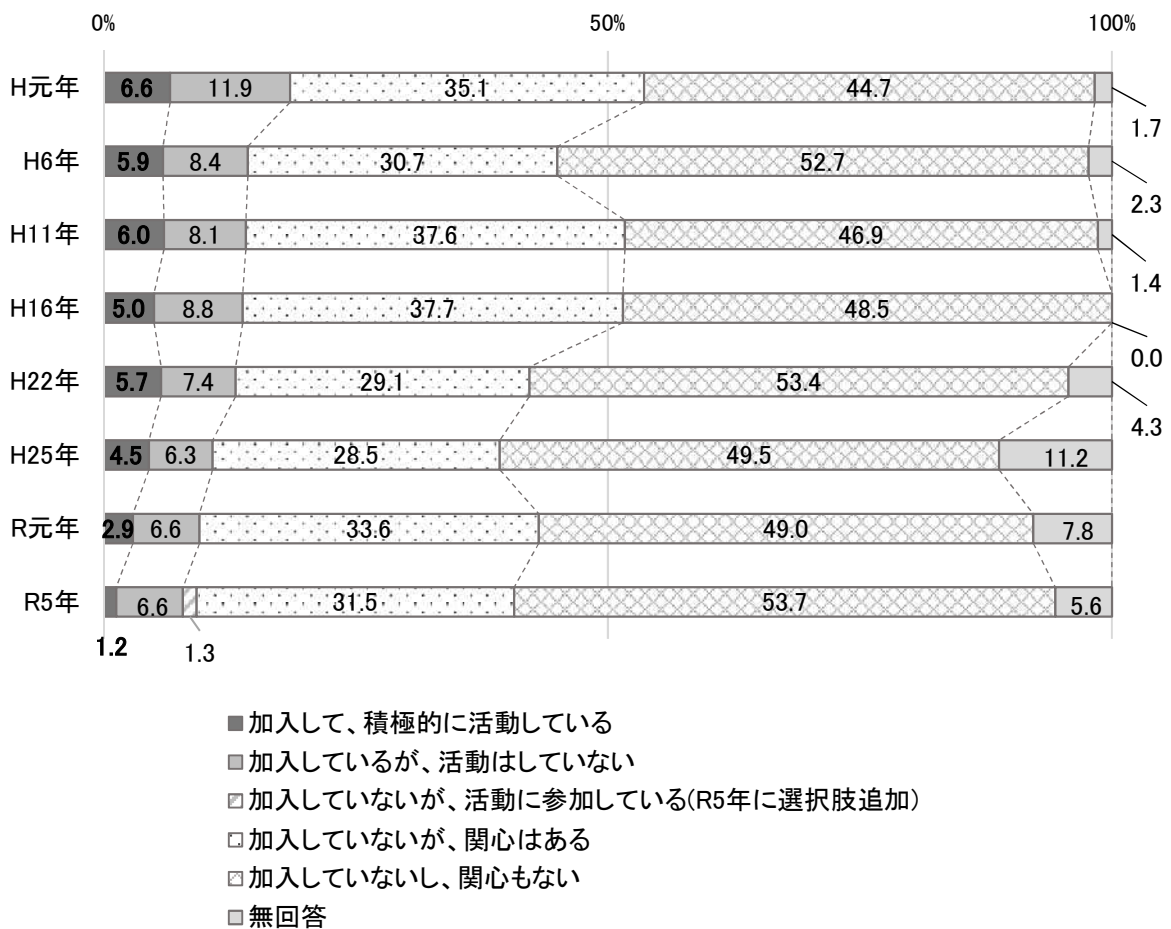


ウ 子ども会・老人クラブなどの地域活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は平成 22 年以降、減少している。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年、増加に転じたものの、令和 5 年は横ばいである。また、「加入していないし、関心もない」の割合が、令和 5 年に 50%を上回った。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。

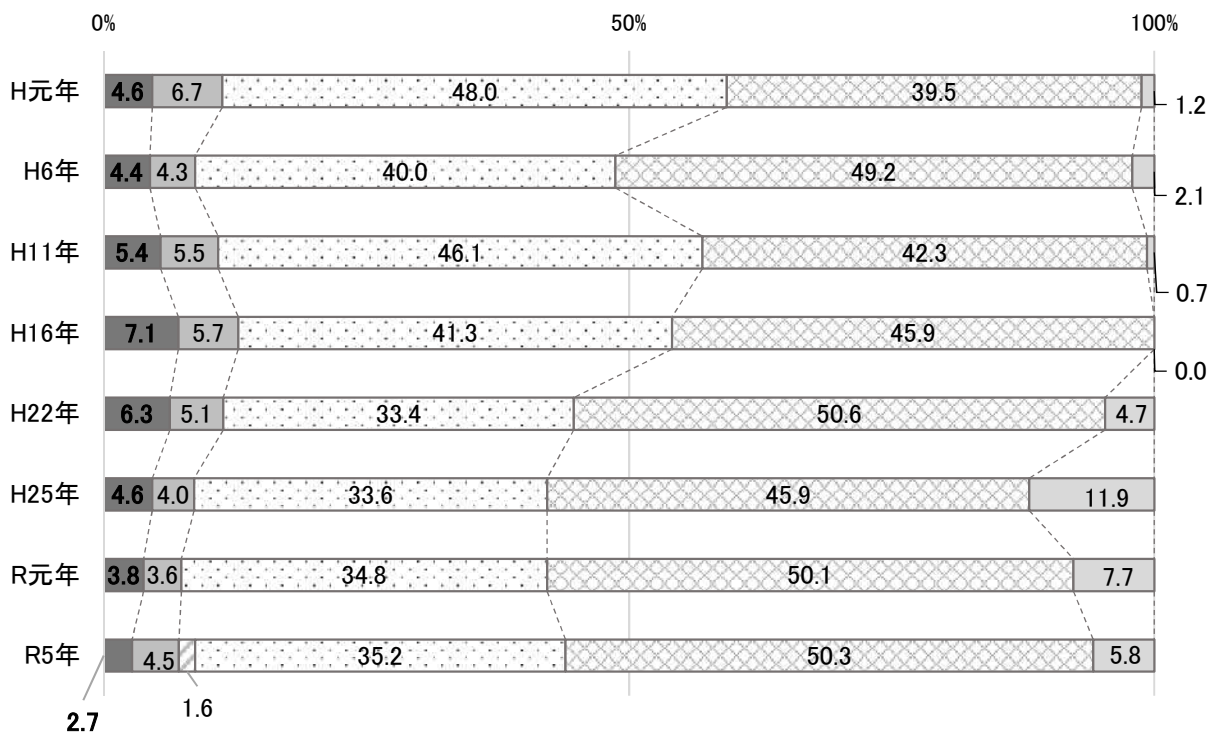


エ 音楽・舞踊などの文化芸術活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」、「加入しているが、活動はしていない」の割合は平成 16 年以降、減少している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



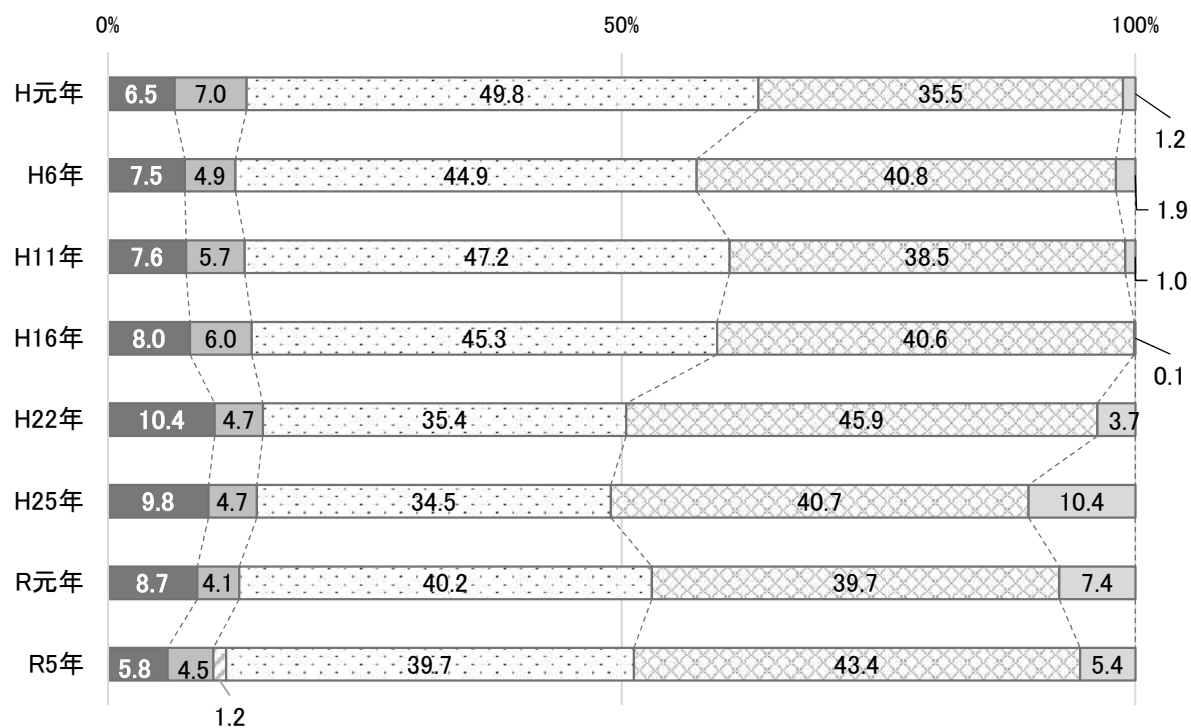
- 加入して、積極的に活動している
- 加入しているが、活動はしていない
- ▣ 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- 加入していないが、関心はある
- ▣ 加入していないし、関心もない
- 無回答

オ スポーツ・レクリエーションなどのサークル活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は平成 22 年以降、減少している。「加入しているが、活動はしていない」は、平成 22 年以降、横ばいとなっている。また、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年では増加に転じたものの、令和 5 年は横ばいである。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



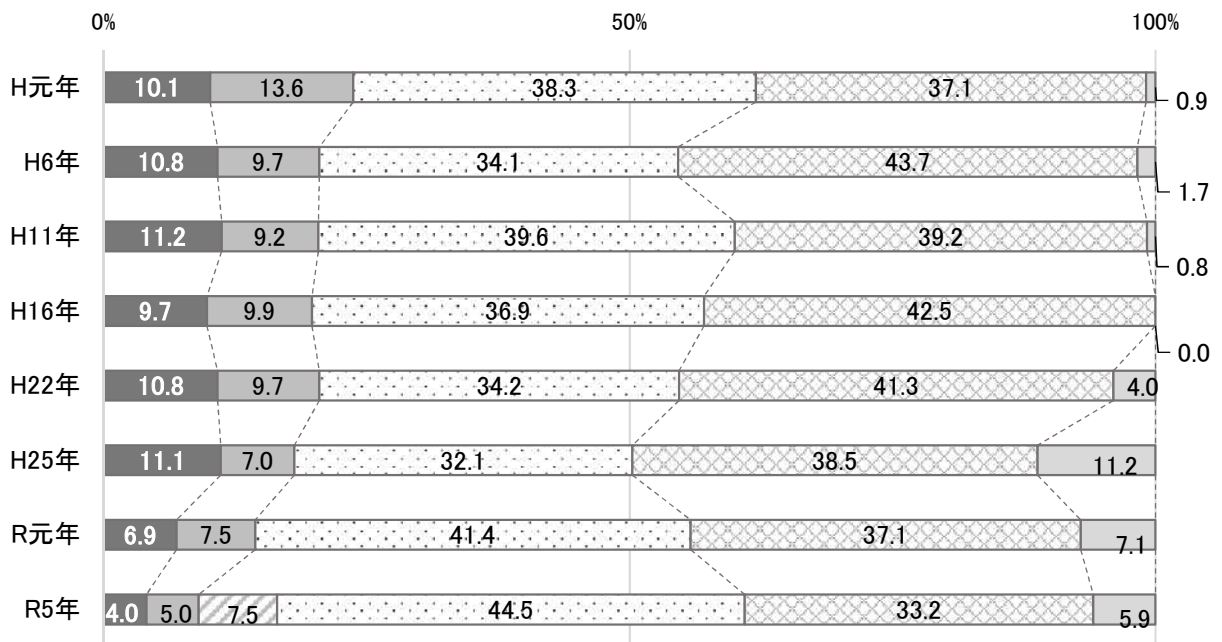
- 加入して、積極的に活動している
- 加入しているが、活動はしていない
- 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- 加入していないが、関心はある
- 加入していないし、関心もない
- 無回答

カ 祭りや各種イベントなどの地域行事活動

〈経年比較〉

「加入して、積極的に活動している」の割合は令和元年以降、減少している。一方、「加入していないが、関心はある」の割合は令和元年以降、増加している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外としている。



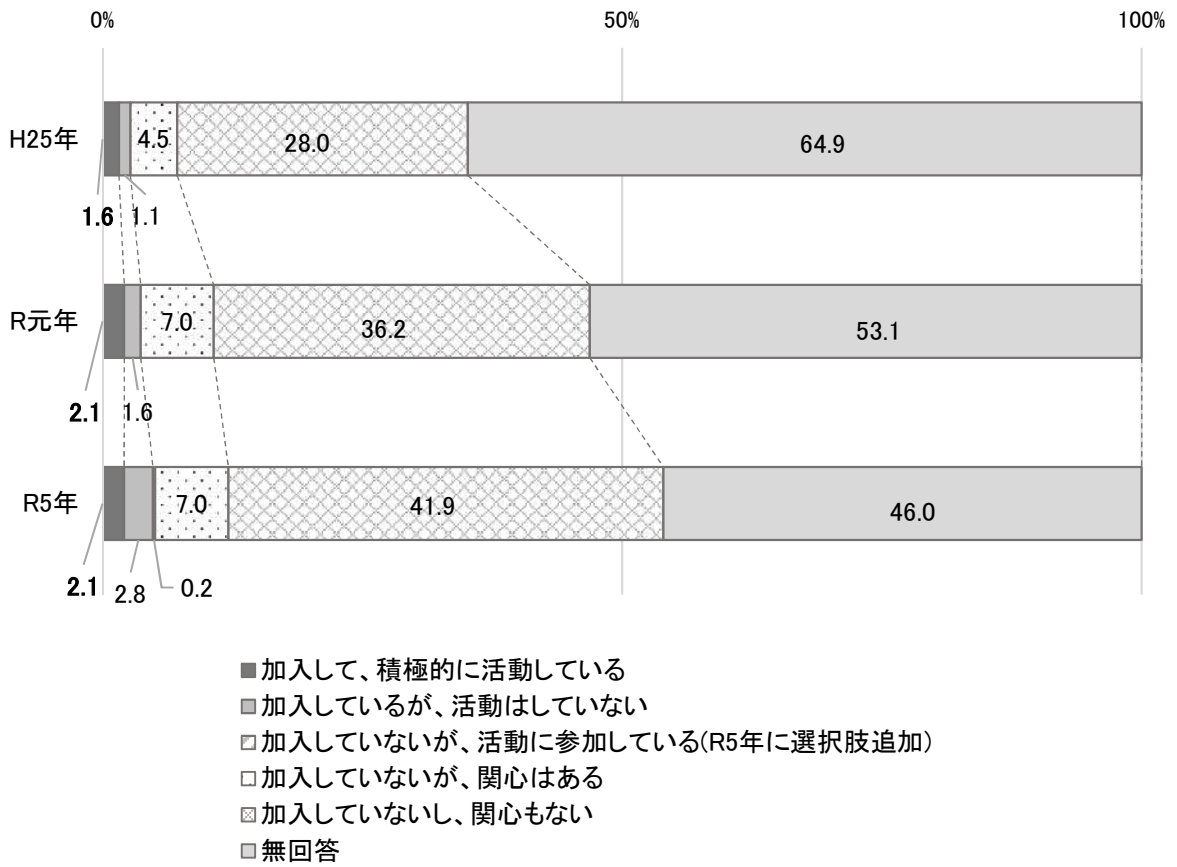
- 加入して、積極的に活動している
- 加入しているが、活動はしていない
- ▣ 加入していないが、活動に参加している(R5年に選択肢追加)
- 加入していないが、関心はある
- ▣ 加入していないし、関心もない
- 無回答

キ その他の活動

〈経年比較〉

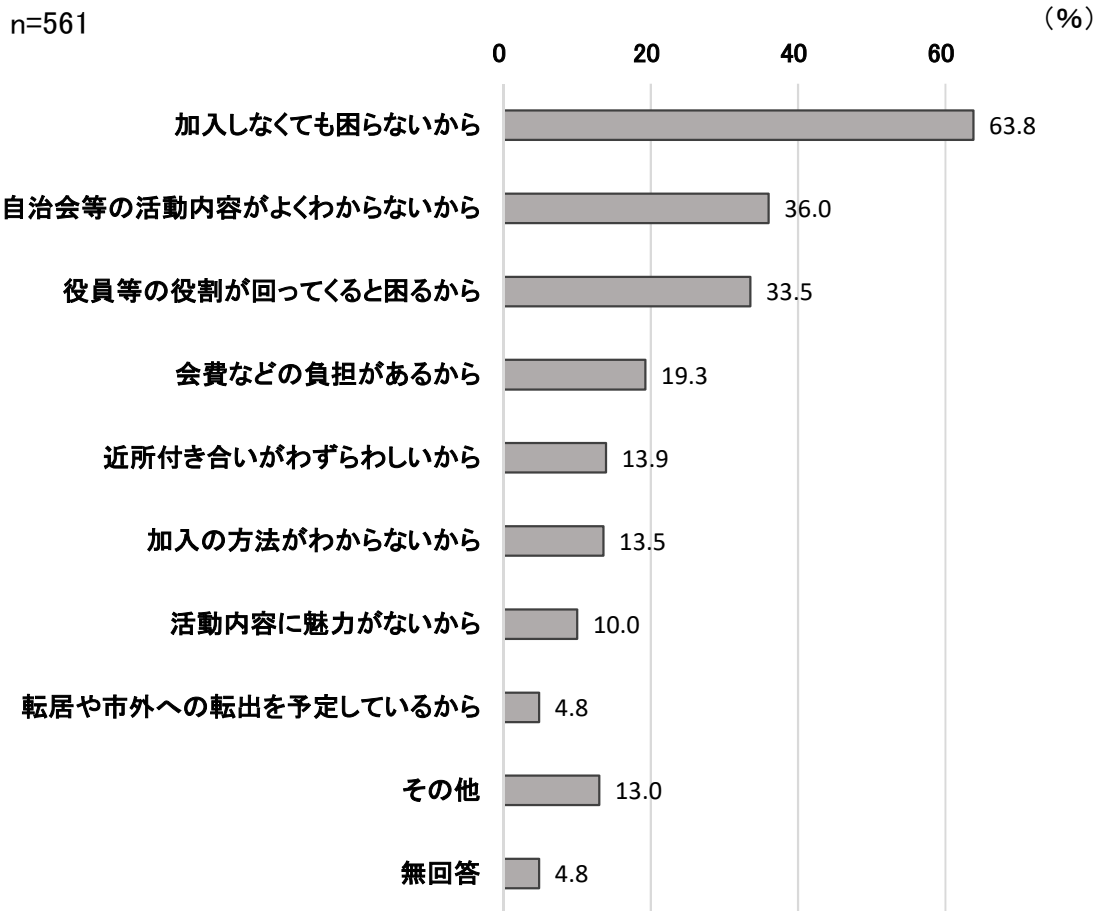
「加入していないし、関心もない」の割合が増加している。

※令和 5 年に追加した選択肢「加入していないが、活動に参加している」は、経年比較の対象外として
いる。



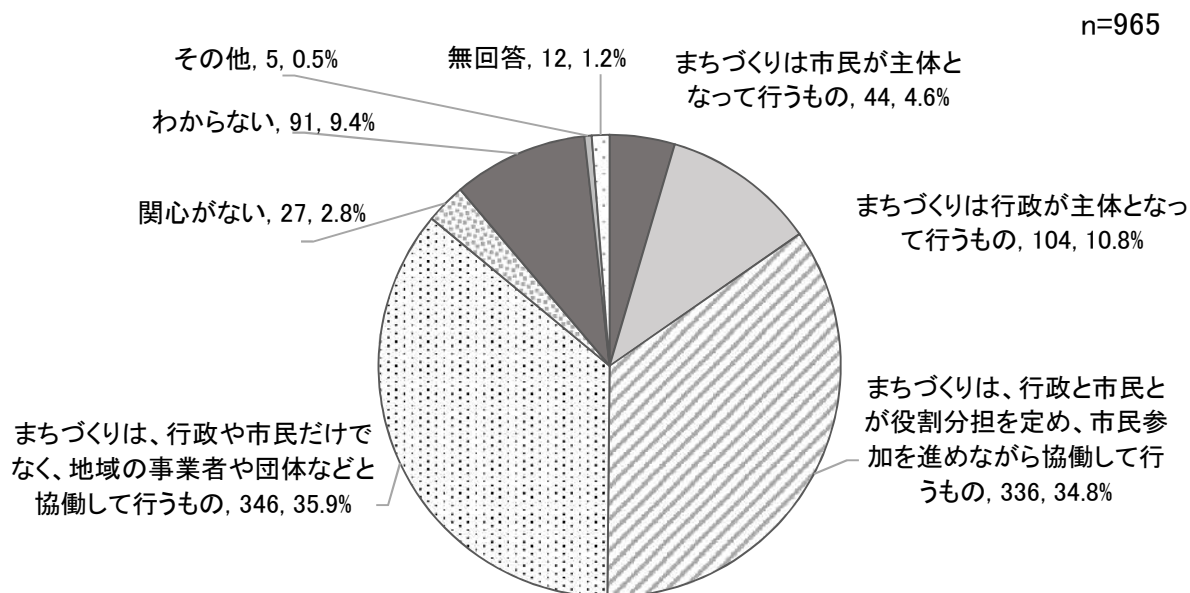
問5-1 問5の「ア自治会・町内会活動」に「加入していないが、活動に参加している」、「加入していないが、関心はある」または「加入していないし、関心もない」を選んだ方にお聞きします。加入していない理由は何ですか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

加入していない理由は、「加入しなくても困らないから」の割合が63.8%で最も高く、続いて「自治会等の活動内容がよくわからないから」(36.0%)、「役員等の役割が回ってくると困るから」(33.5%)となっている。



問6 まちづくり（住みよい地域づくりのための取組）の役割分担に関して、あなたの考えに最も近いものを次の中から1つ選んでください。

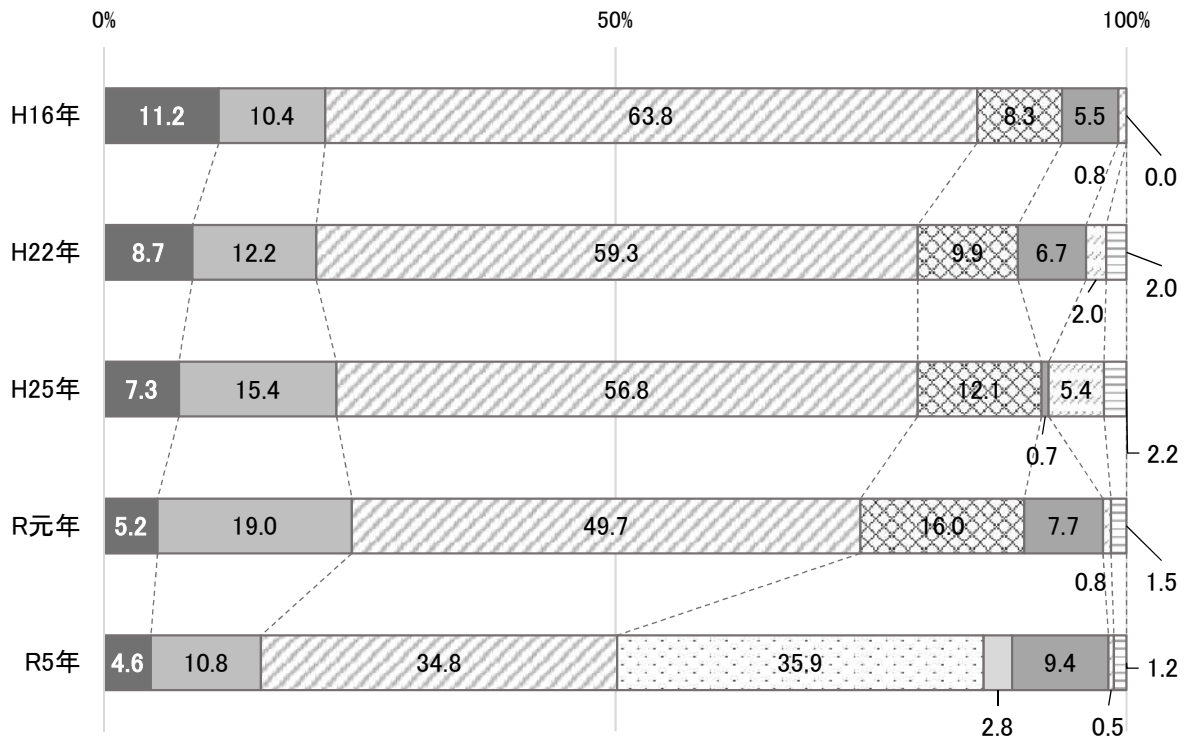
まちづくりの役割分担について、「まちづくりは、行政や市民だけでなく、地域の事業者や団体などと協働して行うもの」の割合が35.9%、「まちづくりは、行政と市民とが役割分担を定め、市民参加を進めながら協働して行うもの」の割合が34.8%で高い。



〈経年比較〉

「まちづくりは行政が主体となって行うもの」の割合は、平成 16 年以降、増加していたが、令和 5 年に減少に転じている。一方、「まちづくりは市民が主体となって行うもの」、「まちづくりは、行政と市民とが役割分担を定め、市民参加を進めながら協働して行うもの」の割合は、平成 16 年以降、減少している。

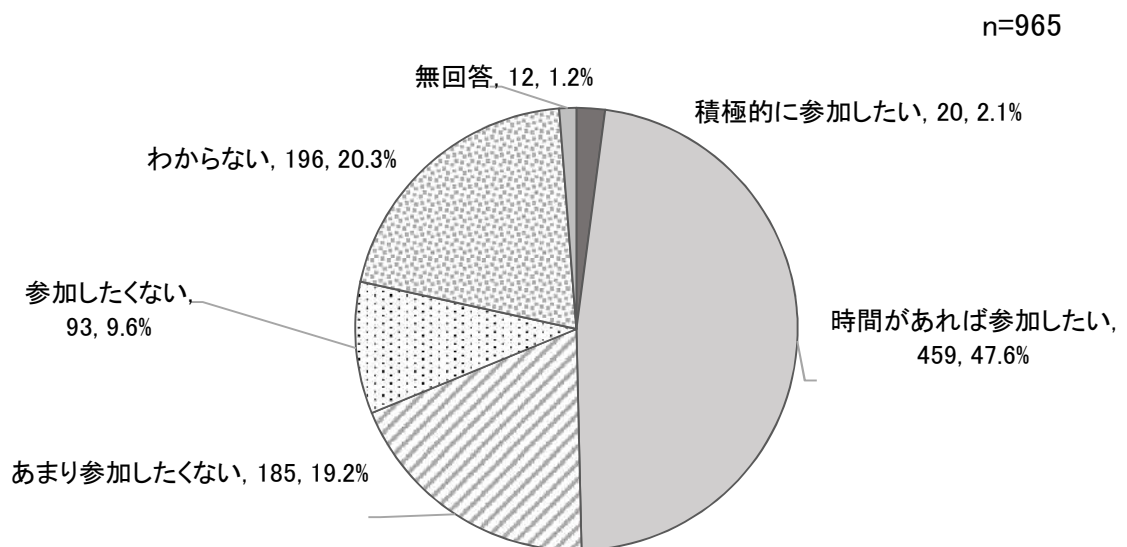
※令和 5 年に追加した選択肢「まちづくりは、行政や市民だけでなく、地域の事業者や団体などと協働して行うもの」、「関心がない」と、令和 5 年に削除した選択肢「民間事業者にまかせられる事業については、なるべく民間事業者にまかせる」は、経年比較の対象外としている。



- まちづくりは市民が主体となって行うもの
- まちづくりは行政が主体となって行うもの
- まちづくりは、行政と市民とが役割分担を定め、市民参加を進めながら協働して行うもの
- まちづくりは、行政や市民だけでなく、地域の事業者や団体などと協働して行うもの (R5年に選択肢追加)
- 民間事業者にまかせられる事業については、なるべく民間事業者にまかせる (R5年に選択肢削除)
- 関心がない (R5年に選択肢追加)
- わからない
- その他
- 無回答

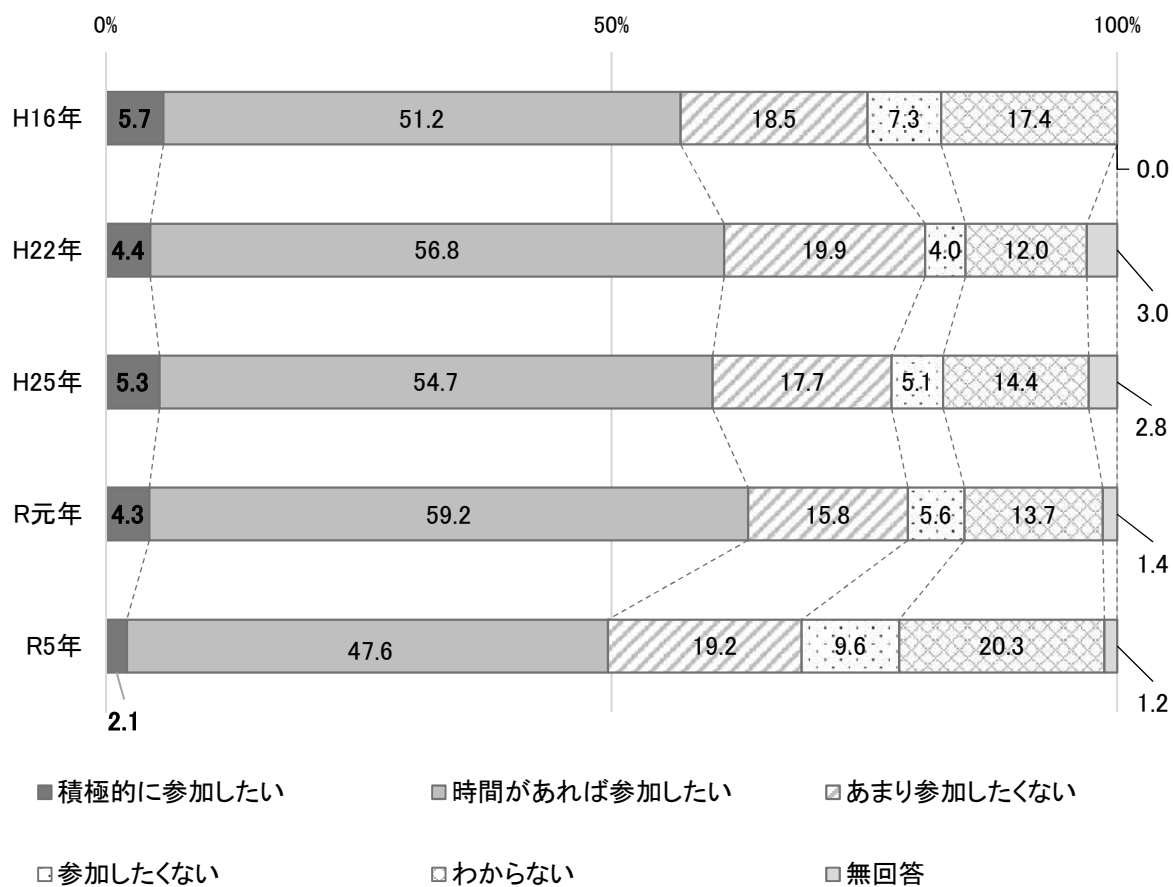
問7 今後、あなたのまちづくりに対する意欲を次の中から1つ選んでください。

今後のまちづくりに対する意欲は、「時間があれば参加したい」の割合が47.6%で最も高く、続いて「わからない」(20.3%)、「あまり参加したくない」(19.2%)となっている。



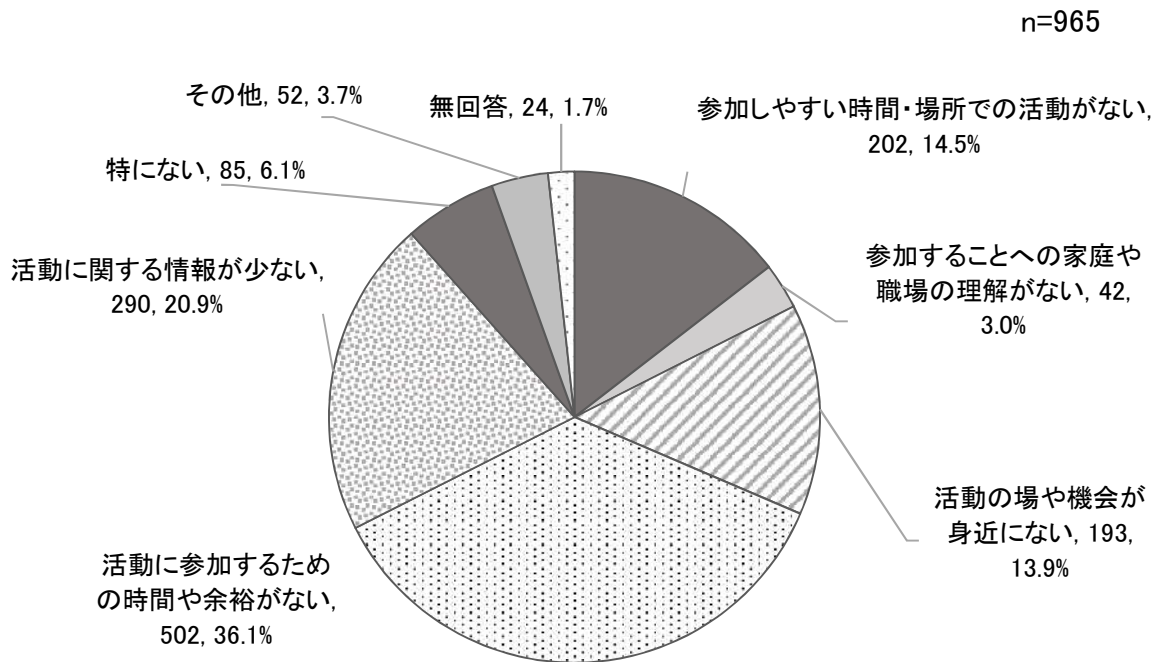
〈経年比較〉

「積極的に参加したい」と「時間があれば参加したい」を合わせた割合は、令和元年に増加に転じたものの、令和5年に大きく減少した。また、「あまり参加したくない」の割合も平成22年以降、減少していたが、令和5年に増加した。



問8 あなたが、まちづくりに参加するためには、どのようなことが障害となりますか。次の中から2つまで選んでください。

まちづくりに参加するための障害は、「活動に参加するための時間や余裕がない」の割合が36.1%で最も高く、続いて「活動に関する情報が少ない」(20.9%)、「参加しやすい時間・場所での活動がない」(14.5%)、「活動の場や機会が身近にない」(13.9%)となっている。



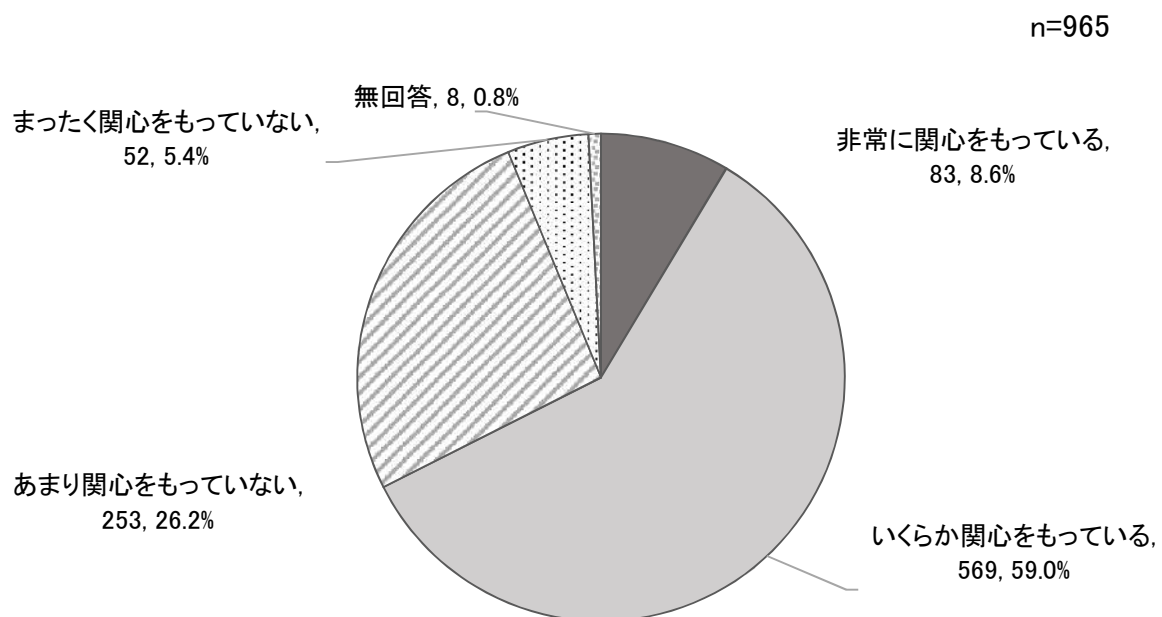
3. 市政について

問9 あなたの市政に対する関心の度合いを次の中から1つ選んでください。

〈全体〉

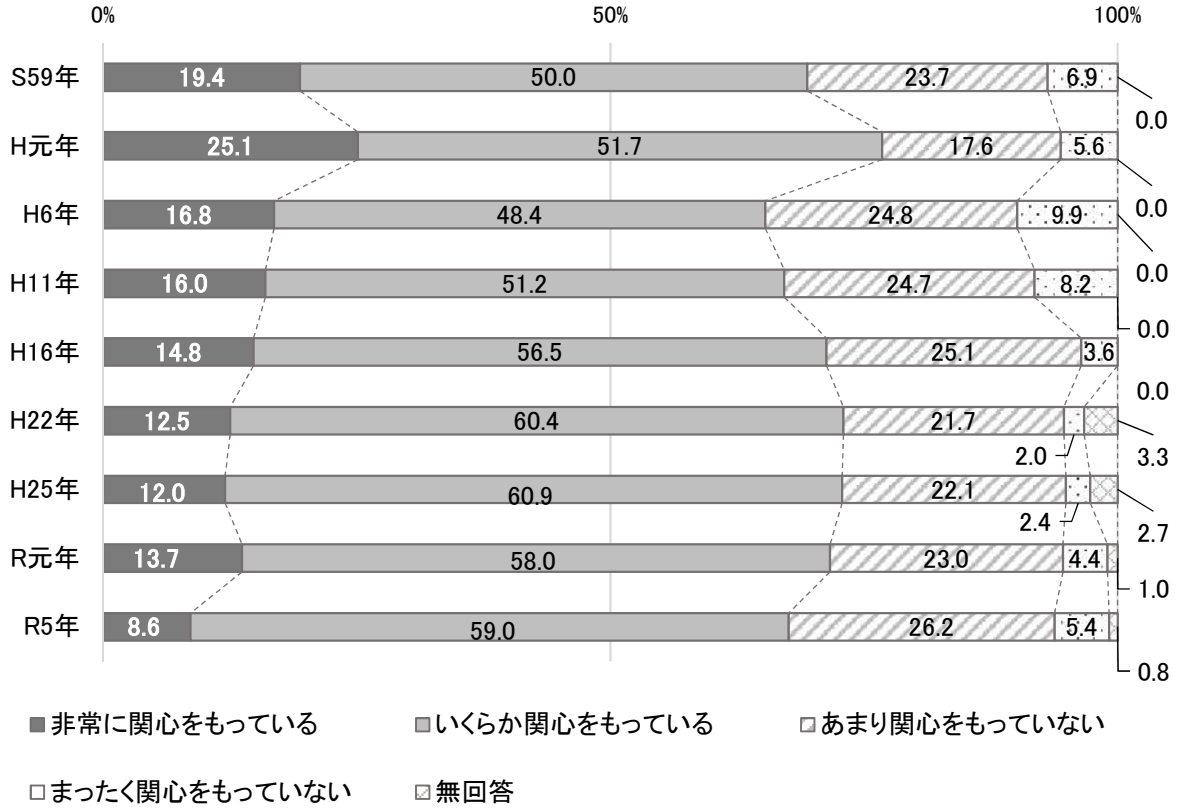
市政に対する関心は、「いくらか関心をもっている」の割合が59.0%で最も高く、続いて「あまり関心をもっていない」(26.2%)、「非常に関心をもっている」(8.6%)、「まったく関心をもっていない」(5.4%)となっている。

「非常に関心をもっている」と「いくらか関心をもっている」を合わせた“関心がある”の割合は約70%である。



〈経年比較〉

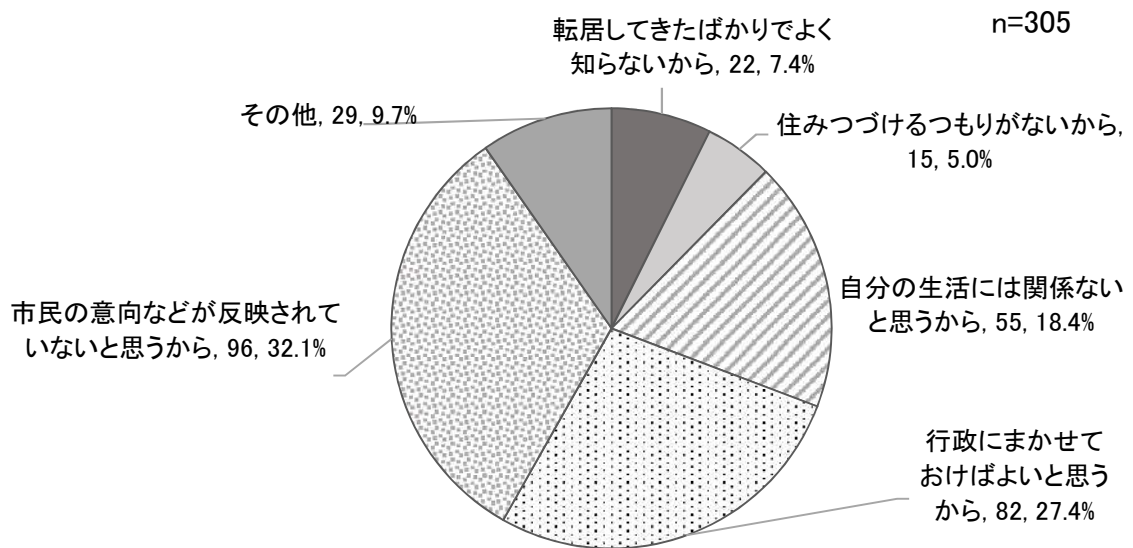
「非常に関心をもっている」の割合は、平成元年以降、減少傾向にある。「いくらか関心をもっている」と合わせた“関心がある”割合は、平成11年以降増加がみられたが、令和元年以降減少している。



問9-1 問9で「あまり関心をもっていない」「まったく関心をもっていない」を選んだ方にお聞きします。あなたが市政に関心がないのはどのような理由からですか。次の中から1つ選んでください。

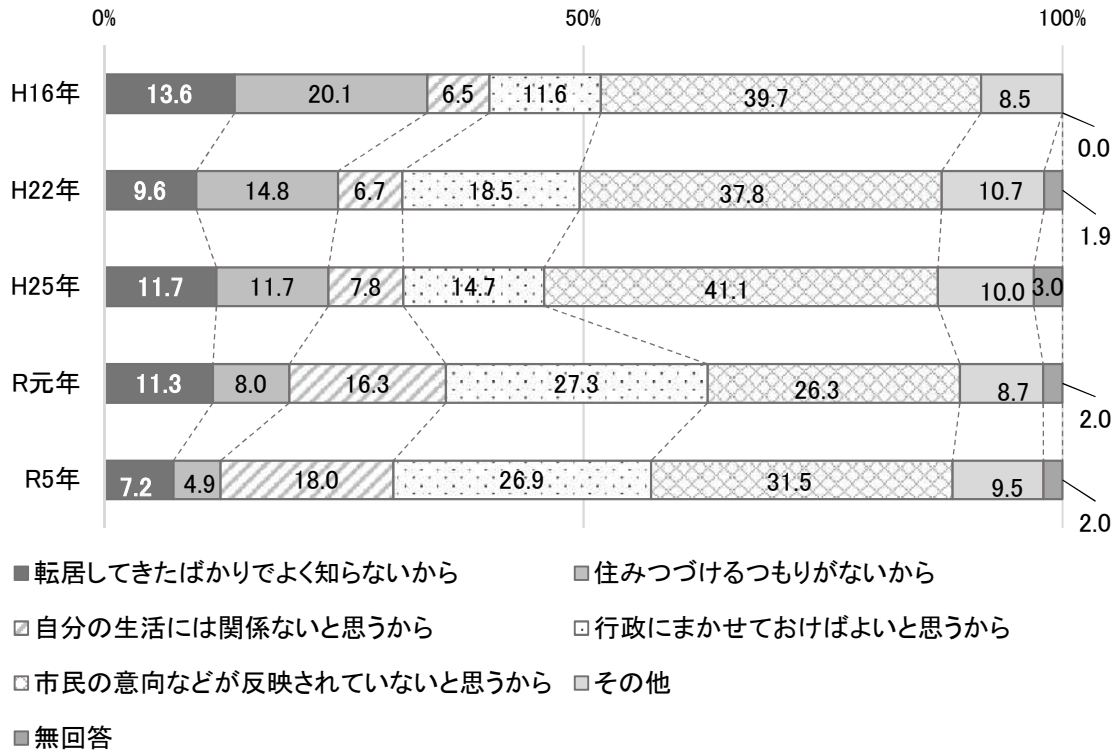
〈全体〉

市政に関心がない理由は、「市民の意向などが反映されていないと思うから」の割合が32.1%で最も高く、続いて「行政にまかせておけばよいと思うから」(27.4%)、「自分の生活には関係ないと思うから」(18.4%)となっている。



〈経年比較〉

「住み続けるつもりがないから」の割合は平成 16 年以降、減少している。一方、「自分の生活には関係ないと思うから」の割合は平成 16 年以降、増加している。また、「行政にまかせておけばよいから」の割合は令和元年に増加に転じ、令和 5 年も同程度となっている。

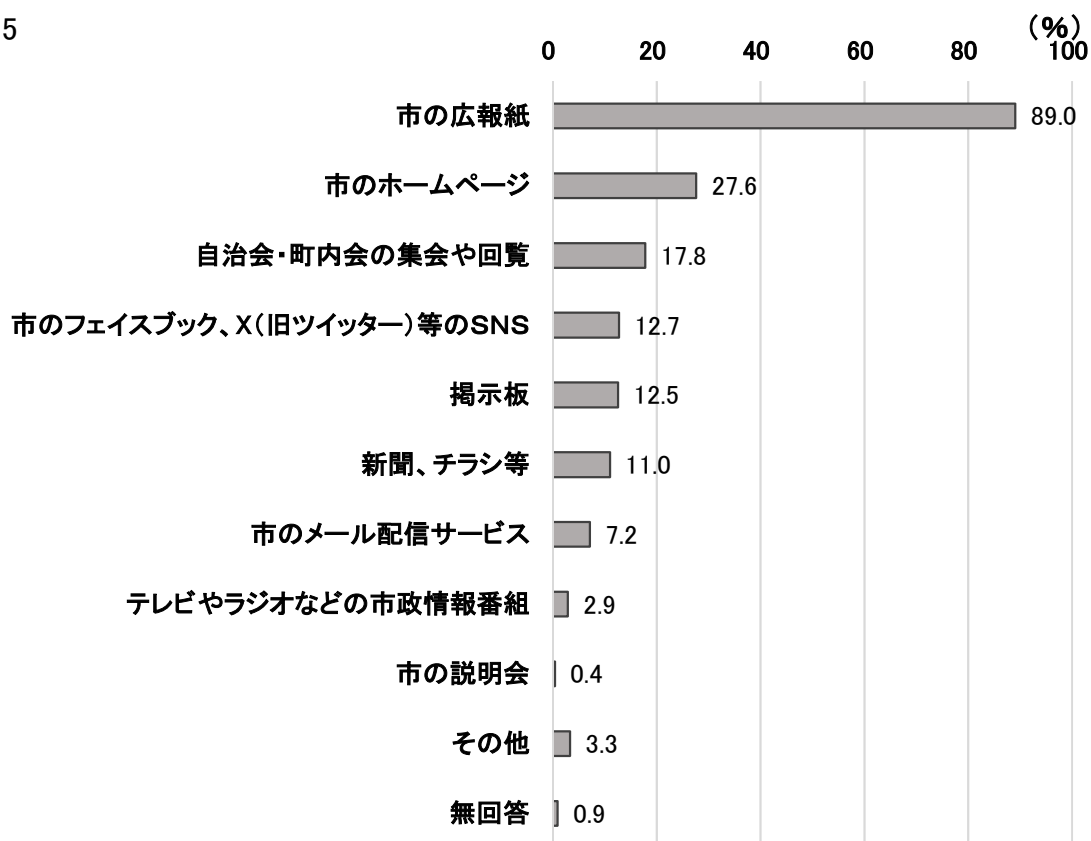


問10 あなたは、普段、市政情報（市が発信する情報、市からのお知らせ）をどのような媒体で入手していますか。次の中からすべて選んでください。

〈全体〉

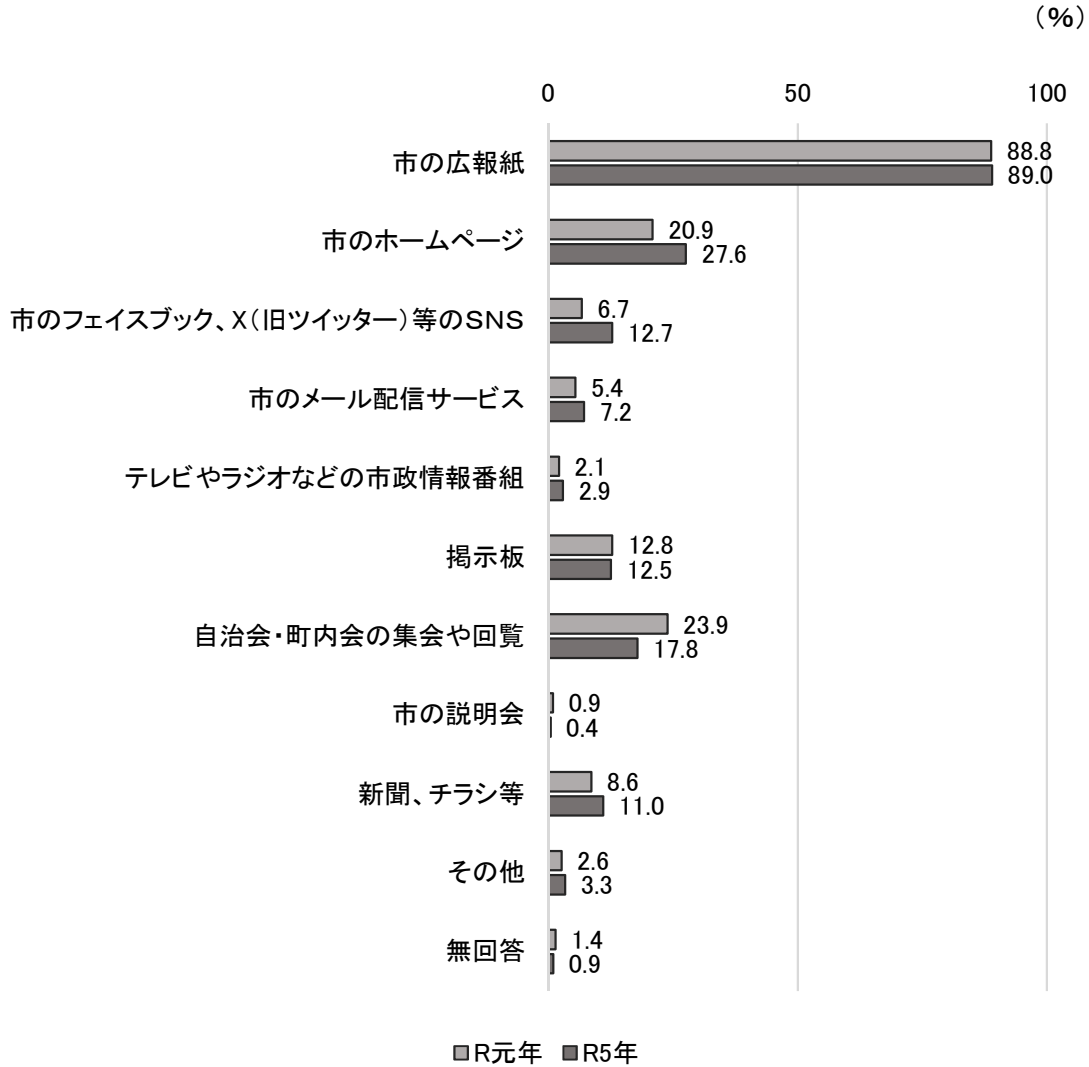
市政情報の入手媒体は、「市の広報紙」の割合が89.0%で最も高く、続いて「市のホームページ」（27.6%）、「自治会・町内会の集会や回覧」（17.8%）、「市のフェイスブック、X（旧ツイッター）等のSNS」（12.7%）となっている。

n=965



〈経年比較〉

市政情報の入手媒体は、「市のホームページ」、「市のフェイスブック、X(旧ツイッター)等のSNS」の割合が5ポイント以上増加している。一方で、「自治会・町内会の集会や回覧」は減少している。

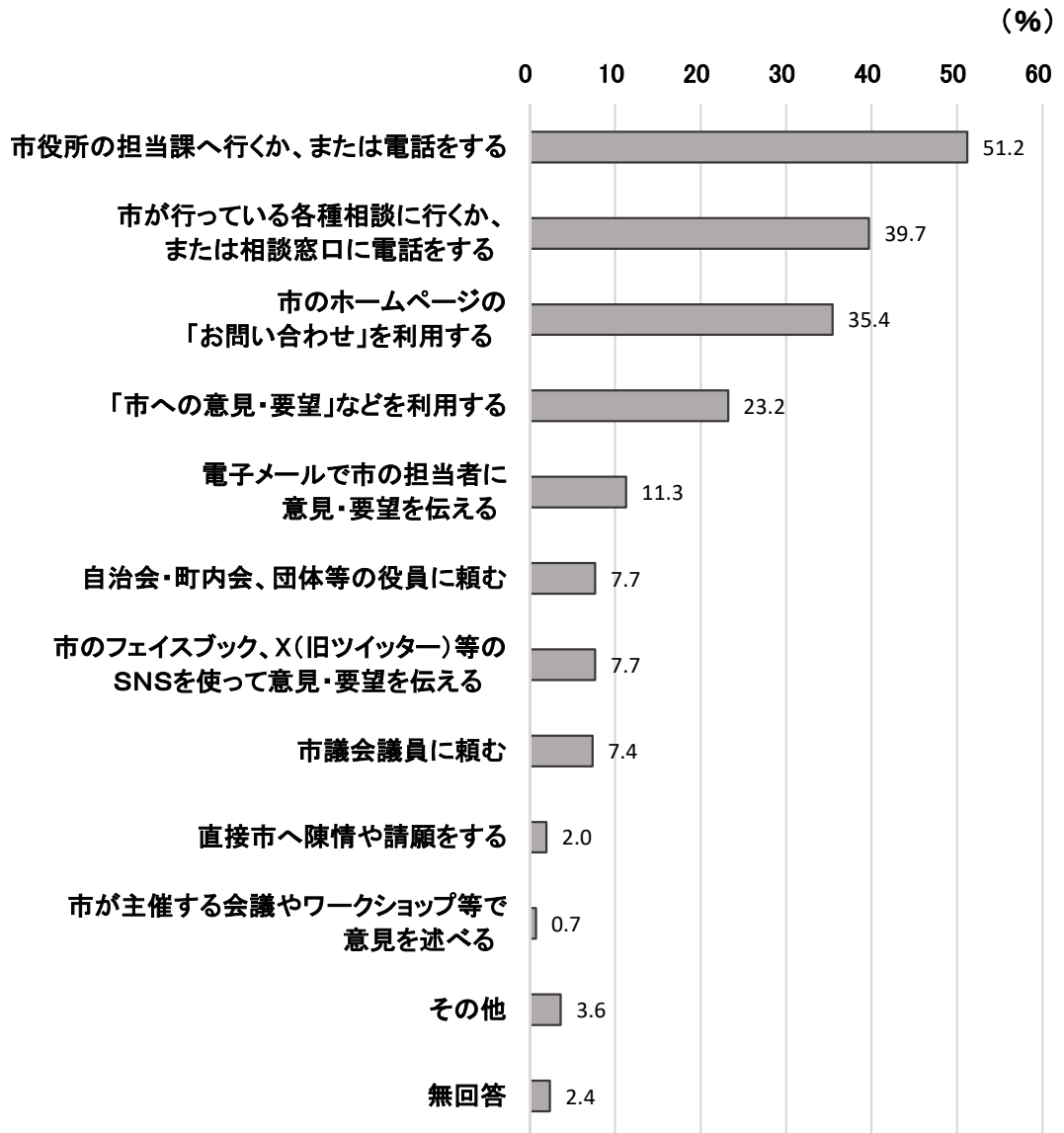


問11 あなたは、意見や要望などを市に伝えたい場合はどのような手段を選びますか。次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

市への意見や要望の伝達手段は、「市役所の担当課へ行くか、または電話をする」の割合が51.2%で最も高く、続いて「市が行っている各種相談に行くか、または相談窓口で電話をする」(39.7%)、「市のホームページの「お問い合わせ」を利用する」(35.4%)となっている。

n=965

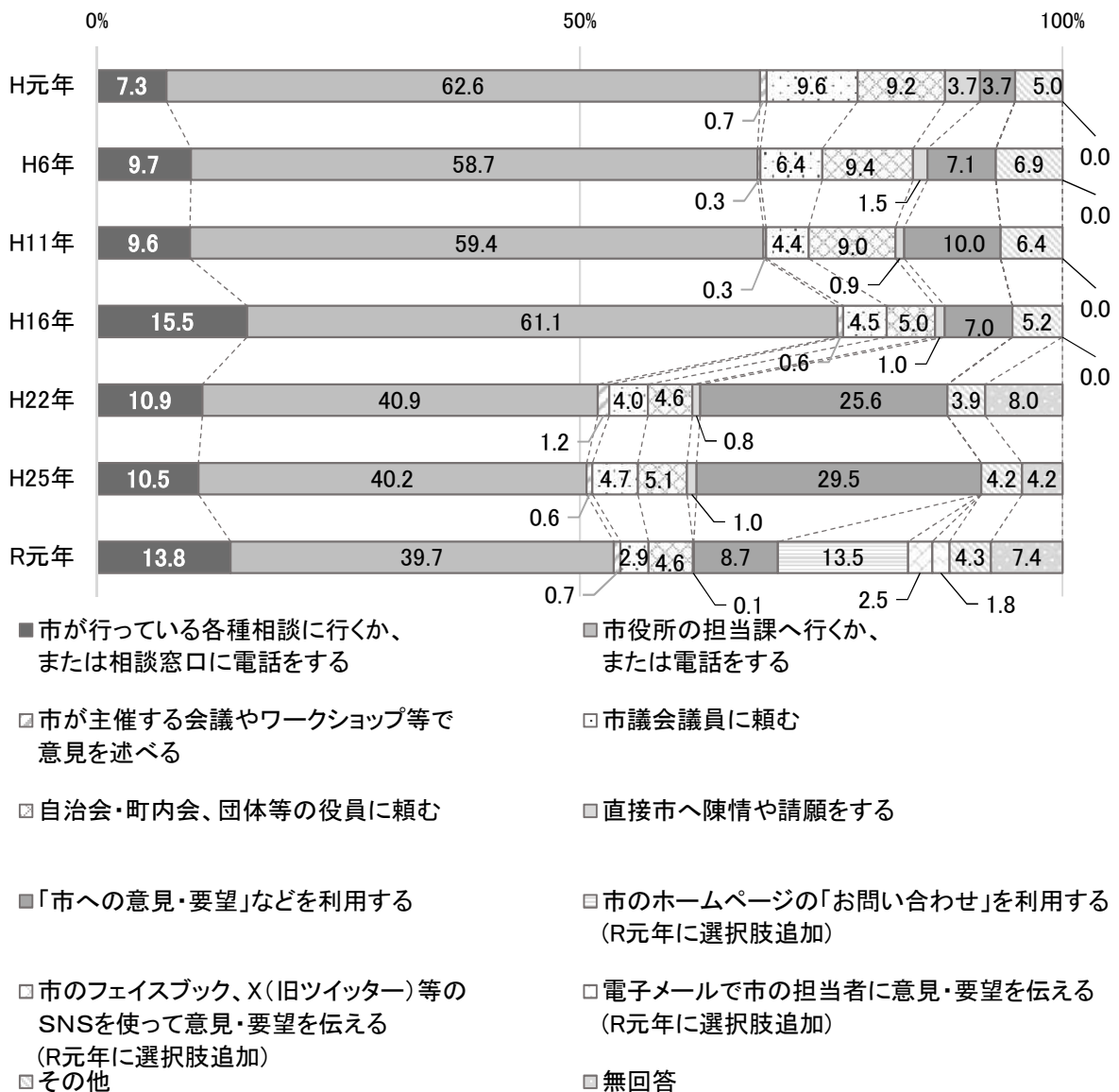


〈経年比較〉

「市が行っている各種相談に行くか、または相談窓口で電話をする」の割合は平成 16 年以降、減少していたが、令和元年に増加に転じている。一方、「『市への意見・要望』などを利用する」の割合は平成 16 年以降、増加していたが、令和元年に減少に転じている。

※選択肢「市のホームページの「お問い合わせ」を利用する」、「市のフェイスブック、X(旧ツイッター)等の SNS を使って意見・要望を伝える」、「電子メールで市の担当者に意見・要望を伝える」は、令和元年に追加したため、経年比較の対象外としている。

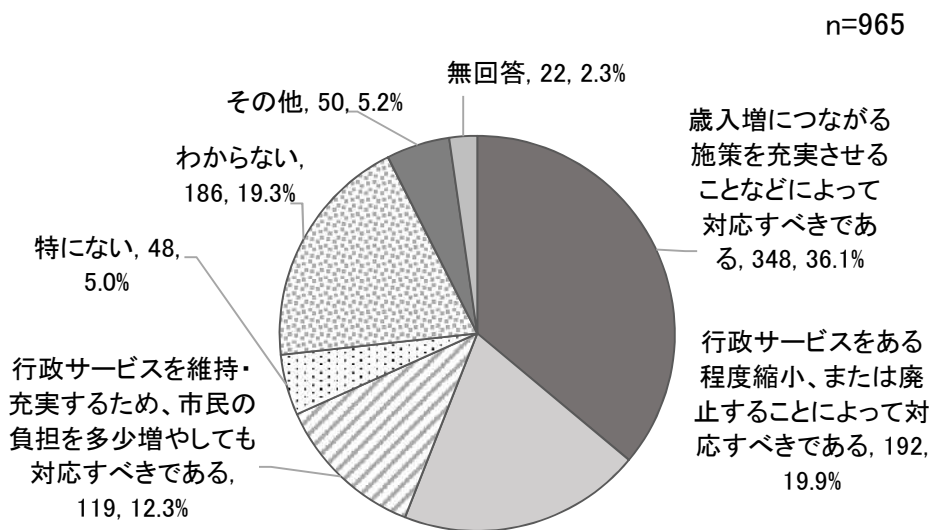
※令和 5 年に、単一回答から複数回答に変更しているため、過去の調査は参考として示す。



問12 今後、少子高齢化の進展により社会保障に関する支出の増加が見込まれるなど、市の財政状況がより厳しくなっていくことが予想されます。市が提供しているサービスの維持・充実について、市の努力で対応できる範囲を超えることがあった場合、どのように対応すべきだと思いますか。あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

〈全体〉

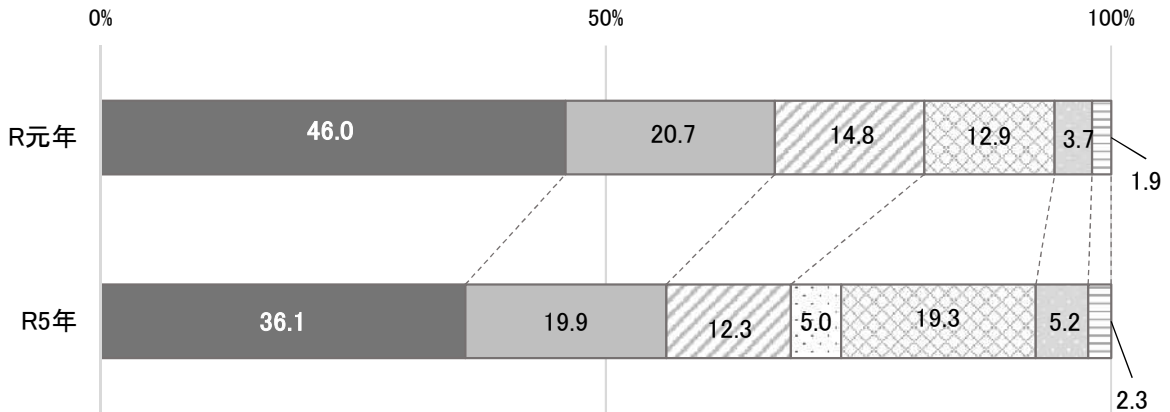
行政サービスの維持・充実の考え方については、「歳入増につながる施策を充実させることなどによって対応すべきである」の割合が36.1%で最も高く、続いて「行政サービスをある程度縮小、または廃止することによって対応すべきである」(19.9%)、「行政サービスを維持・充実するため、市民の負担を多少増やしても対応すべきである」(12.3%)、「わからない」(19.3%)となっている。



〈経年比較〉

「歳入増につながる施策を充実させることなどによって対応すべきである」、「行政サービスをある程度縮小、または廃止することによって対応すべきである」、「行政サービスを維持・充実するため、市民の負担を多少増やしても対応すべきである」の割合が減少し、「わからない」の割合が増加した。

※選択肢「特にない」は、令和5年に追加したため、経年比較の対象外としている。



- 歳入増につながる施策を充実させることなどによって対応すべきである
- 行政サービスをある程度縮小、または廃止することによって対応すべきである
- 行政サービスを維持・充実するため、市民の負担を多少増やしても対応すべきである
- 特にない
- ⊠ わからない
- その他
- 無回答

4. 市の全般的な取組について

問13 以下に示す第5次朝霞市総合計画の政策分野ごとの取組（1から31）について、それぞれどのように感じていますか。次の取組ごとに、当てはまる番号を1つずつ選んでください。

第5次朝霞市総合計画前期基本計画の分野ごとの取組 31 項目のそれぞれについて、満足度と重要度を調査した。

〈満足度・全体〉

「満足している」と「ある程度満足している」を合わせた割合が高く、5 割を超えている取組は、「廃棄物処理」（58.7%）、「上下水道整備」（56.9%）、「防災・消防」（54.2%）の 3 項目である。

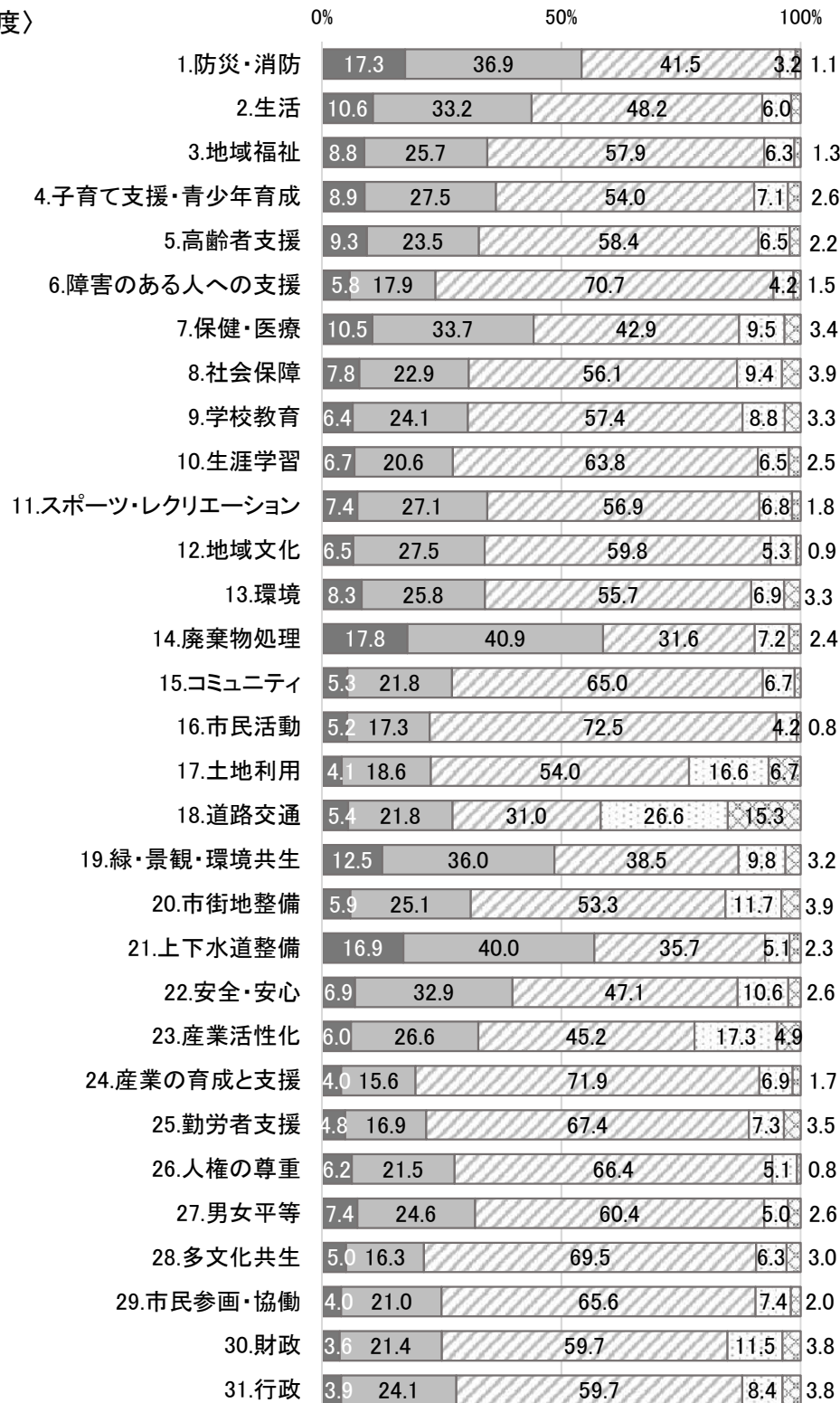
また、「やや不満である」と「不満である」を合わせた割合が高く、2 割を超えている取組は、「道路交通」（41.8%）、「土地利用」（23.3%）、「産業活性化」（22.2%）の 3 項目である。

〈重要度・全体〉

「重要である」と「どちらかといえば重要である」を合わせた割合が高く、8 割を超えている取組は、「防災・消防」（91.7%）、「生活」（88.1%）、「道路交通」（87.2%）、「保健・医療」（87.0%）、「廃棄物処理」（86.8%）、「上下水道整備」（83.6%）、「子育て支援・青少年育成」（83.1%）、「安全・安心」（82.5%）、「高齢者支援」（81.7%）、「学校教育」（81.5%）、「緑・景観・環境共生」（80.4%）、「地域福祉」（80.0%）の 12 項目である。

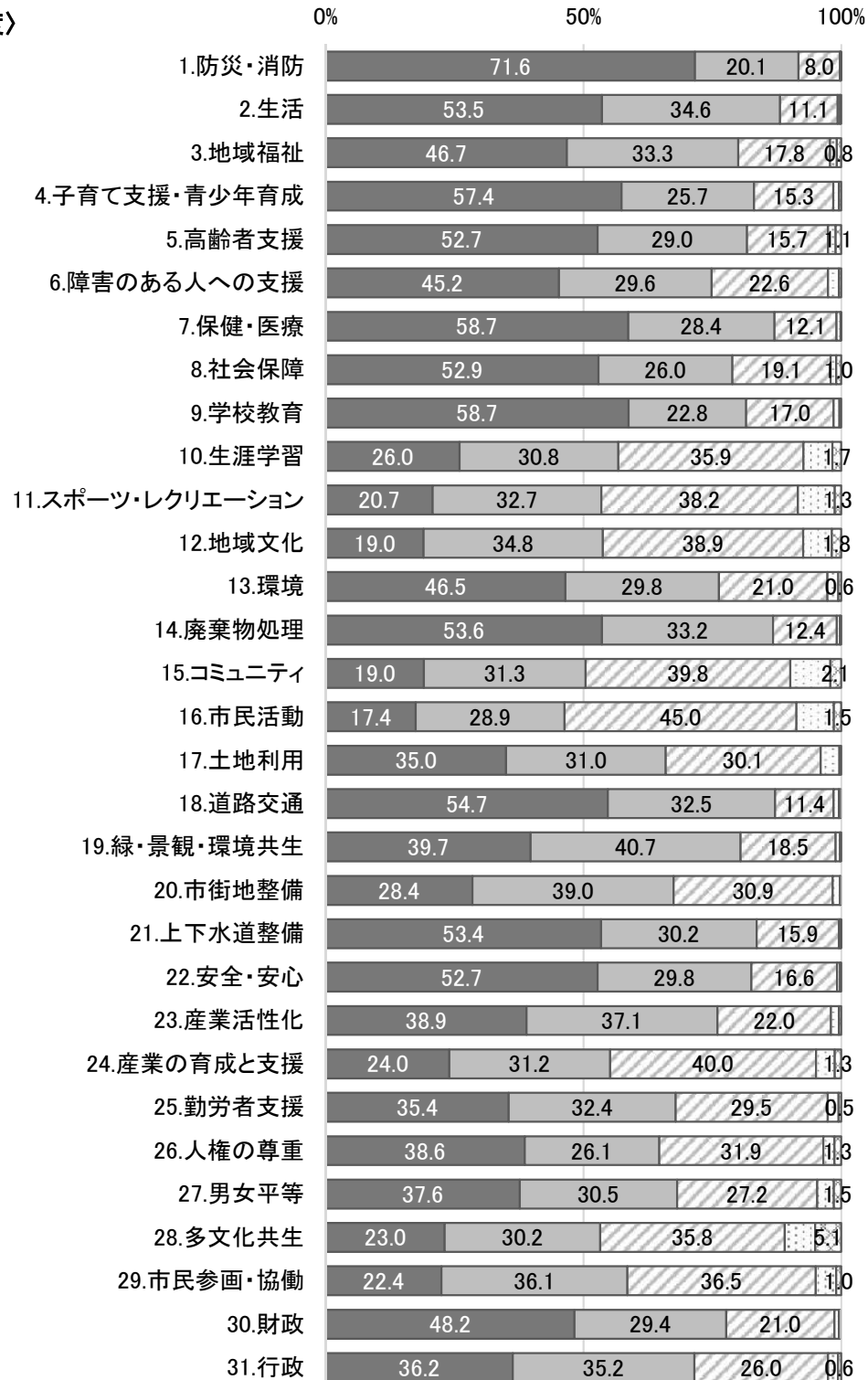
また、「あまり重要でない」と「重要でない」を合わせた割合が高く、1割を超えている取組は、「多文化共生」（11.1%）の1項目であり、次いで、「コミュニティ」（9.9%）、「市民活動」（8.7%）、「スポーツ・レクリエーション」（8.4%）が高い。

〈満足度〉



満足している
 まあ満足している
 どちらともいえない
 やや不満である
 不満である
 無回答

〈重要度〉



- 重要である □ やや重要である □ どちらともいえない
- あまり重要でない □ 重要でない ■ 無回答

(2) 各分野の取組に対する満足度・重要度（加重平均）

市の全般的な取組について、各分野の取組に対する満足度・重要度の評価について、下記のとおり無回答を除く回答者の加重平均値を求め、数値化した。

<満足度> <重要度> <ポイント>

A:「満足している」 A:「重要である」 2ポイント

B:「ある程度満足している」 B:「どちらかといえば重要である」 1ポイント

C:「わからない」 C:「わからない」 0ポイント

D:「やや不満である」 D:「あまり重要でない」 -1ポイント

E:「不満である」 E:「重要でない」 -2ポイント

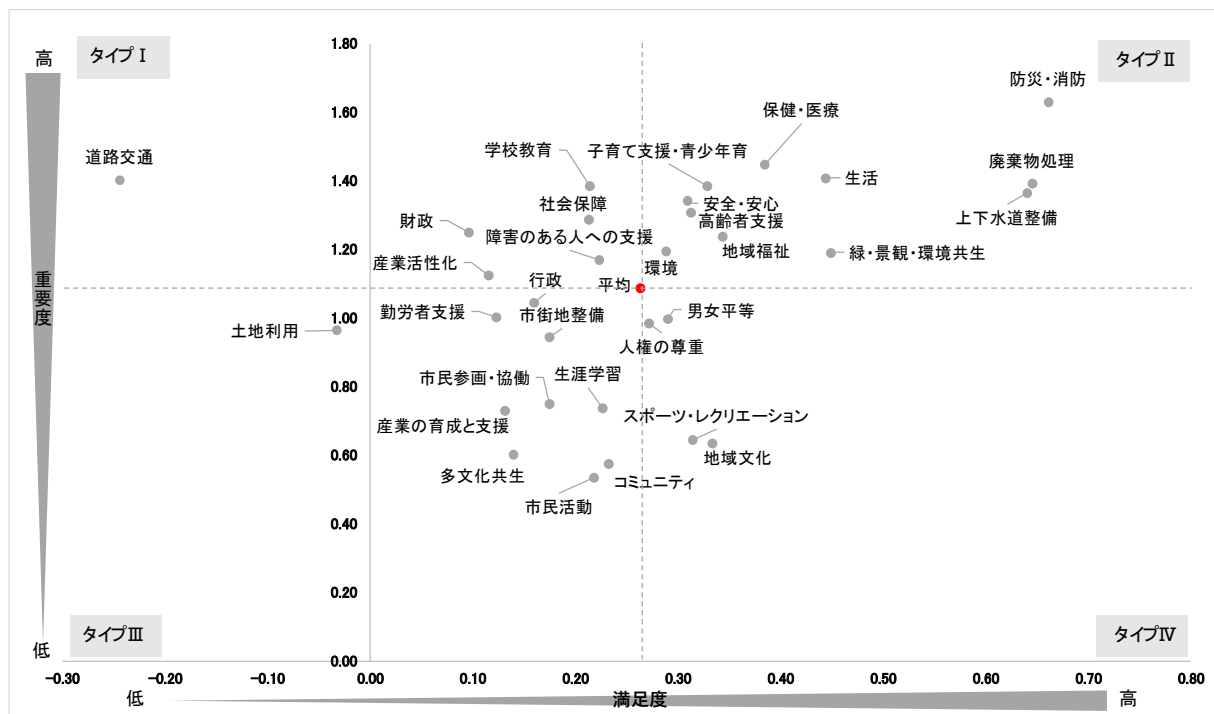
$$\text{加重平均} = \frac{A \times 2 + B \times 1 + C \times 0 + D \times (-1) + E \times (-2)}{\text{(無回答を除く回答総数)}}$$

※回答者が全員「満足している」「重要である」であれば、2.0ポイントとなり、全員が「ある程度満足している」「どちらかといえば重要である」であれば、1.0ポイントとなる。

満足度は「土地利用」、「道路交通」を除きプラス評価で、また重要度はすべてプラスの評価となっている。

分野ごとの取組	満足度	重要度
1.防災・消防	0.66	1.63
2.生活	0.44	1.41
3.地域福祉	0.34	1.24
4.子育て支援・青少年育成	0.33	1.38
5.高齢者支援	0.31	1.31
6.障害のある人への支援	0.22	1.17
7.保健・医療	0.38	1.45
8.社会保障	0.21	1.29
9.学校教育	0.21	1.38
10.生涯学習	0.23	0.74
11.スポーツ・レクリエーション	0.31	0.64
12.地域文化	0.33	0.64
13.環境	0.29	1.19
14.廃棄物処理	0.65	1.39
15.コミュニティ	0.23	0.57
16.市民活動	0.22	0.54
17.土地利用	-0.03	0.97
18.道路交通	-0.24	1.40
19.緑・景観・環境共生	0.45	1.19
20.市街地整備	0.17	0.94
21.上下水道整備	0.64	1.36
22.安全・安心	0.31	1.34
23.産業活性化	0.12	1.12
24.産業の育成と支援	0.13	0.73
25.勤労者支援	0.12	1.00
26.人権の尊重	0.27	0.98
27.男女平等	0.29	1.00
28.多文化共生	0.14	0.60
29.市民参画・協働	0.17	0.75
30.財政	0.10	1.25
31.行政	0.16	1.04
平均	0.26	1.09

また、満足度と重要度の相関関係をマトリクス（散布図）で表した。縦軸は「重要度」、横軸は「満足度」を表しており、2本の破線は、それぞれ「重要度」の全項目（31項目）の平均値と、「満足度」の全項目（31項目）の平均値の位置を示している。



なお、4つの象限別には、以下のとおり分類される。

タイプⅠ	「重要度」が平均値以上で、「満足度」は平均値以下のもの。 重要度が高いが、現在の満足度が低いことから、 今後力を入れて取り組むべきと考えられる項目
タイプⅡ	「重要度」が平均値以上で、「満足度」も平均値以上のもの。 今後の重要度が高いが、現在の満足度も高いことから、 現状維持を図るべきと考えられる項目
タイプⅢ	「重要度」が平均値以下で、「満足度」も平均値以下のもの。 現在の満足度が低い、今後の重要度も低いことから、 状況に応じて取り組むべきと考えられる項目
タイプⅣ	「重要度」が平均値以下で、「満足度」は平均値以上のもの。 現在の満足度が高く、今後の重要度は低いことから、 水準の維持は求められるが、市民からみた優先度は高くないと考えられる項目

【参考】興味・関心の有無の割合

各取組の満足度・重要度割合は、各取組に「興味・関心がない」と回答した人を除いて算出した。この際、用紙の調査票では、満足度・重要度を合わせて、取組ごとの興味・関心を聞いたが、一方、インターネットによる回答では、満足度または重要度ごと、かつ取組ごとに、興味・関心の有無を聞いた。以下には、参考として、満足度・重要度ごとの興味・関心の有無の割合について示す。

〈満足度に関する興味・関心の有無〉

満足度についての各取組への関心は、すべての取組で 7 割が「興味・関心がある」と答えている。「道路交通」(91.7%)が最も高く、「産業の育成と支援」(73.3%)は最も低い。

〈重要度に関する興味・関心の有無〉

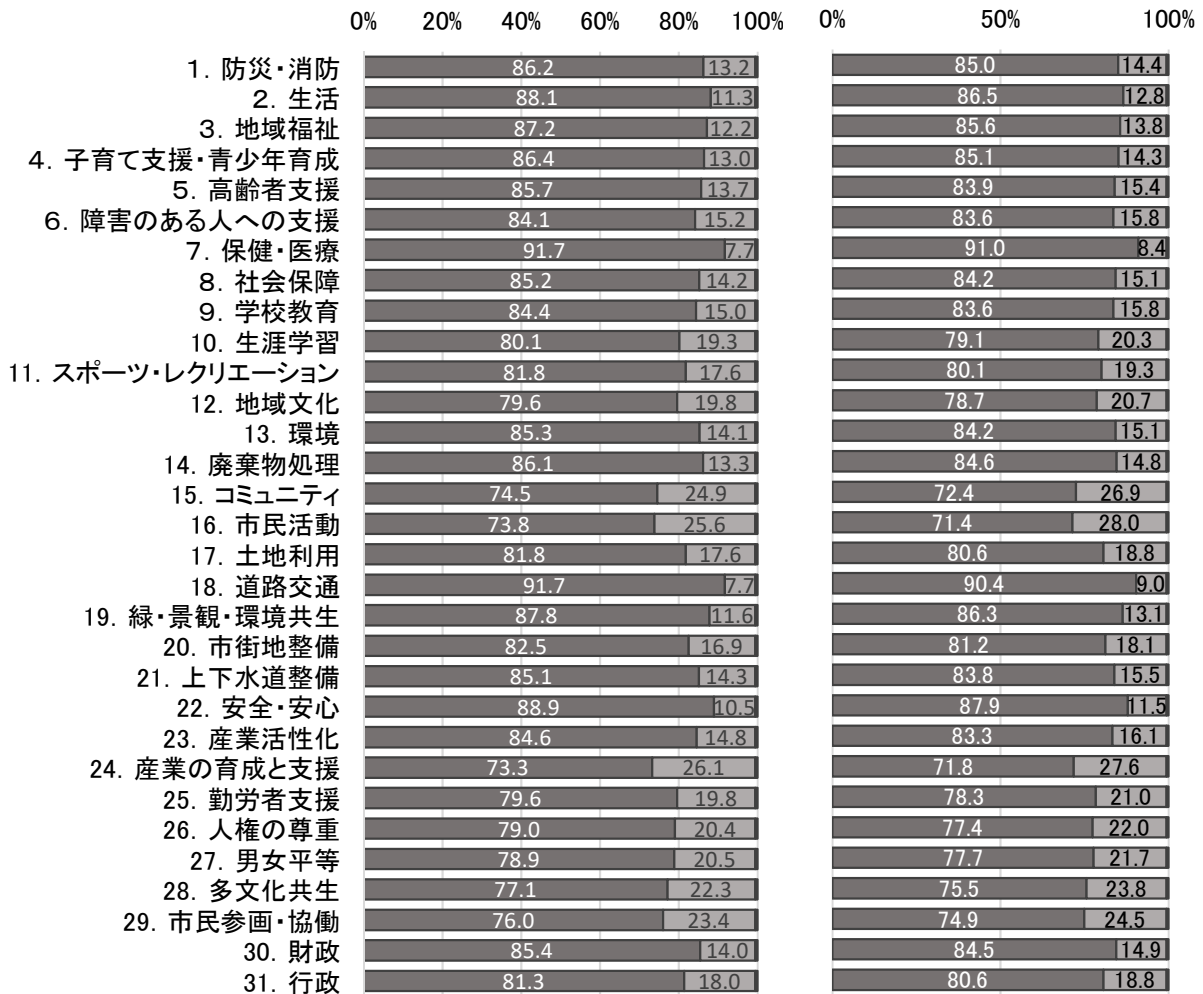
重要度についての各取組への関心は、すべての取組で 7 割が「興味・関心がある」と答えている。「道路交通」(90.4%)が最も高く、「市民活動」(71.4%)は最も低い。

【満足度に関する興味・関心の有無】

【重要度に関する興味・関心の有無】

n=965

n=965



■興味・関心がある □興味・関心がない □無回答

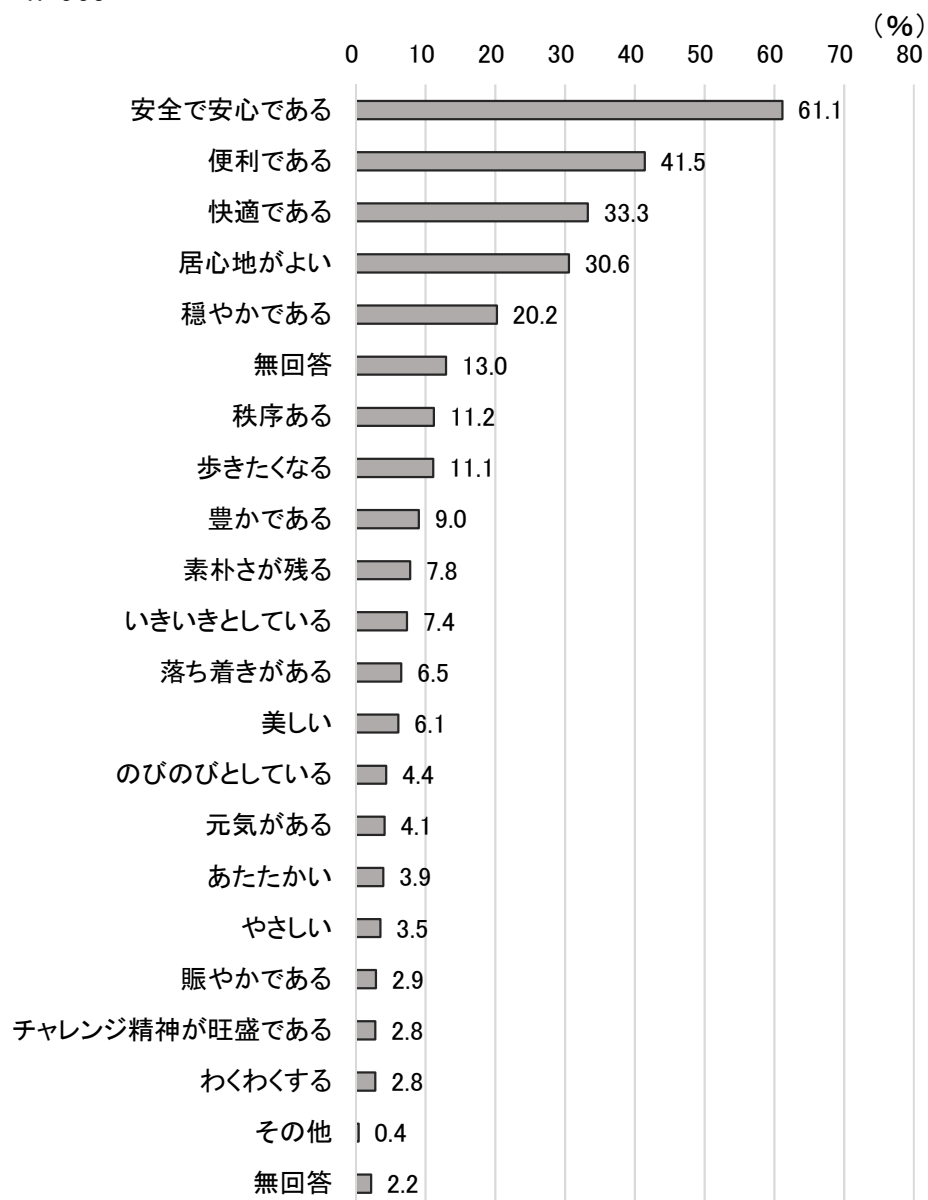
5. これからのまちづくりについて

問14 将来の朝霞市はどのようなまちであればよいと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

将来の朝霞市の望ましいイメージは、「安全で安心である」の割合が61.1%で最も高く、続いて「便利である」(41.5%)、「快適である」(33.3%)、「居心地がよい」(30.6%)となっている。

n=965



問14-1 あなたの考える、朝霞市のキャッチフレーズや将来の都市イメージを自由に記入してください。

【安全・安心】

- ・ 誰もが安全に安心して暮らせるまち朝霞
- ・ 災害に強く安心できるまち
- ・ 安全、安心、明るい明日へ朝霞
- ・ 暮らしやすく安心・安全で元気のある町朝霞
- ・ 健康寿命を伸ばし安心して一生を終えることができるような街
- ・ 老若男女安心して暮らせる街
- ・ "子供の頃から安心して住み続けるまち" あさか

【住みやすい・暮らしやすい・居心地が良い】

- ・ すみやすい あったかいまち 朝霞
- ・ 居心地がよくわくわくするまち朝霞
- ・ 穏やかで居心地の良い町朝霞
- ・ おとなも子どももみんな住みやすいまち朝霞
- ・ 都心に近い小田舎、住み良い町 朝霞
- ・ 誰もが住みたくなるまち朝霞
- ・ 自然豊かな 便利で居心地がいいまち 朝霞
- ・ 長く住み続けたいまち 朝霞
- ・ どこに行ってもわくわくする 居心地がいい街
- ・ いきいきとして住みやすいまち朝霞
- ・ 世代を超えて 住み続けたいまち 朝霞

【緑・自然】

- ・ みどり豊かな快適環境都市
- ・ 暮らしと緑の共存
- ・ 都心に近く緑の多い朝霞
- ・ 緑豊かな街、朝霞!!
- ・ 緑と人がつながる街朝霞。
- ・ 都心から近い自然の多いまち
- ・ 緑と成長し続ける街、朝霞
- ・ 利便性と自然が共存している街
- ・ 自然豊かで緑がまぶしい、誰も見放さないやさしい街
- ・ 自然と都市の共存、豊かな人間

【子ども・子育て】

- ・ 若い人、子どもたちが元気で明るいまち
- ・ 子育てに適しているまち
- ・ 素朴でおだやか 子供と散歩が出来る町
- ・ 子どもが安心して成長できる町

- ・ 子どもにも高齢者にも優しいうるおいのあるまち
- ・ 子供たちが安心して住める朝霞

【その他】

- ・ 「オンリーワン(only one)朝霞」
- ・ いきいきとした暮らしが息づく町 朝霞
- ・ 「ここは朝霞、みんなが集まるたんぽぽのまち」
- ・ 笑顔の多いまち
- ・ いつか「帰ろう」と思えるまち朝霞
- ・ 私が私らしくいられるまち朝霞
- ・ フレッシュシティ
- ・ 朝霞とともに生きていく
- ・ 帰るのが楽しみなまち 朝霞
- ・ 『「あ」いのある「サ」ポートが充実した「か」んきょうのまち 朝霞』
- ・ ほっとする街 朝霞
- ・ あなたと共に 朝霞で生きたい

問15 あなたが、以前の朝霞市と比較して充実してきたと思うまちづくりの分野は何ですか。また、今後10年間で朝霞市が特に力を入れるべきだと思うまちづくりの分野は何ですか。
 (1)と(2)について、あなたのイメージに近いものを、1～13の中からそれぞれ3つまで選んで番号を記入してください。

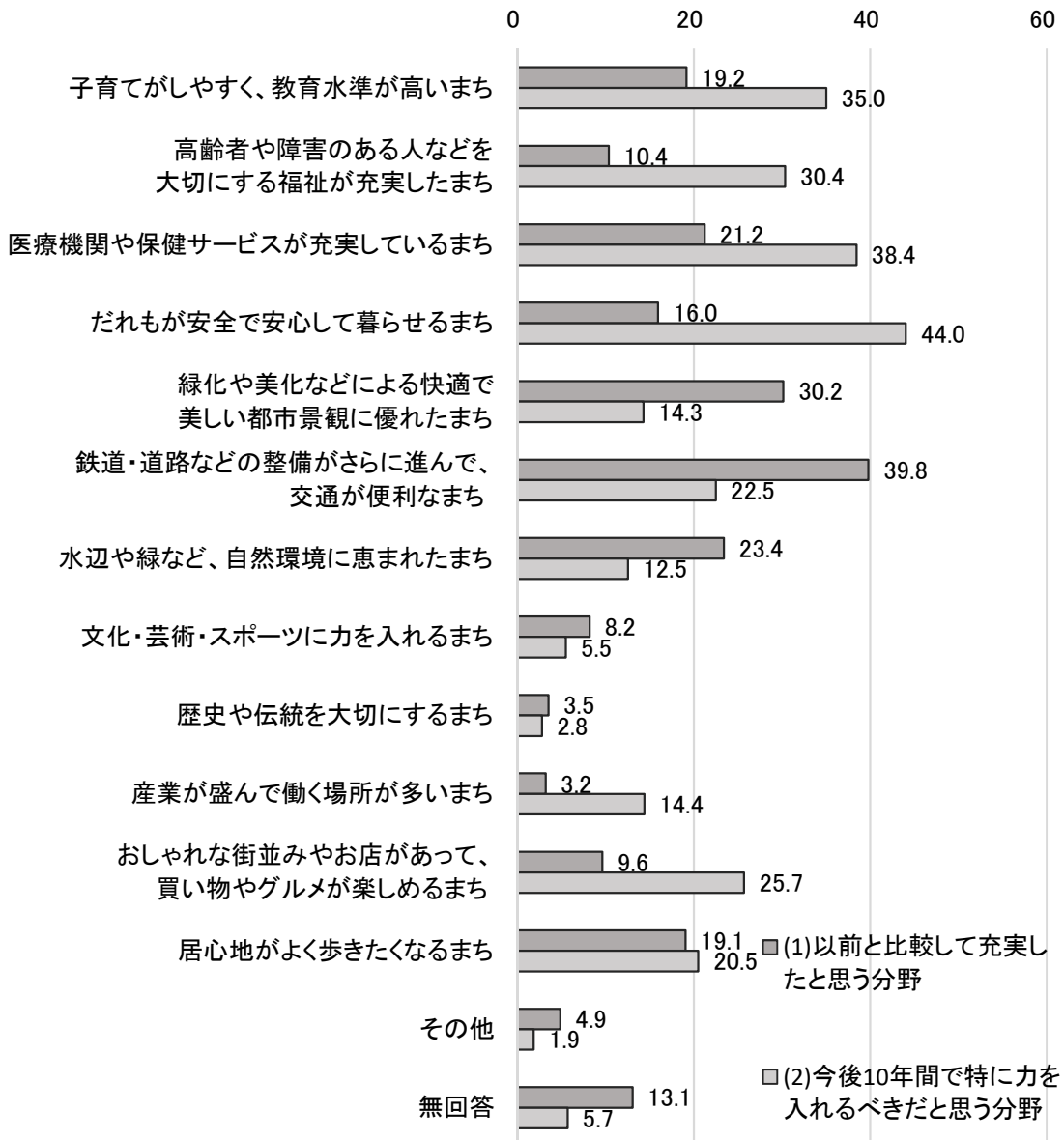
〈全体〉

「(1)以前と比較して充実したと思う分野」は、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通が便利なまち」(39.8%)が最も高く、次いで、「緑化や美化などによる快適で美しい都市景観に優れたまち」(30.2%)、「水辺や緑など、自然環境に恵まれたまち」(23.4%)である。

「(2)今後10年間で特に力を入れるべきだと思う分野」は、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」(44.0%)が最も高く、次いで、「医療機関や保健サービスが充実しているまち」(38.4%)、「子育てがしやすく、教育水準が高いまち」(35.0%)となっている。

n=965

(%)

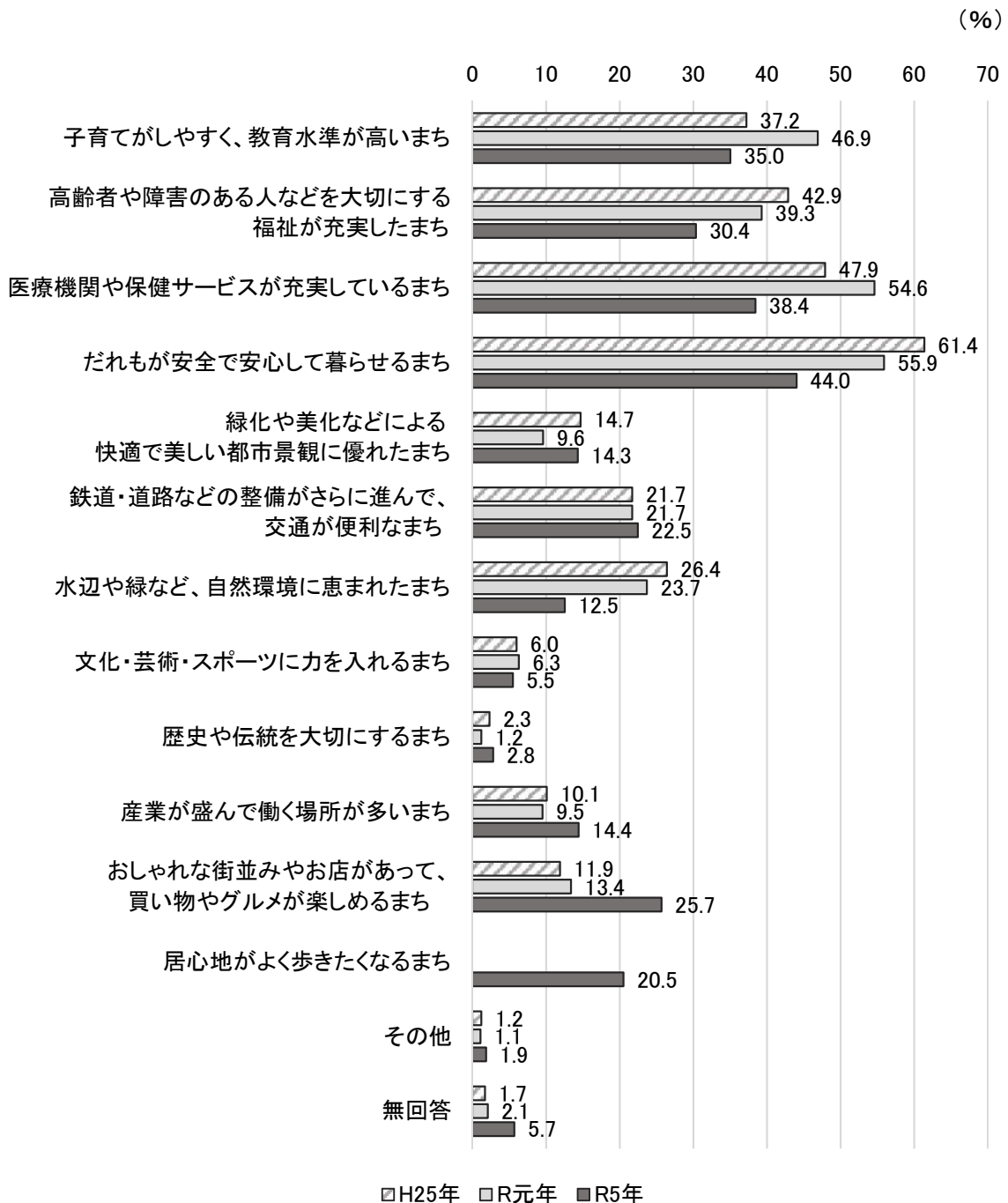


〈経年比較〉

将来の朝霞市で力を入れるべき分野の上位項目の「だれもが安全で安心して暮らせるまち」、「医療機関や保険サービスが充実しているまち」、「子育てがしやすく、教育水準が高いまち」のいずれも割合が減少している。一方、新設項目の「おしゃれな街並みやお店があって、買い物やグルメが楽しめるまち」のほか、「産業が盛んで働く場所が多いまち」の割合は増加している。

※平成 25 年、令和元年調査では、将来の朝霞市をどのようなまちにしていきたいかを聞いた。

※選択肢「居心地がよく歩きたくなるまち」は、令和 5 年に追加したため、経年比較の対象外としている。



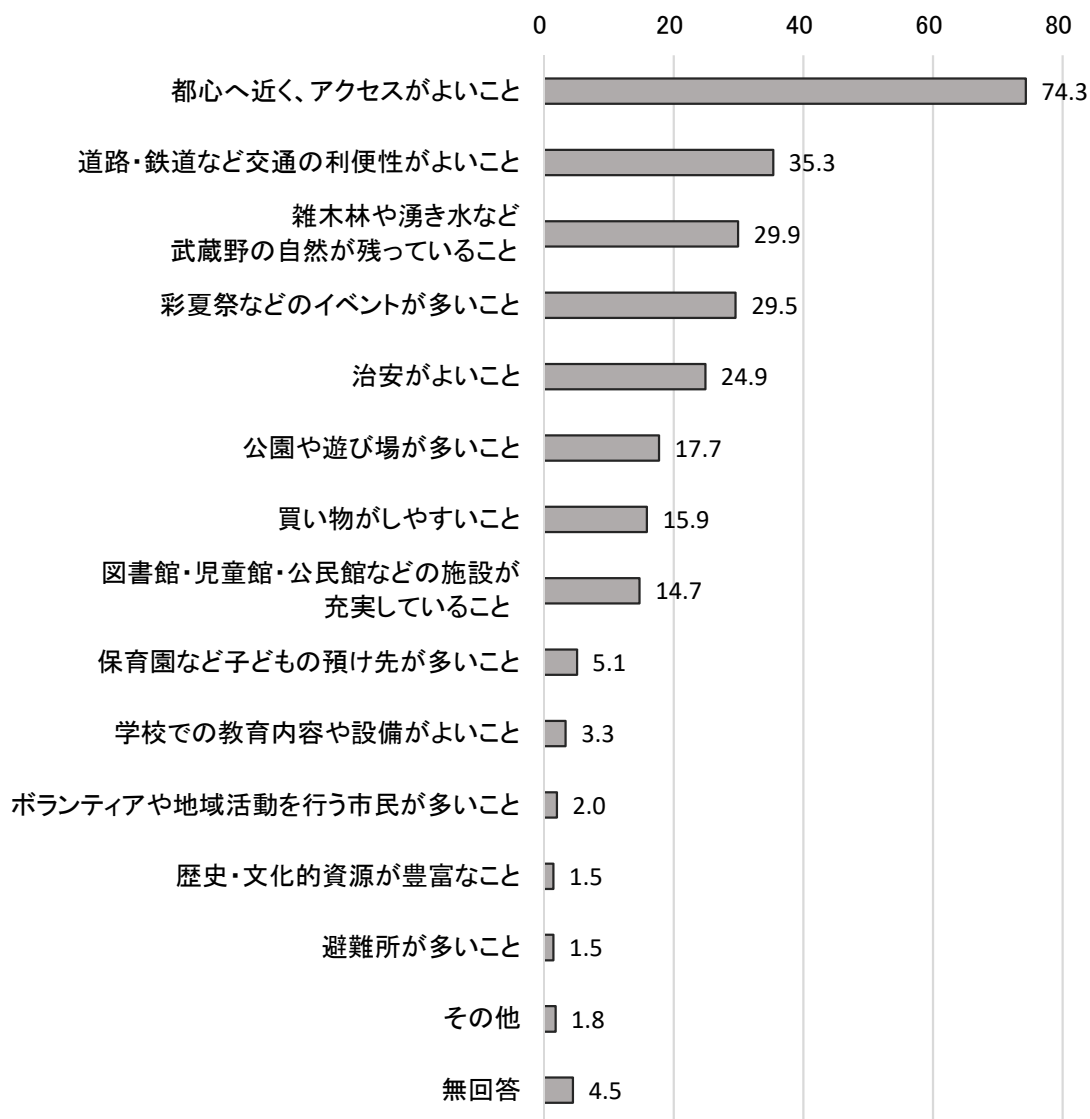
問16 あなたは、未来に生かしていきたい朝霞市の強みは何だと思えますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを3つまで選んでください。

〈全体〉

未来に生かしていきたい朝霞市の強みは、「都心へ近く、アクセスがよいこと」の割合が74.3%で最も高く、続いて「道路・鉄道など交通の利便性がよいこと」(35.3%)、「雑木林や湧き水など武蔵野線の自然が残っていること」(29.9%)、「彩夏祭などのイベントが多いこと」(29.5%)となっている。

n=965

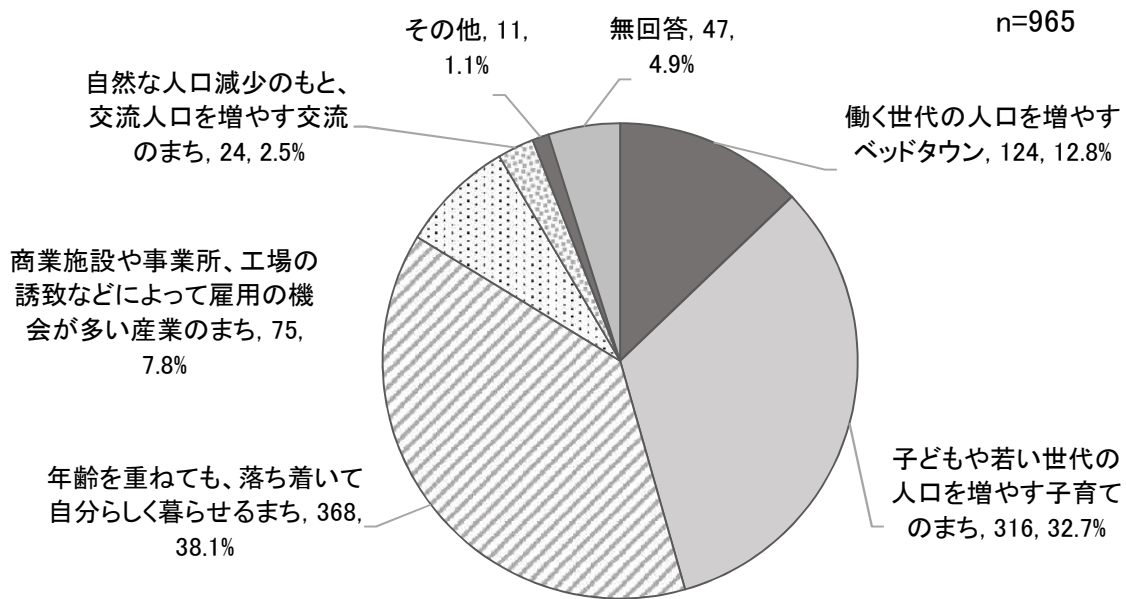
(%)



問17 今後、人口減少・少子高齢化が進むことが予想される中、朝霞市のまちづくりはどのような方向をめざすべきと考えますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを1つ選んでください。

〈全体〉

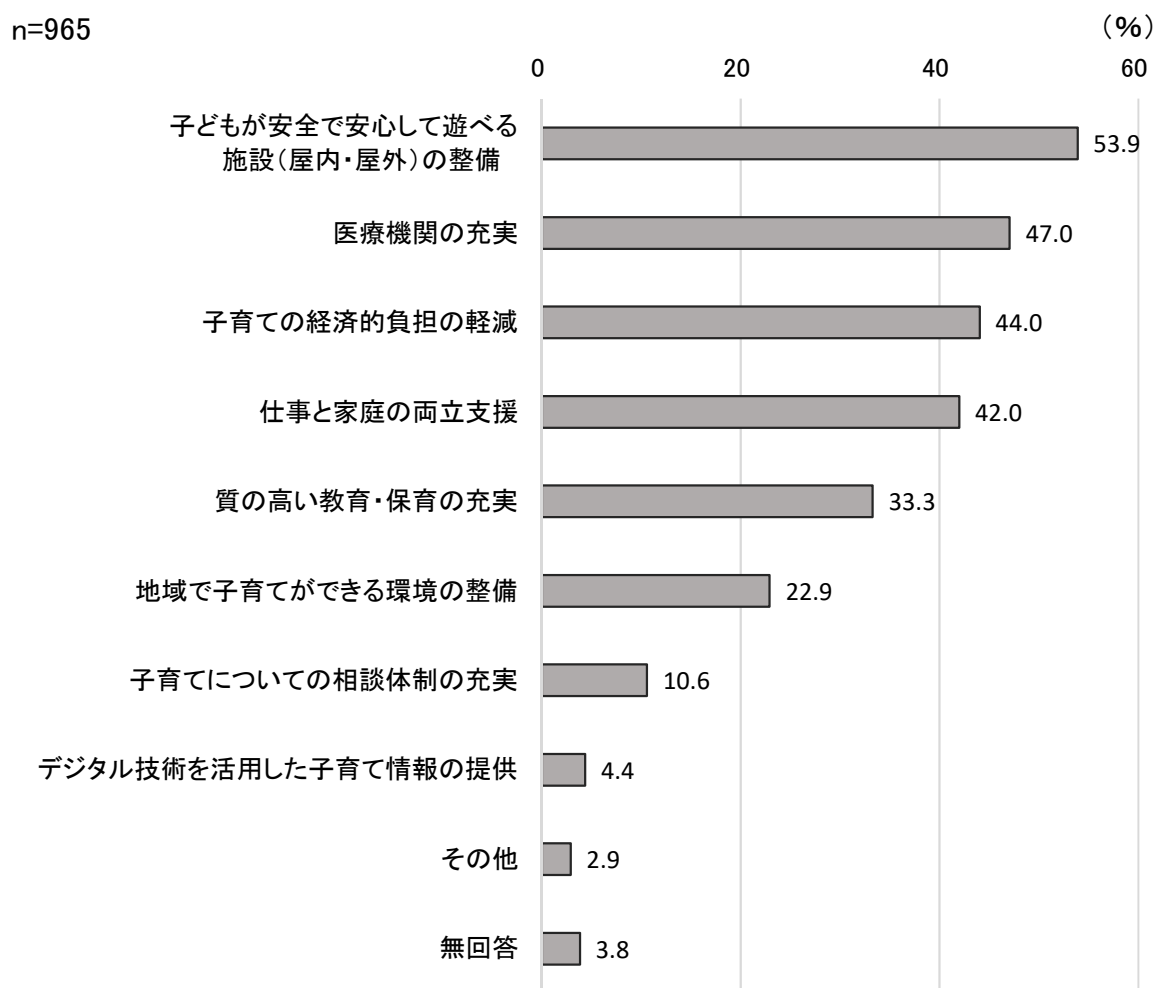
人口減少・少子高齢化を踏まえたまちづくりの方向性は、「年齢を重ねても、落ち着いて自分らしく暮らせるまち」の割合が38.1%で最も高く、続いて「子どもや若い世代の人口を増やす子育てのまち」(32.7%)、「働く世代の人口を増やすベッドタウン」(12.8%)となっている。



問18 あなたは、朝霞市が若者や子育て世帯に選ばれるまちになるために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

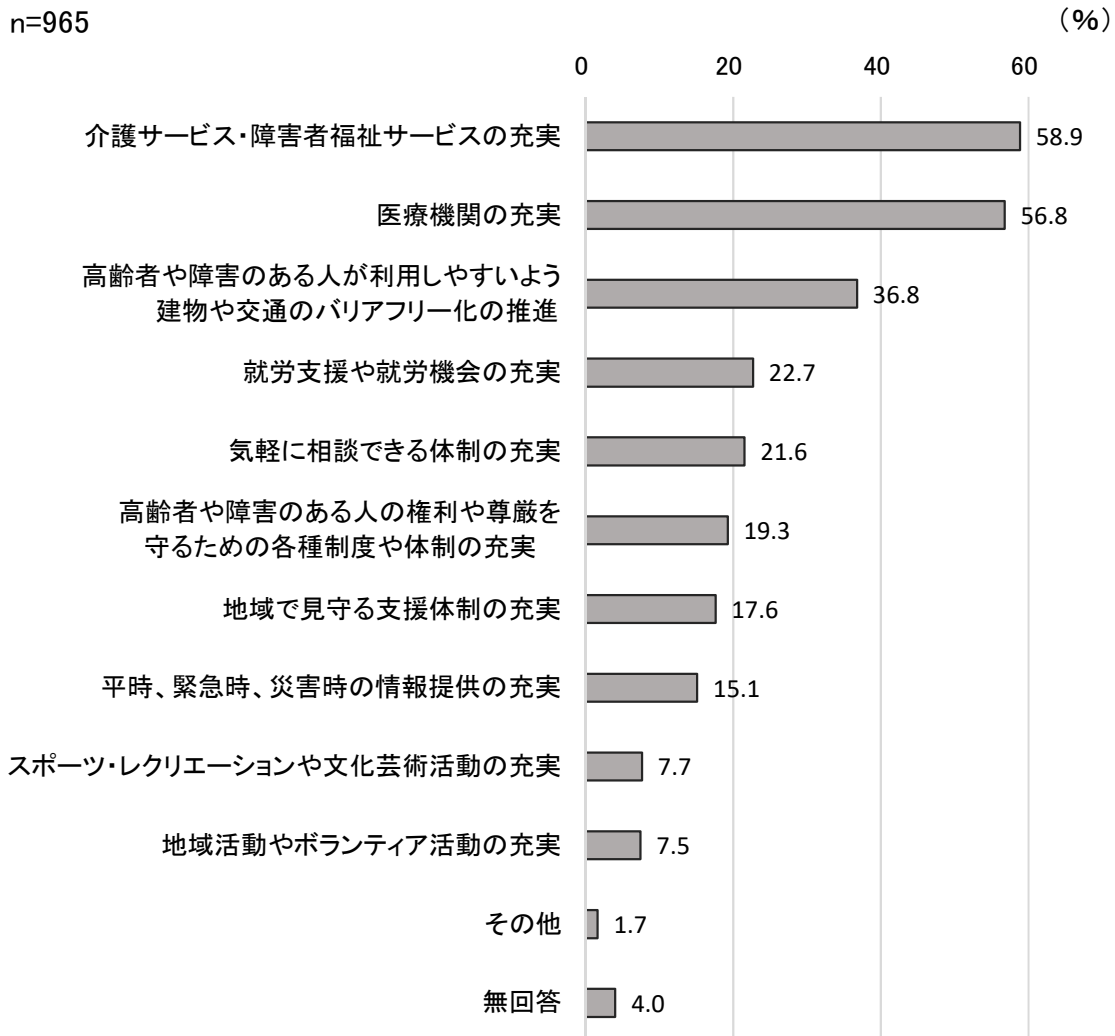
子育て世帯に選ばれるまちになるためのまちづくりの方向性は、「子どもが安全で安心して遊べる施設（屋内・屋外）の整備」の割合が53.9%で最も高く、続いて「医療機関の充実」（47.0%）、「子育ての経済的負担の軽減」（44.0%）、「仕事と家庭の両立支援」（42.0%）となっている。



問19 あなたは、高齢者や障害のある人が安心して暮らせるまちになるために、どのようなことが重要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

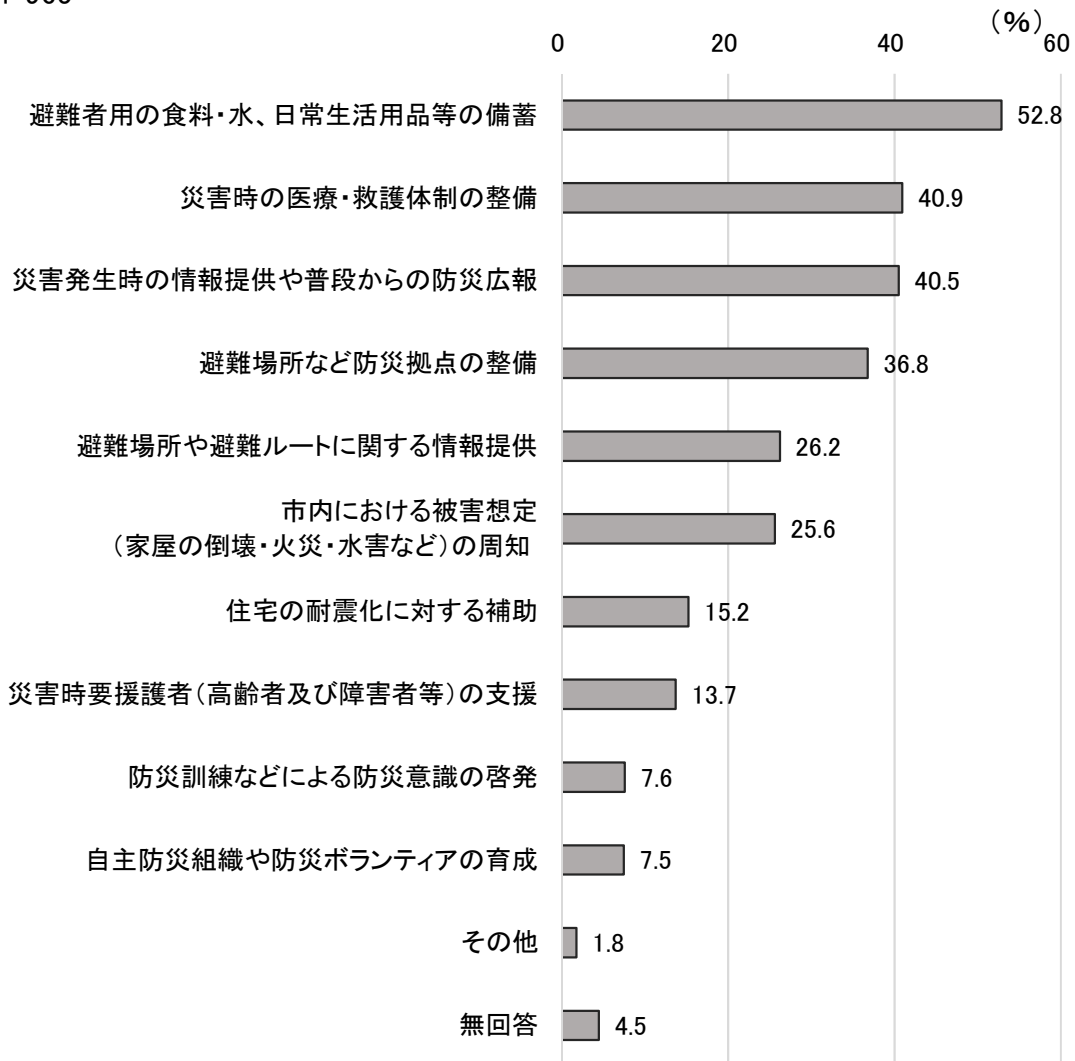
高齢者や障害のある人が安心して暮らせるまちになるために重要なこととしては、「介護サービス・障害者福祉サービスの充実」の割合が58.9%、次いで「医療機関の充実」(56.8%)となっており、「高齢者や障害のある人が利用しやすいよう建物や交通のバリアフリー化の推進」(36.8%)が続く。



問20 あなたは、災害対策として、行政にどのようなことを期待していますか。次の中から3つまで選んでください。

災害対策として行政に期待していることは、「避難者用の食料・水、日常生活用品等の備蓄」の割合が52.8%で最も高く、続いて「災害時の医療・救護体制の整備」(40.9%)、「災害発生時の情報提供や普段からの防災広報」(40.5%)となっている。

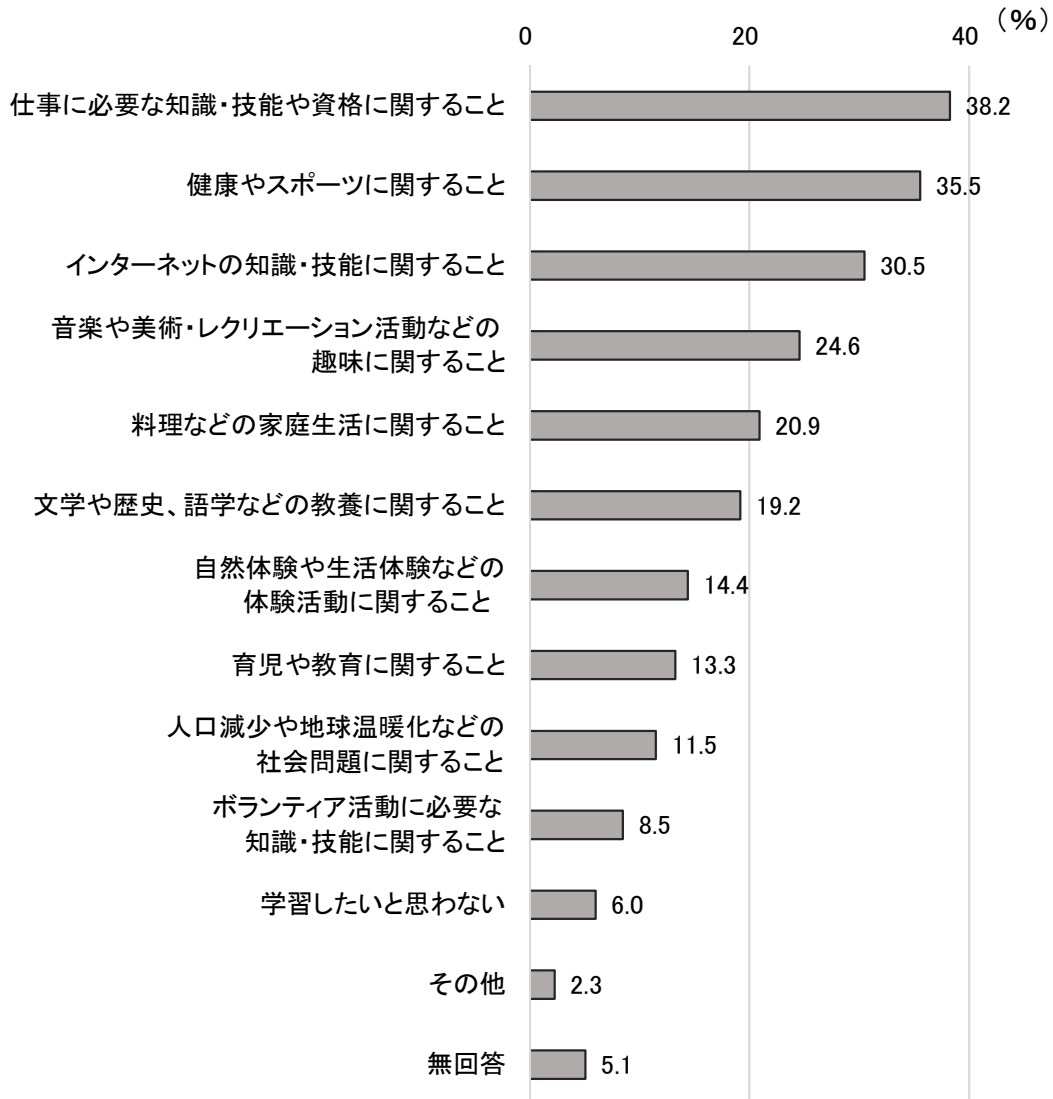
n=965



問21 あなたは、これから学習するとすれば、どのようなことを学びたいですか。次の中から3つまで選んでください。

これから学習したいことは、「仕事に必要な知識・資格に関すること」の割合が38.2%で最も高く、「健康やスポーツに関すること」(35.5%)、「インターネットの知識・技能に関すること」(30.5%)が続く。

n=965

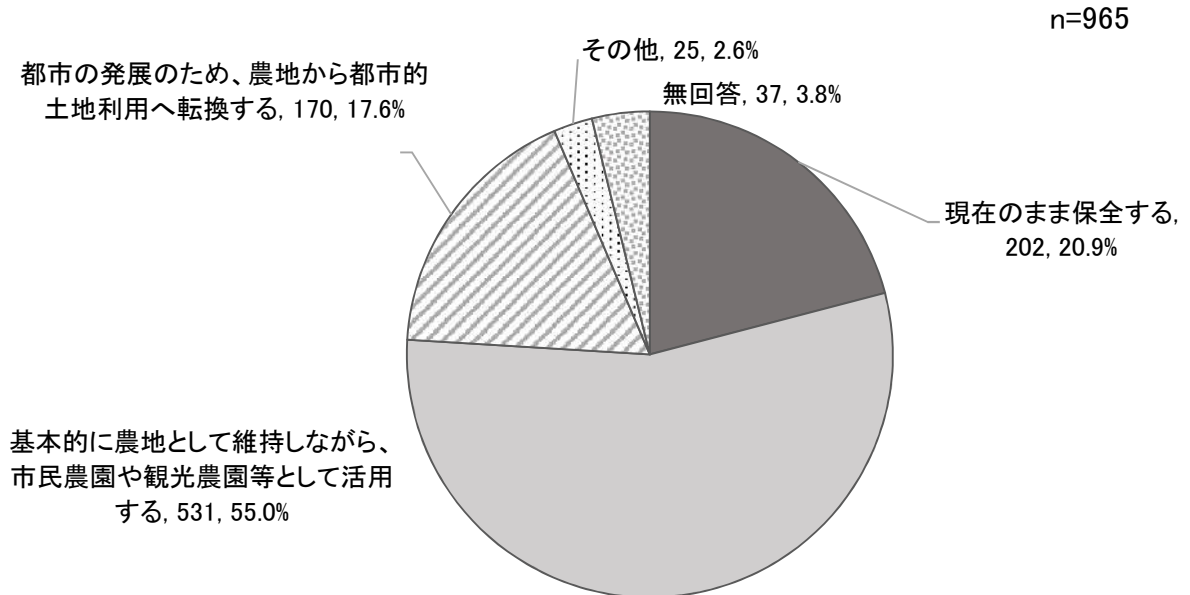


問21-1 問21で「学習したいと思わない」以外を選んだ方にお聞きします。学習のために、どのような施設を利用していきたいですか。(複数回答可)

(整理中)

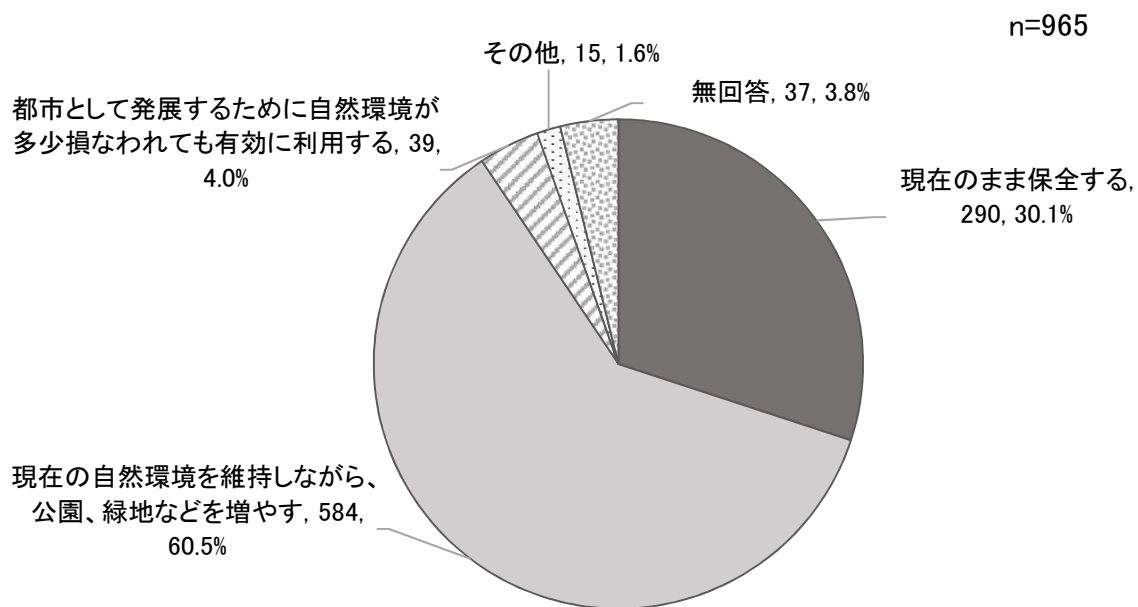
問22 市街地の農地について、今後どのようにしたらよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

市街地の農地について、「基本的に農地として維持しながら、市民農園や観光農園等として活用する」の割合が55.0%と最も高く、「現在のまま保全する」(20.9%)、「都市の発展のため、農地から都市的土地利用へ転換する」(17.6%)が続く。



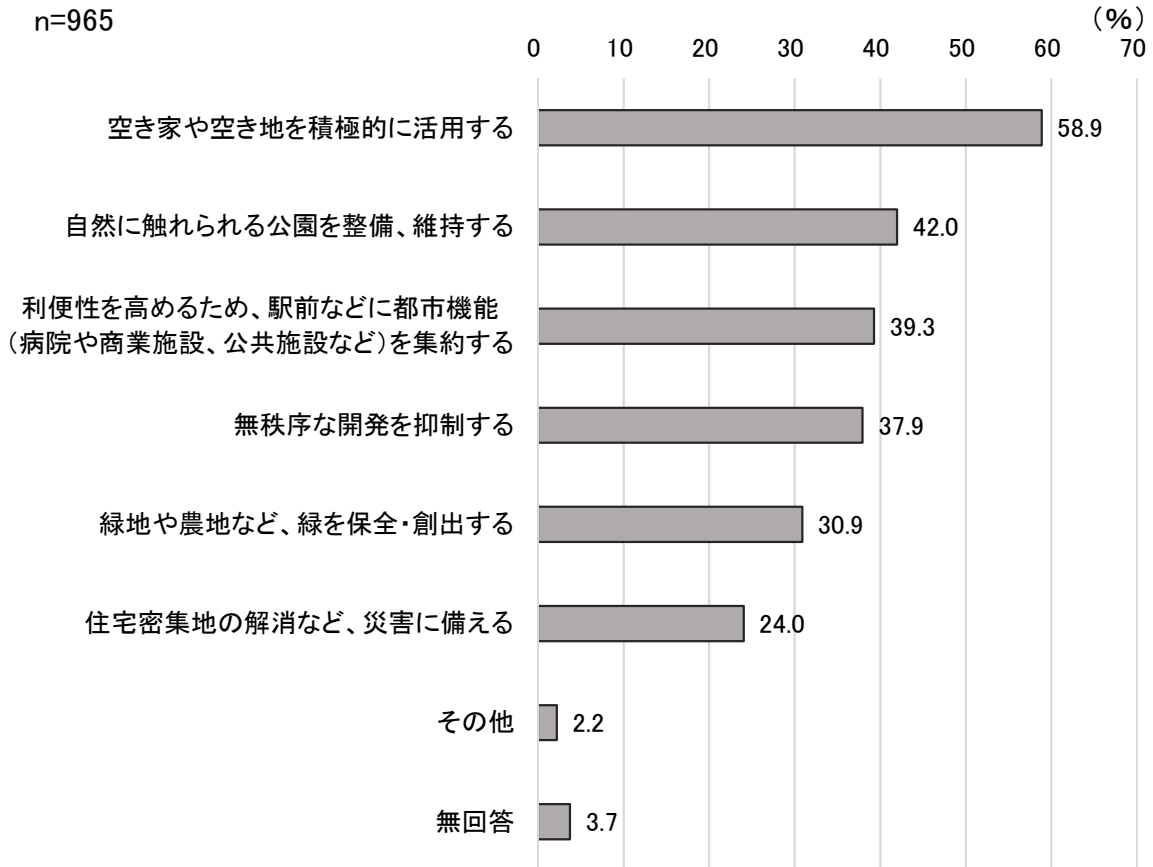
問23 自然環境（黒目川、新河岸川、武蔵野の原生林などの水辺・緑地など）について、今後どのようにしたらよいと思いますか。次の中から1つ選んでください。

自然環境の今後について、「現在の自然環境を維持しながら、公園、緑地などを増やす」の割合が60.5%と最も高い。「現在のまま保全する」は30.1%であり、一方、「都市として発展するために自然環境が多少損なわれても有効に利用する」は4.0%であった。



問24 今後、どのような土地利用が望ましいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

今後の土地利用について、「空き家や空き地を積極的に活用する」の割合が58.9%と最も高く、「自然に触れられる公園を整備、維持する」(42.0%)、「利便性を高めるため、駅前などに都市機能(病院や商業施設、公共施設など)を集約する」(39.3%)、「無秩序な開発を抑制する」(37.9%)が続く。

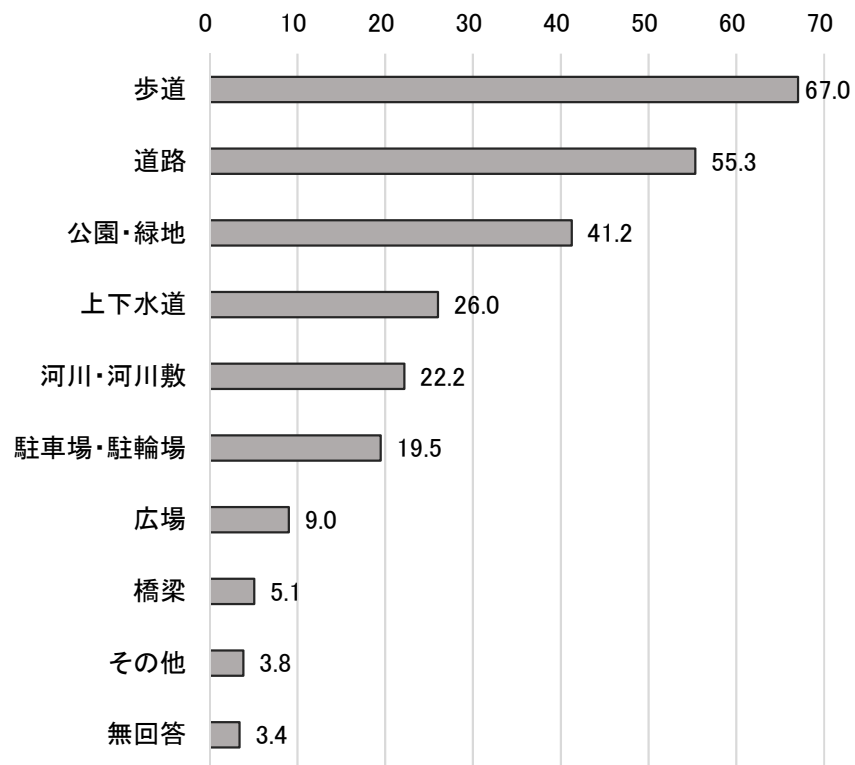


問25 市内の都市基盤の維持・整備について、今後、力を入れるべきだと思うものは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

今後、維持・整備に力を入れるべき都市基盤について、「歩道」の割合が67.0%と最も高く、「道路」(55.3%)、「公園・緑地」(41.2%)が続く。

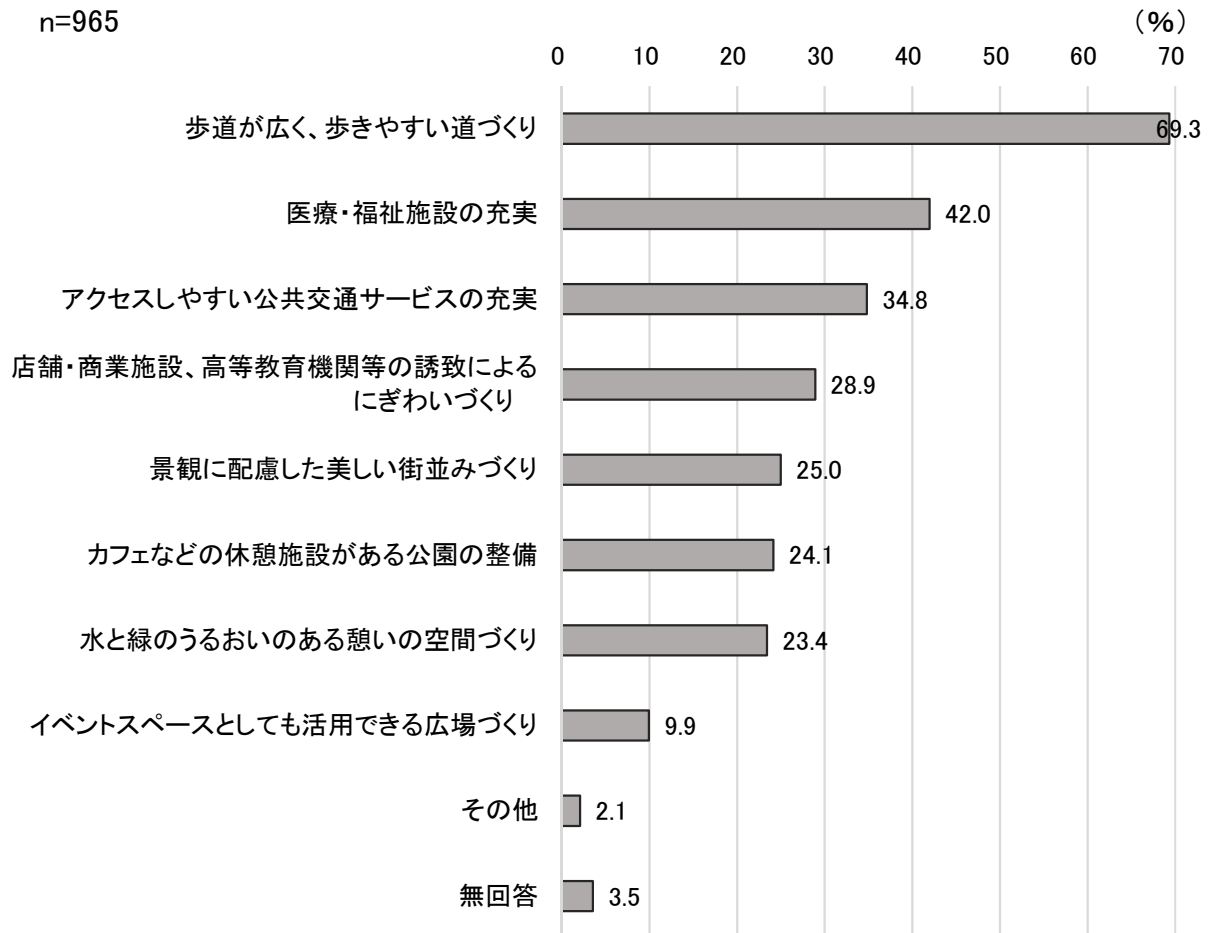
n=965

(%)



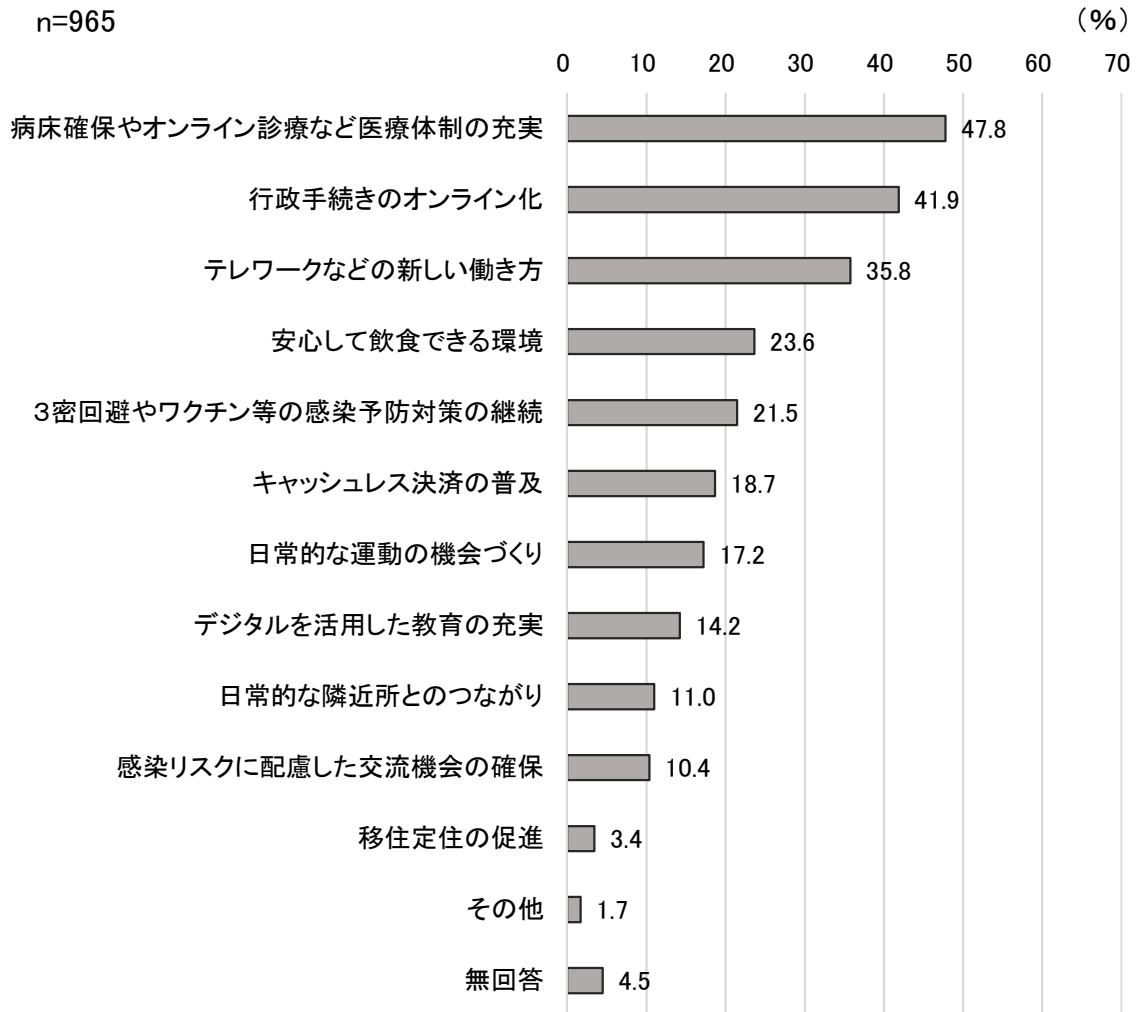
問26 今後、まちなかの魅力を高めるために、どのような取組が必要だと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

まちなかの魅力を高めるための取組について、「歩道が広く、歩きやすい道づくり」の割合が69.3%と最も高く、「医療・福祉施設の充実」(42.0%)、「アクセスしやすい公共交通サービスの充実」(34.8%)、「店舗・商業施設、高等教育機関等の誘致によるにぎわいづくり」(28.9%)が続く。



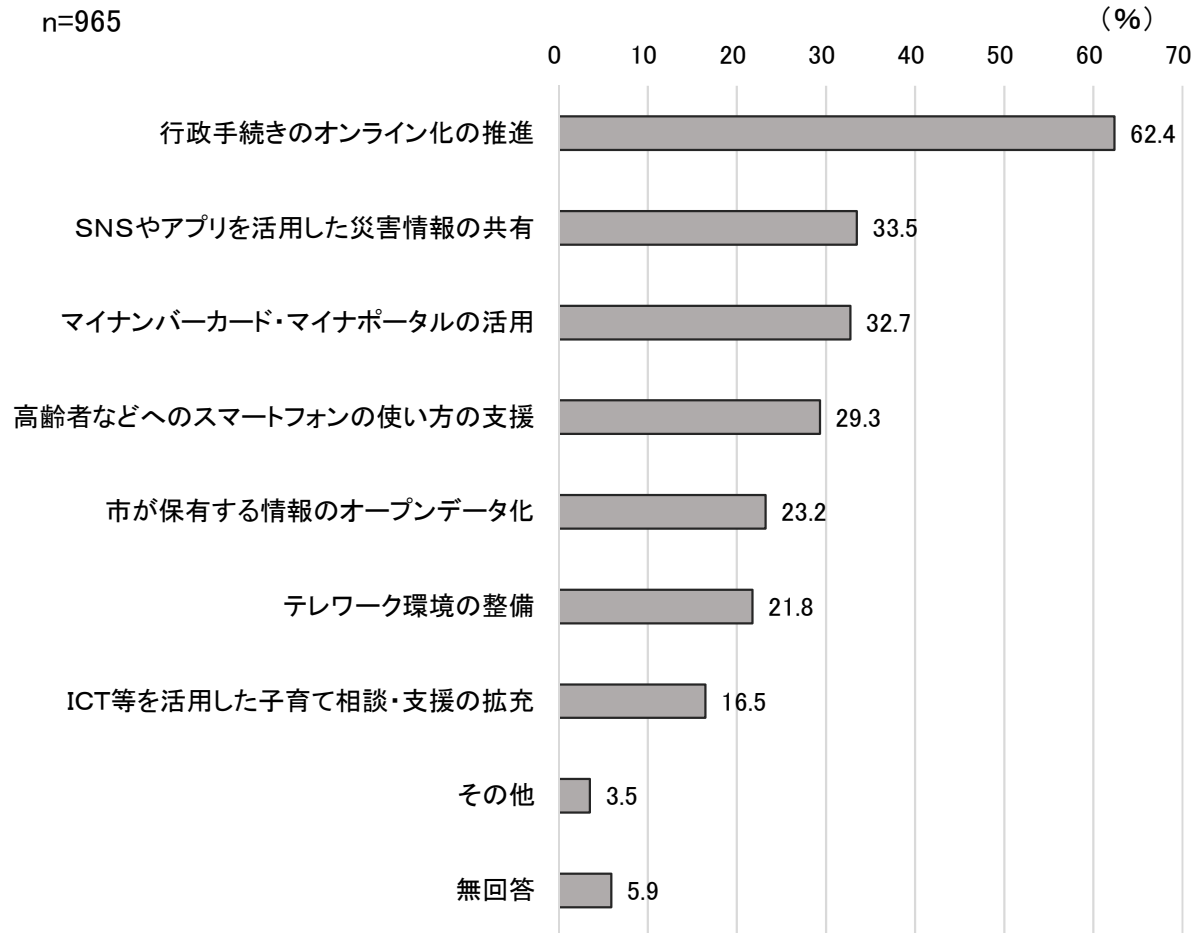
問27 新型コロナウイルス感染症の流行を経験して、今後重要だと思うことは何ですか。次の中から3つまで選んでください。

新型コロナウイルス感染症流行を踏まえ、今後重要だと思うことは、「病床確保やオンライン診療など医療体制の充実」の割合が47.8%と最も高く、「行政手続きのオンライン化」(41.9%)、「テレワークなどの新しい働き方」(35.8%)が続く。



問28 朝霞市において、今後どのようなデジタル化の取組が重要と考えますか。次の中から3つまで選んでください。

デジタル化の取組について重要なことは、「行政手続きのオンライン化の推進」の割合が62.4%と最も高く、「SNSやアプリを活用した災害情報の共有」(33.5%)、「マイナンバーカード・マイナポータルを活用」(32.7%)、「高齢者などへのスマートフォンの使い方の支援」(29.3%)が続く。



6. 自由意見

問29 自由意見欄

最後に、今後のまちづくりや市政について、ご意見などがありましたらご自由にお書きください。

(整理中)

第2部 朝霞市青少年アンケート結果

I 調査の概要

1. 調査の目的

この青少年アンケートは令和8年度(2026年度)から10年間のまちづくりの指針となる「第6次朝霞市総合計画」を策定するに当たって、まちづくりに対する青少年の意向を把握し、基礎資料として活用するために行ったものである。

2. 調査の方法

- ① 調査対象 市内在住の12歳以上18歳未満の男女(令和5年4月1日時点での満年齢)
- ② 対象者数 1,000人
- ③ 抽出方法 住民基本台帳(令和5年11月1日現在)から無作為抽出
- ④ 調査方法 郵送配布・回収、インターネットによる回答を併用
- ⑤ 調査期間 令和5年11月24日送付、12月25日締切

3. 集計・分析のための地区区分

A地区	大字上内間木、大字下内間木
B地区	朝志ヶ丘、北原、田島、西原、浜崎、宮戸
C地区	大字台、大字根岸、岡、仲町、根岸台
D地区	泉水、西弁財、東弁財、三原
E地区	青葉台、幸町、栄町、膝折町、本町、溝沼、陸上自衛隊朝霞駐屯地

4. 調査項目

- ① 朝霞市の「住みよさ」について
- ② 日頃の地域との関わりについて
- ③ 市政について
- ④ 市の全般的な取組について
- ⑤ まちづくりへの市民の参加について
- ⑥ これからのまちづくりについて
- ⑦ 自由意見

5. 回収結果

- ① 調査票発送数 1,000票
- ② 有効回収数 271票(紙回答:168票、Web回答103票)
- ③ 有効回収率 27.1%(紙回答:16.8%、Web回答:10.3%)

6. 報告書の見方

①用語について

- ・ 図表中の「n」(=number)は、設問に対する回答者数を示す。
- ・ 選択肢の文字数が多いものは、本文や図表中で省略した表現を用いている。

②集計について

- ・ 比率は、全て百分率(%)で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。このため、比率の合計が100%にならない場合がある。なお、集計上の無回答には、無回答のほか無効な回答を含んでいる。
- ・ 複数回答形式の設問については、設問に対する回答者数を母数として比率(%)を算出している。このため、合計が100%を超えることがある。

③意識調査の信頼性について

- ・ 本調査は、調査対象となる母集団から標本を抽出し、母集団の比率を推測する標本調査であるため、調査結果には統計上の誤差が生じることがある。今回の単純集計の場合の標本誤差(信頼度95%とした場合)は、次の式により求められる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団の数
n=比率算出の基数(回答サンプル数)
p=回答の比率(0≦p≦1)

- ・ 今回の市民意識調査では、母集団の数7,501人を(令和5年11月1日現在)として、有効回収数(サンプル数=271票)から標本誤差を計算すると、±6.0%以内になる(信頼度95%とした場合)。

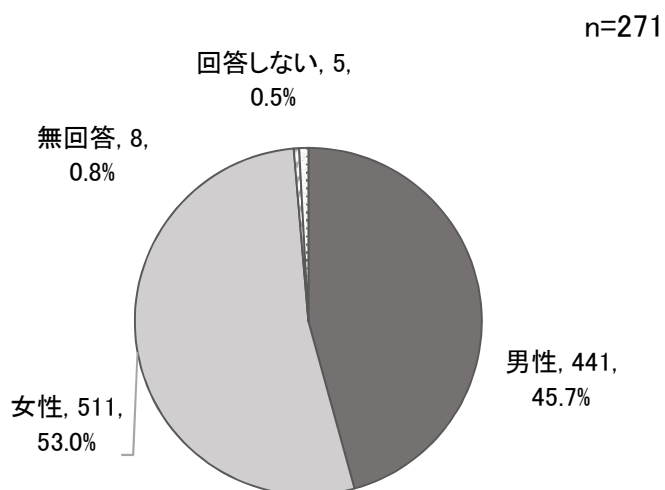
④ 経年比較について

- ・ これまで実施した意識調査との経年比較を行った(平成22年度、平成25年度、令和元年度実施)。
- ・ 平成22年度調査では、朝霞市に立地する市立中学校及び県立高校から、各学校とも1クラスずつ抽出し、在学する生徒を対象に調査を行っているため、前々回調査との経年比較については、それぞれの結果を単純に比較することができないが、一部参考として記載している。

7. 回答者の属性

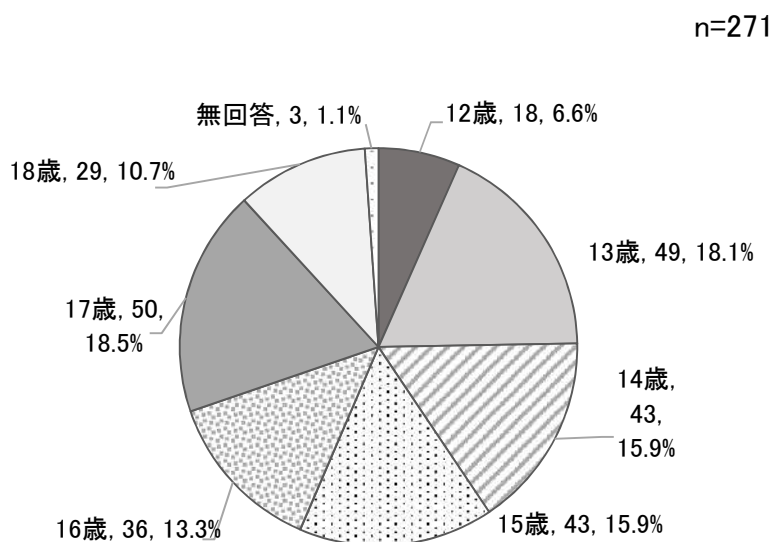
F1 あなたの性別は。

回答者の性別は、「女性」の割合が 53.0%、「男性」の割合が 45.7%となっている。



F2 あなたの年齢は。

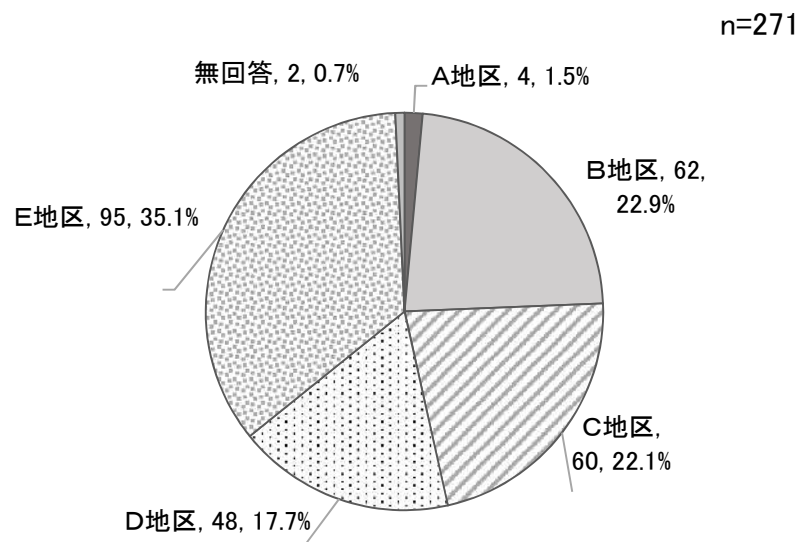
回答者の年齢は、「17 歳」の割合が 18.5%と最も高い。また、「12~15 歳」の割合が 56.4%、「16~18 歳」の割合が 42.5%となっている。



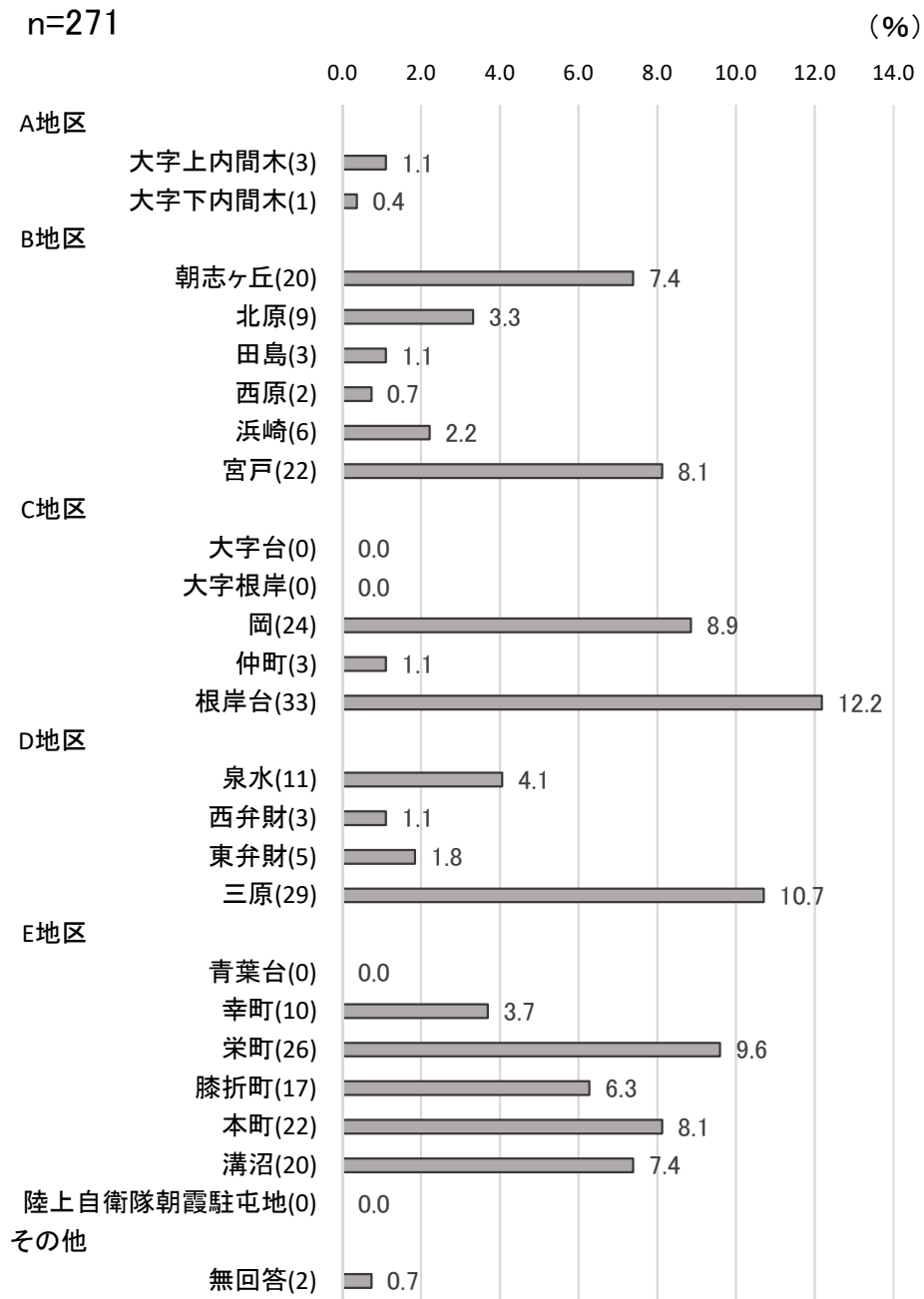
F3 あなたのお住まいはどの地区ですか。

回答者の住んでいる地区は、「E 地区」の割合が 35.1%で最も高く、続いて「B 地区」(22.9%)、「C 地区」(22.1%)、「D 地区」(17.7%)、「A 地区」(1.5%)となっている。

町(丁)・大字別でみた住んでいる地区は、「根岸台」の割合が 12.2%で最も高く、続いて「三原」(10.7%)、「栄町」(9.6%)となっている。

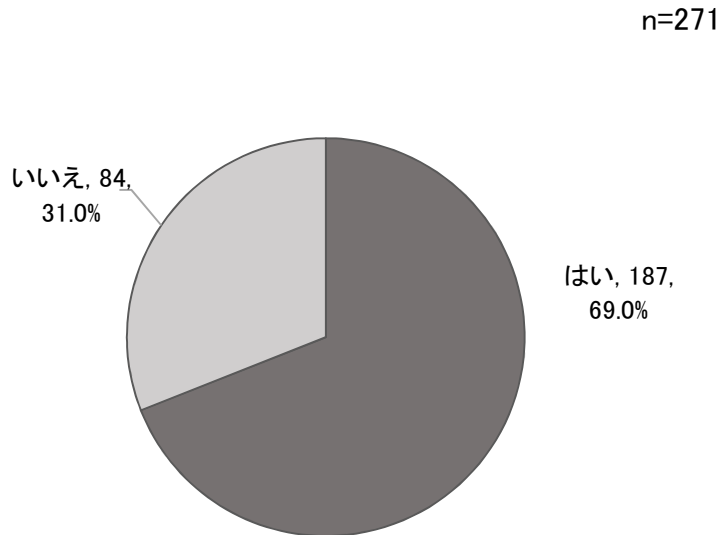


【町（丁）・大字別居住地区】



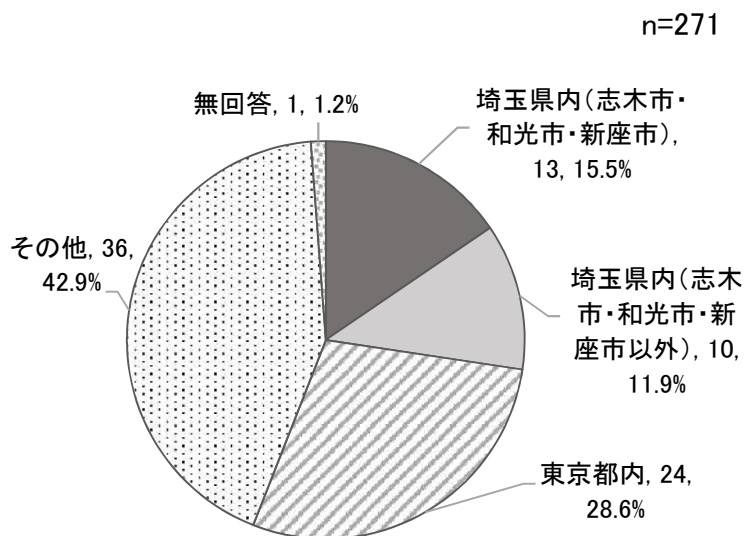
F4 あなたは、生まれた時、または幼少の頃から朝霞市にお住まいですか。

回答者が生まれた時から朝霞市に住んでいるかどうかについては、「はい」の割合が 69.0%、「いいえ」の割合が 31.0%となっている。



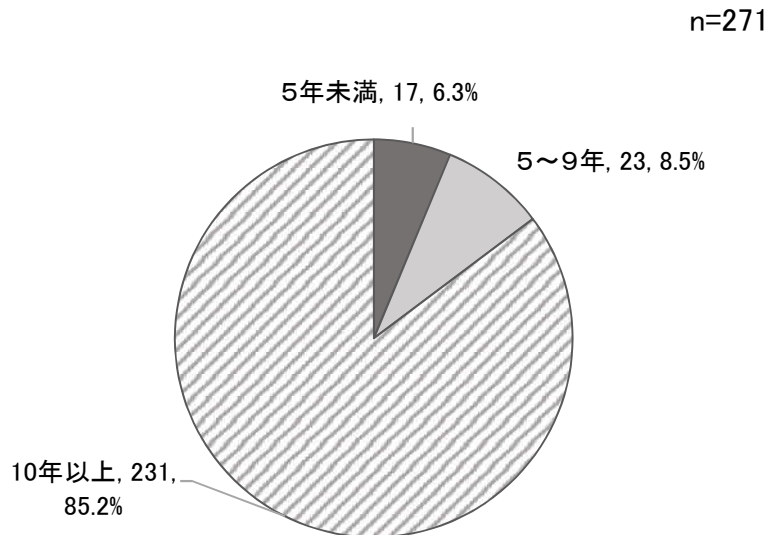
F5 F4で「いいえ」と回答された方にお聞きします。朝霞市に住む以前はどちらにお住まいでしたか。

市外から転入してきた回答者の以前の住まいは、「その他」を除くと、「東京都内」の割合が 28.6%と最も高く、続いて、「埼玉県内(志木市・和光市・新座市)」(15.5%)、「埼玉県内(志木市・和光市・新座市以外)」(11.9%)となっている。



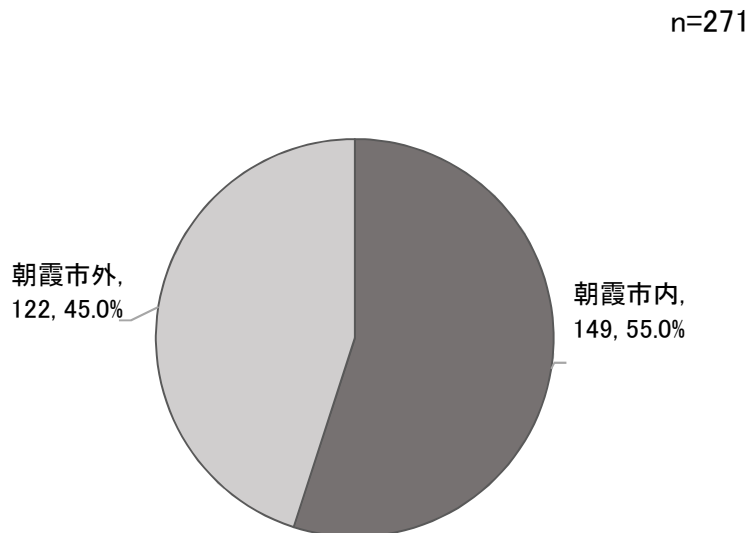
F6 あなたは、朝霞市にお住まいになってどれくらいになりますか。

回答者の朝霞市に住んでいる年数は、「10年以上」の割合が85.2%で最も高く、続いて「5～9年」(8.5%)、「5年未満」(6.3%)となっている。



F7 あなたの通学や通勤先は。

回答者の通勤・通学先は、「朝霞市内」の割合が55.0%、「朝霞市外」の割合が45.0%である。



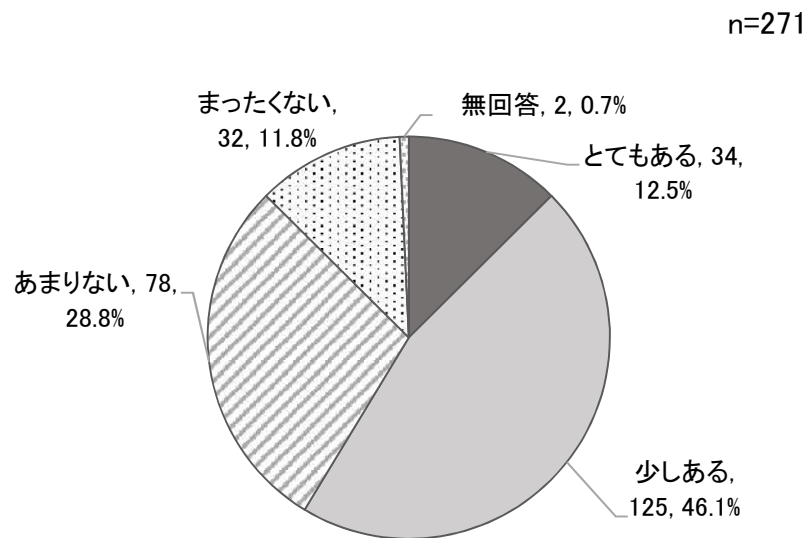
II 回答結果

1. 朝霞市について日頃感じていること

問1 あなたは、「朝霞市のまちづくり」に関心がありますか。次の中から1つ選んでください。

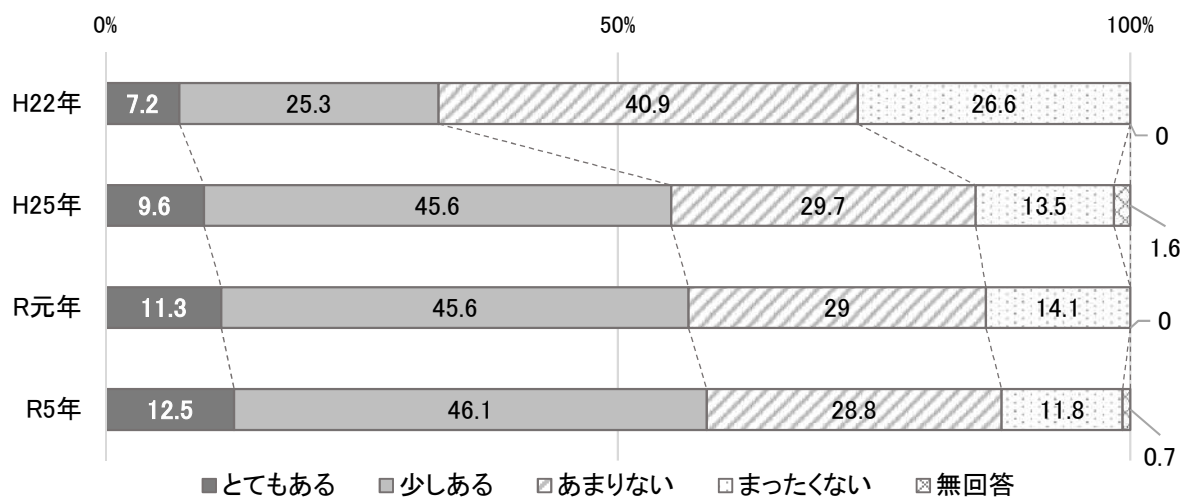
〈全体〉

朝霞市のまちづくりへの興味や関心は、「とてもある」(12.5%)、「少しある」(46.1%)を合わせた“興味・関心がある”の割合が58.6%となっている。一方、「あまりない」(28.8%)、「まったくない」(11.8%)を合わせた“興味・関心がない”の割合が40.6%となっている。



〈経年比較〉

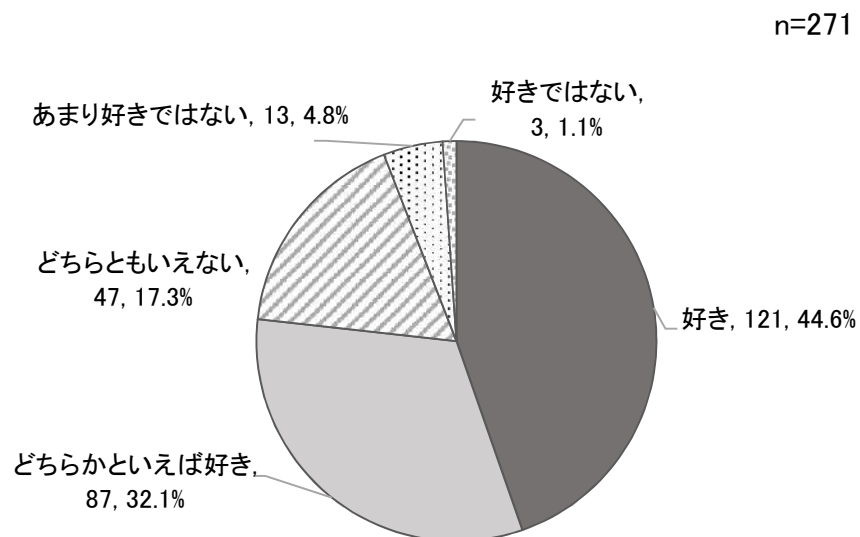
「とてもある」、「少しある」の割合は平成 22 年以降、増加している。



問2 あなたは「朝霞市」が好きですか。次の中から1つ選んでください。

〈全体〉

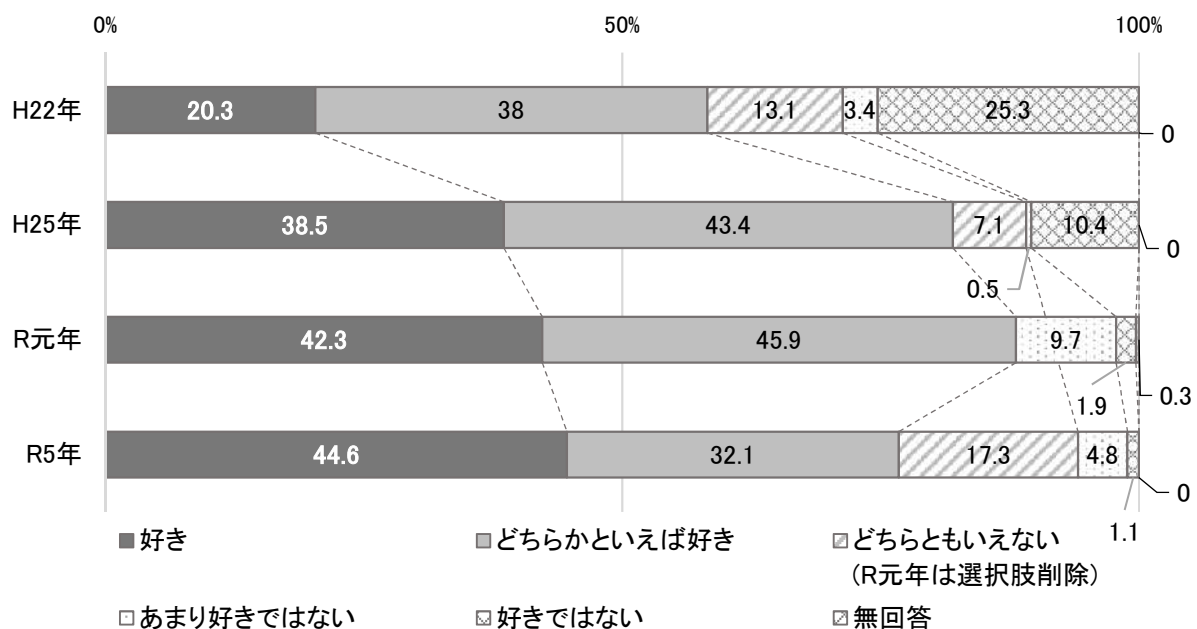
朝霞市が好きかどうかは、「好き」(44.6%)、「どちらかといえば好き」(32.1%)を合わせた“好き”の割合が76.7%となっている。一方、「あまり好きではない」(4.8%)、「好きではない」(1.1%)を合わせた“嫌い”の割合が5.9%となっている。



〈経年比較〉

「好き」の割合は平成 22 年以降、増加している。「どちらかといえば好き」の割合は、増加傾向にあったが、令和 5 年に減少した。

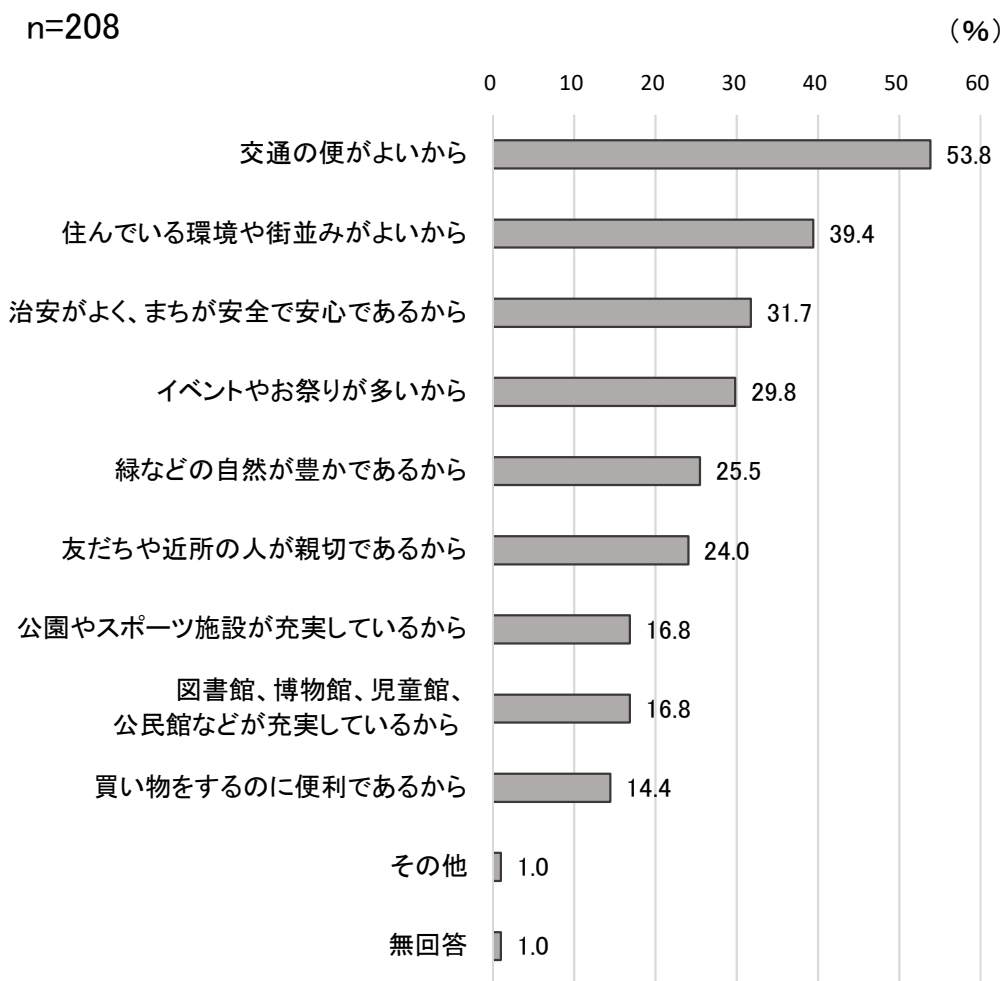
※平成 22 年、平成 25 年は、選択肢「嫌い」を「好きではない」に読み替えている。



問3 問2で「好き」「どちらかといえば好き」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

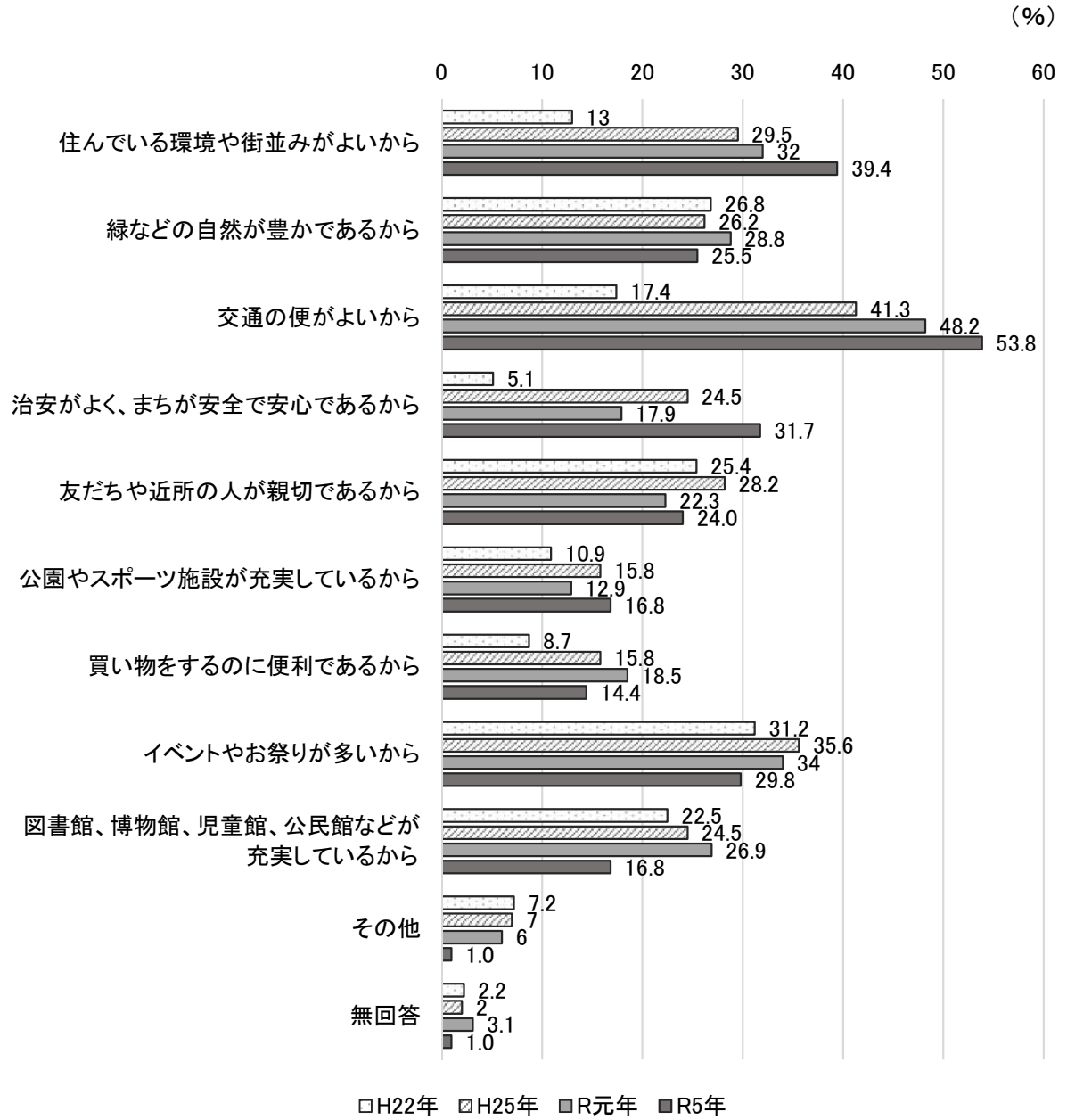
〈全体〉

朝霞市が好きな理由は、「交通の便がよいから」の割合が 53.8%で最も高く、続いて「住んでいる環境や街並みがよいから」(39.4%)、「治安がよく、まちが安全で安心であるから」(31.7%)となっている。



〈経年比較〉

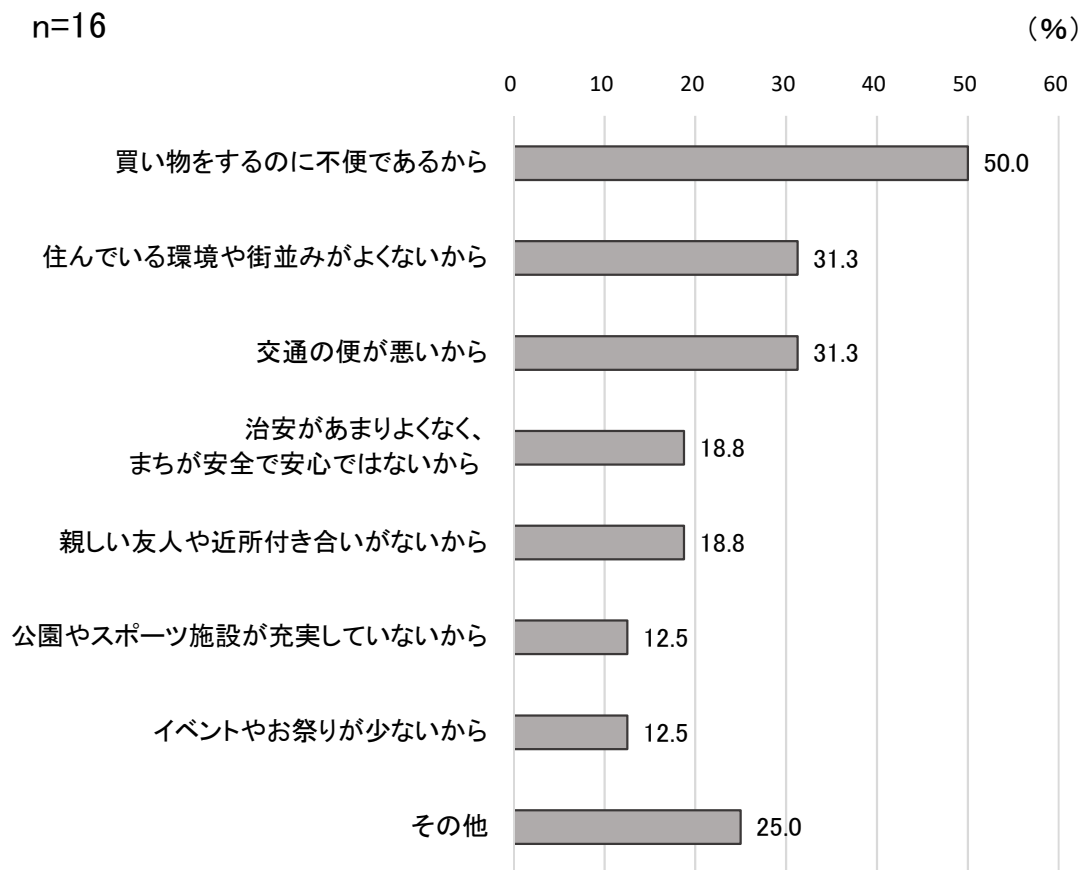
「交通の便がよい」の割合は平成 22 年以降、増加している。「住んでいる環境や街並みがよいから」、
「治安がよく、まちが安全であるから」の割合が、令和 5 年に大きく増加している。



問4 問2で「あまり好きではない」「好きではない」を選んだ方にお聞きします。その理由は何ですか。次の中から3つまで選んでください。

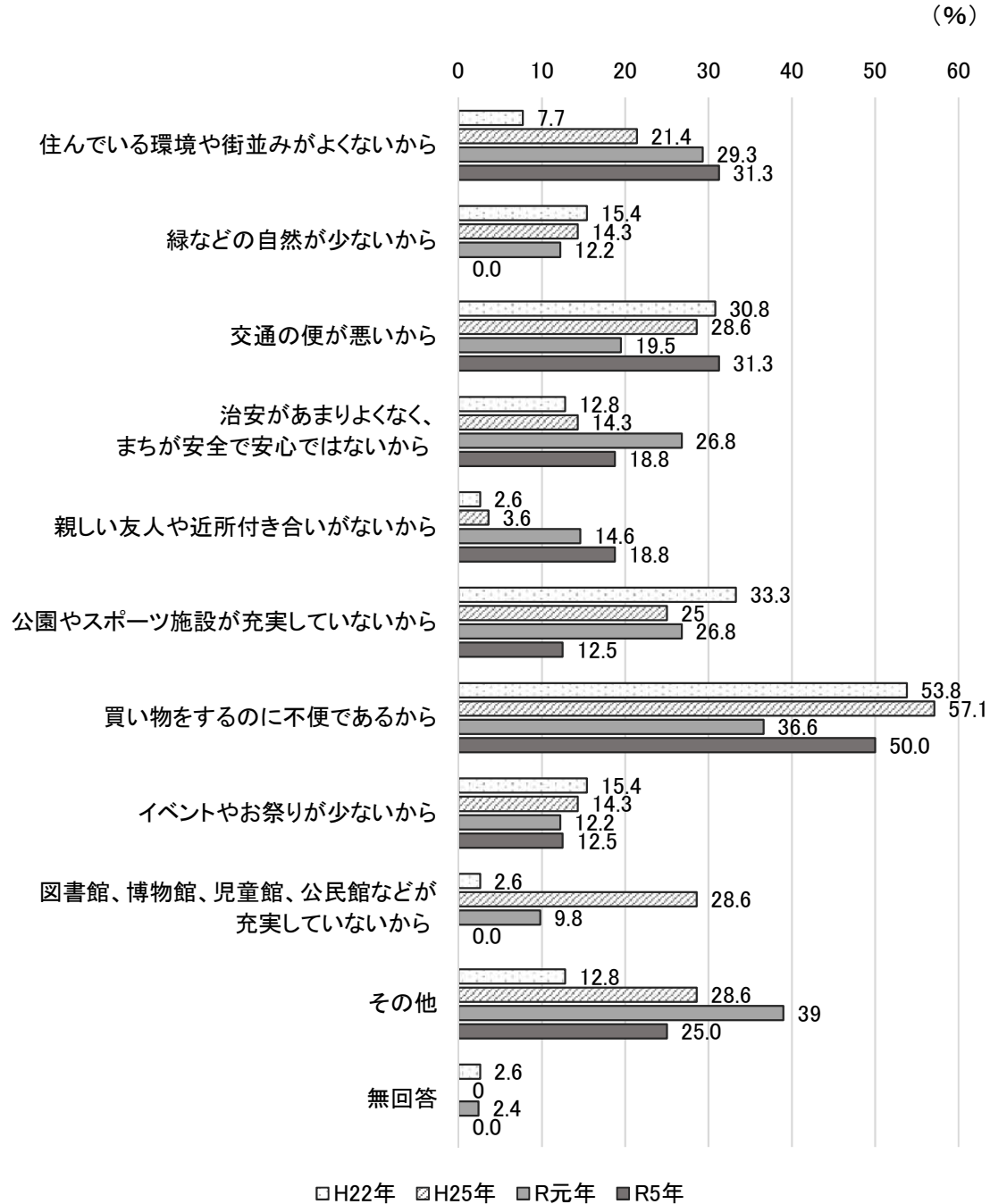
〈全体〉

朝霞市が好きではない理由は、「買い物をするのに不便であるから」の割合が 50.0%で最も高く、続いて「住んでいる環境や街並みがよくないから」、「交通の便が悪いから」（ともに 31.3%）となっている。



〈経年比較〉

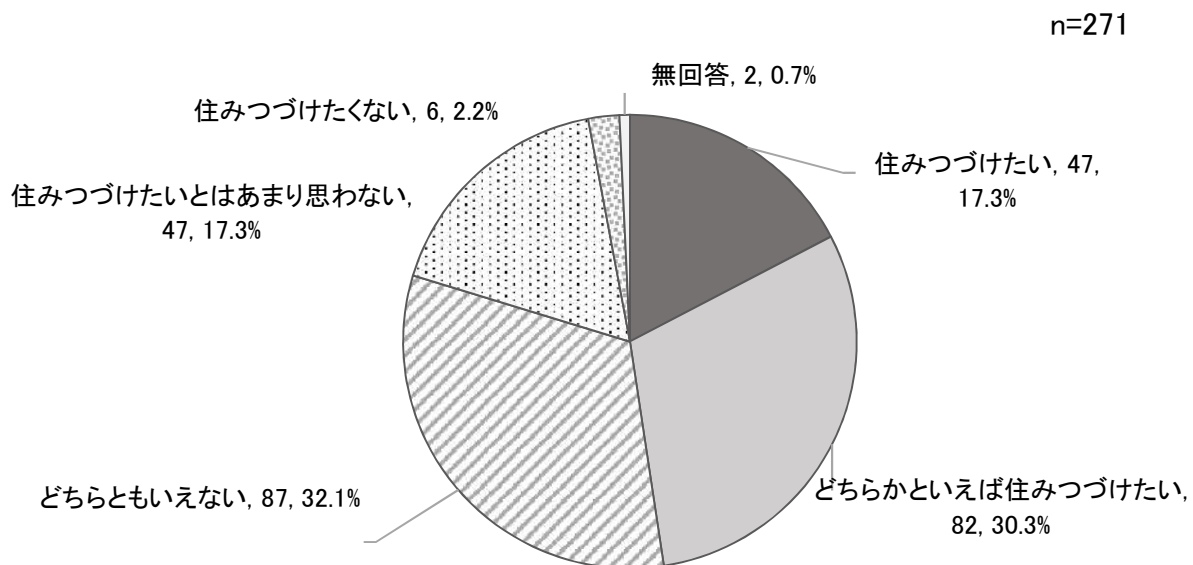
「住んでいる環境やまちなみがよくない」割合は平成 22 年以降、増加している。「交通の便が悪いから」の割合は、平成 22 年以降、減少していたが、令和 5 年に大きく増加している。また、「買い物をするのに不便であるから」の割合は令和元年に減少したが、令和 5 年に再び増加している。



問5 大人になっても、朝霞市に住みつづけたいですか。次の中から1つ選んでください。

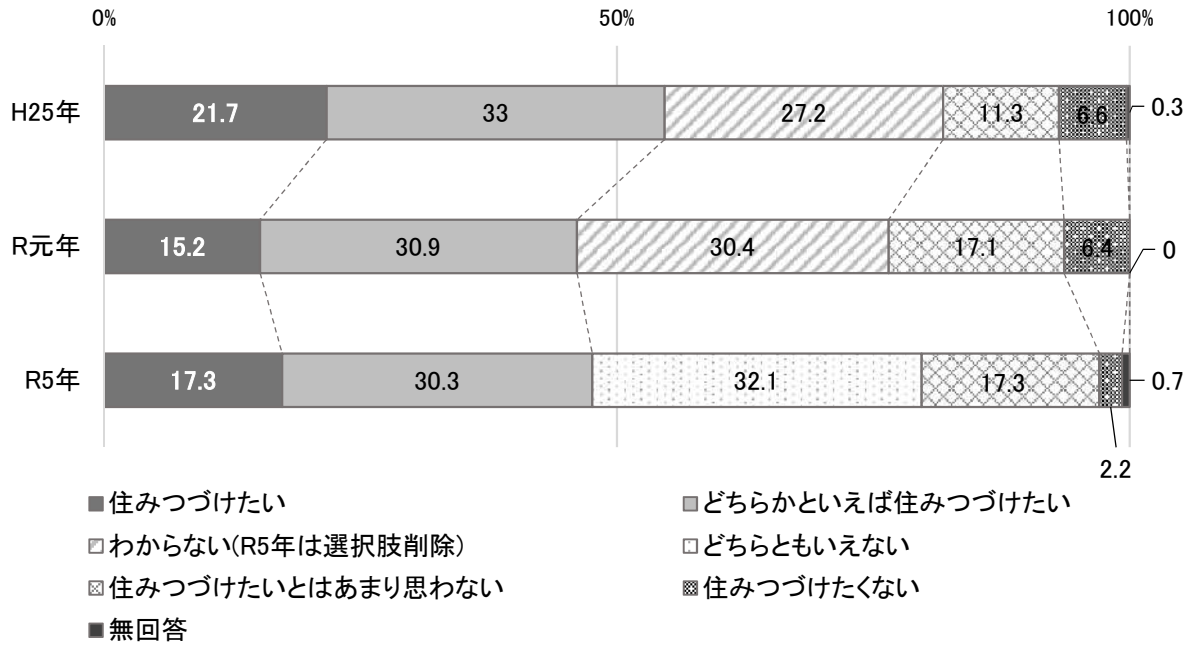
〈全体〉

大人になっても朝霞市に住みたいかどうかは、「住みつづけたい」(17.3%)、「どちらかといえば住みつづけたい」(30.3%)を合わせた“住みつづけたい”の割合が47.6%となっている。一方、「住みつづけたいとはあまり思わない」(17.3%)、「住みつづけたくない」(2.2%)を合わせた“住みつづけたくない”の割合が19.5%となっている。



〈経年比較〉

「住みつけたい」、「どちらかといえば住みつけたい」の割合は令和5年に増加したが、依然5割を下回っている。一方、令和5年の新設の選択肢「どちらともいえない」は、平成25年、令和元年の選択肢「わからない」と同程度となっている。

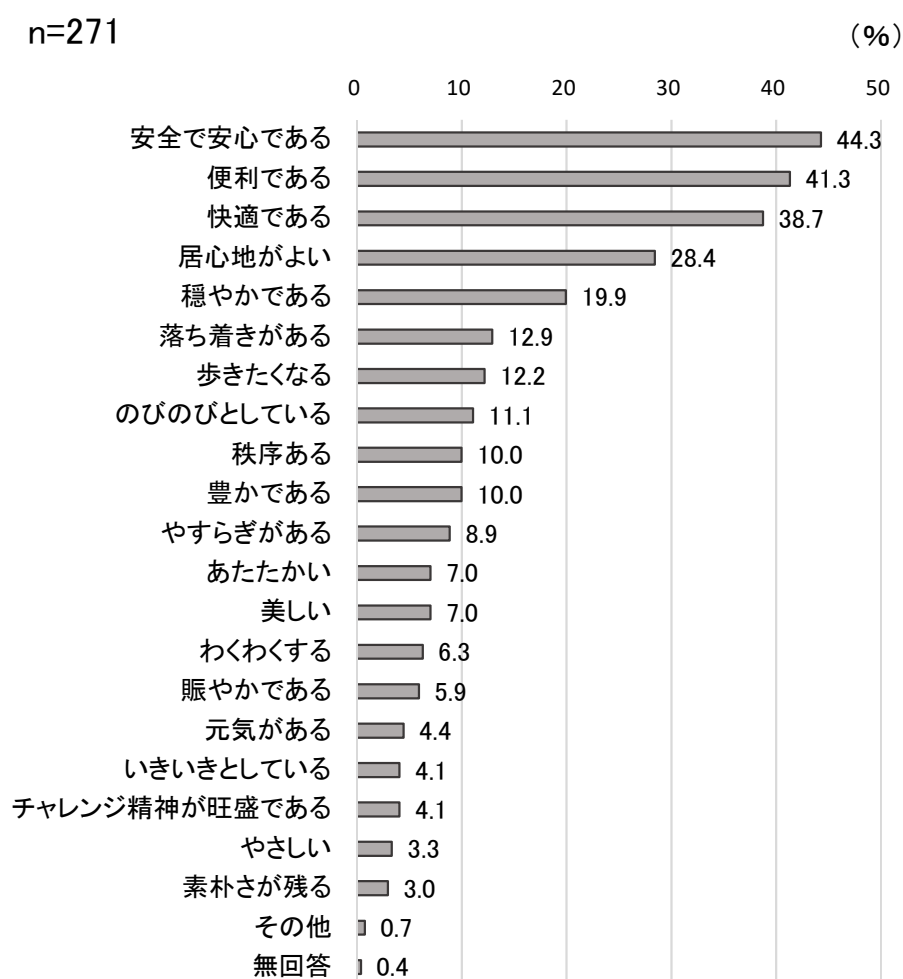


2. これからのまちづくりについて

問6 将来の朝霞市はどのようなまちであればよいと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つまで選んでください。

〈全体〉

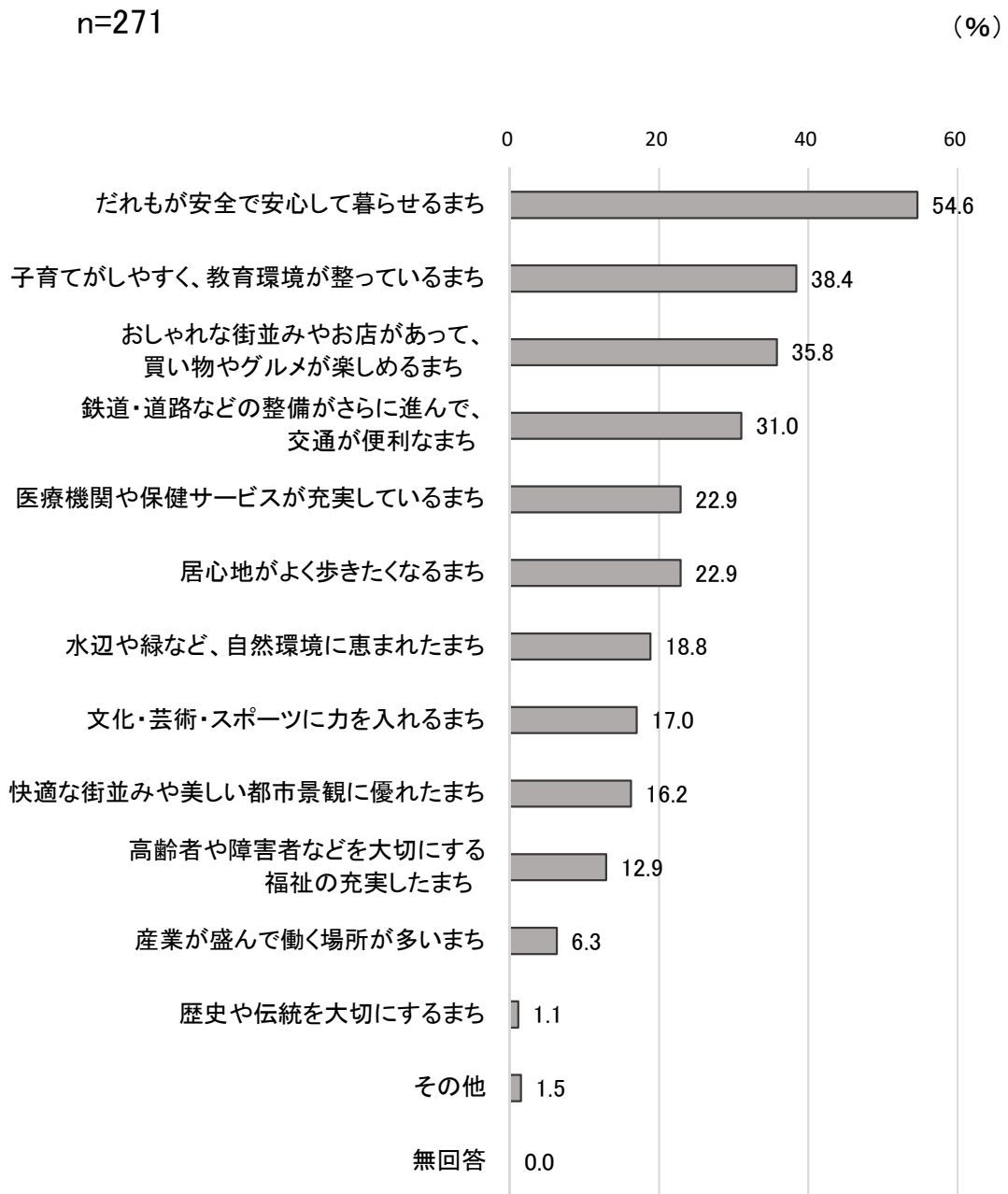
将来の朝霞市の望ましいイメージは、「安全で安心である」の割合が 44.3%で最も高く、続いて「便利である」(41.3%)、「快適である」(38.7%)、「居心地がよい」(28.4)となっている。上位項目の順位は、市民意識調査と同様である。



問7 あなたは、将来の朝霞市をどのようなまちにしていきたいと思いますか。あなたのイメージに近いものを、次の中から3つまで選んでください。

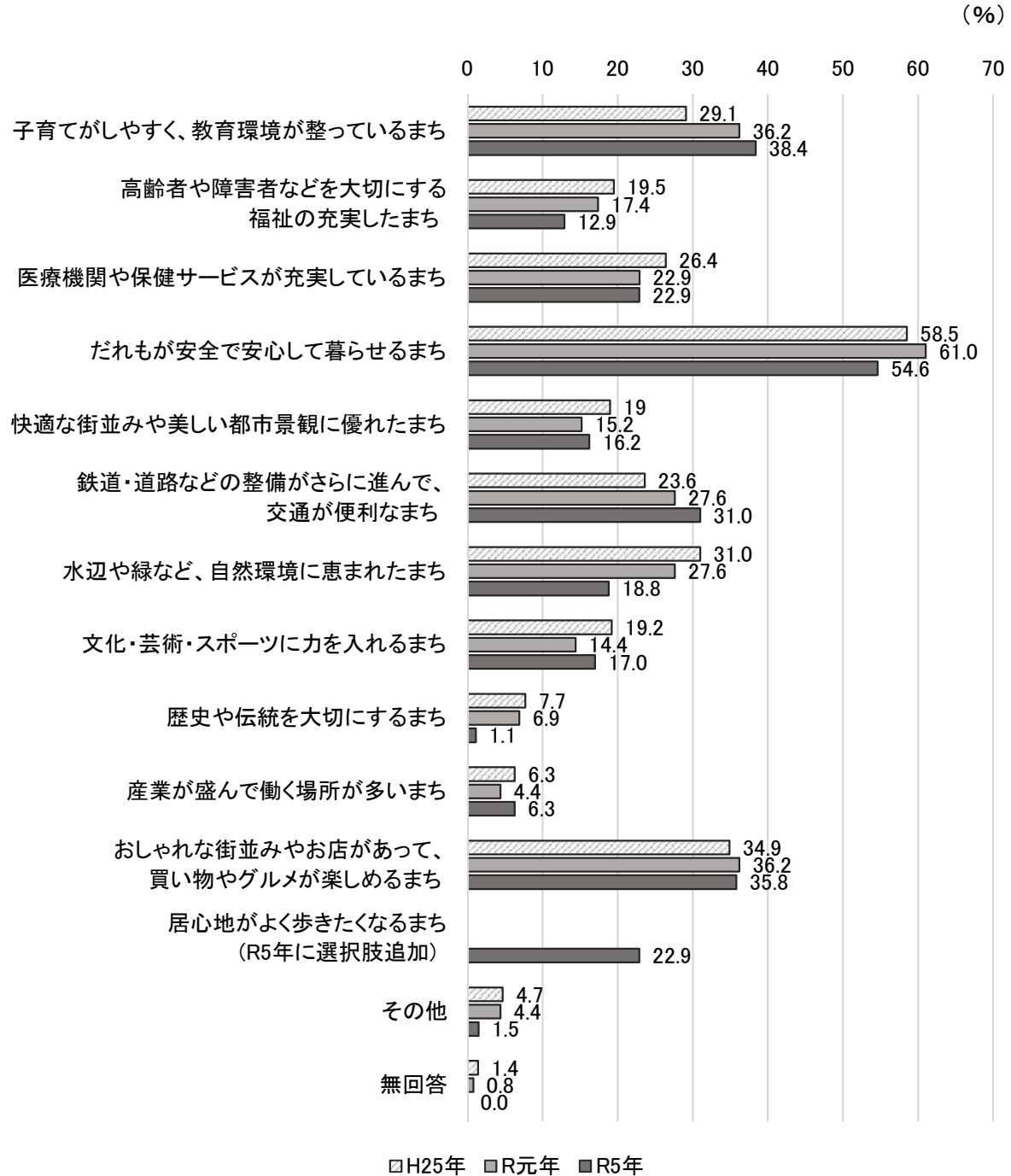
〈全体〉

まちづくりの方向性は、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」の割合が 54.6%で最も高く、続いて「子育てがしやすく、教育環境が整っているまち」(38.4%)、「おしゃれな街並みやお店があって、買い物やグルメが楽しめるまち」(35.8%)となっている。



〈経年比較〉

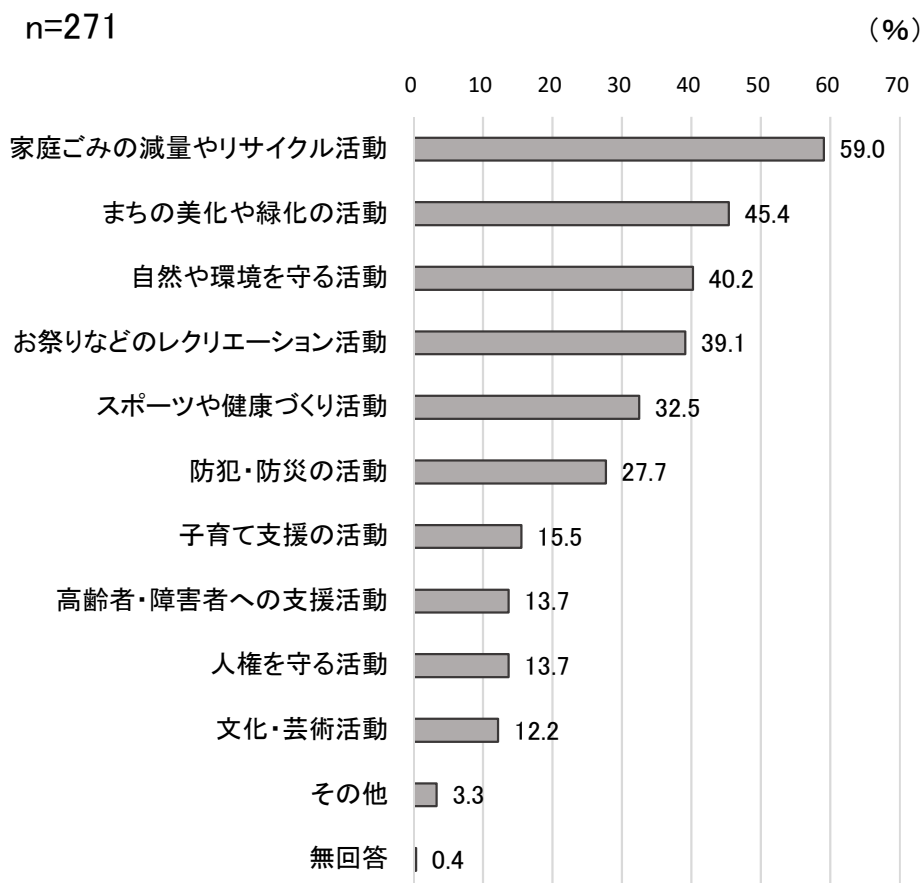
上位項目に大きな違いはみられないが、「だれもが安全で安心して暮らせるまち」は令和5年に減少している。一方、「子育てがしやすく、教育環境が整っているまち」、「鉄道・道路などの整備がさらに進んで、交通が便利なまち」の割合は、年々増加している。



問8 あなたは、朝霞市のまちづくりのために、どのようなことができると思いますか。あなたが現在または将来できると思う活動を、次の中からすべて選んでください。

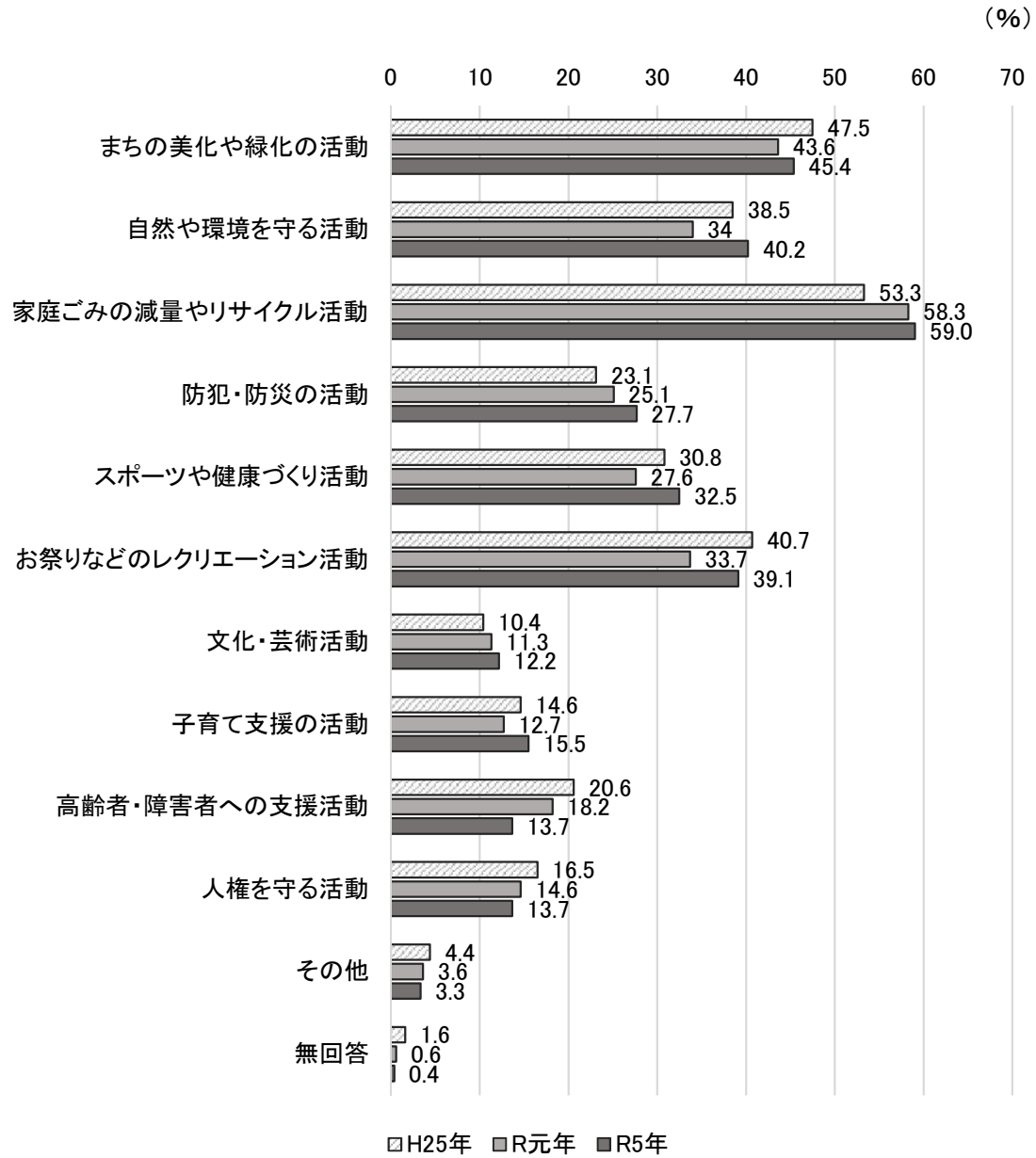
〈全体〉

現在、または将来できると思う活動は、「家庭ごみの減量やリサイクル活動」の割合が59.0%で最も高く、続いて「まちの美化や緑化の活動」（45.4%）、「自然や環境を守る活動」（40.2%）となっている。



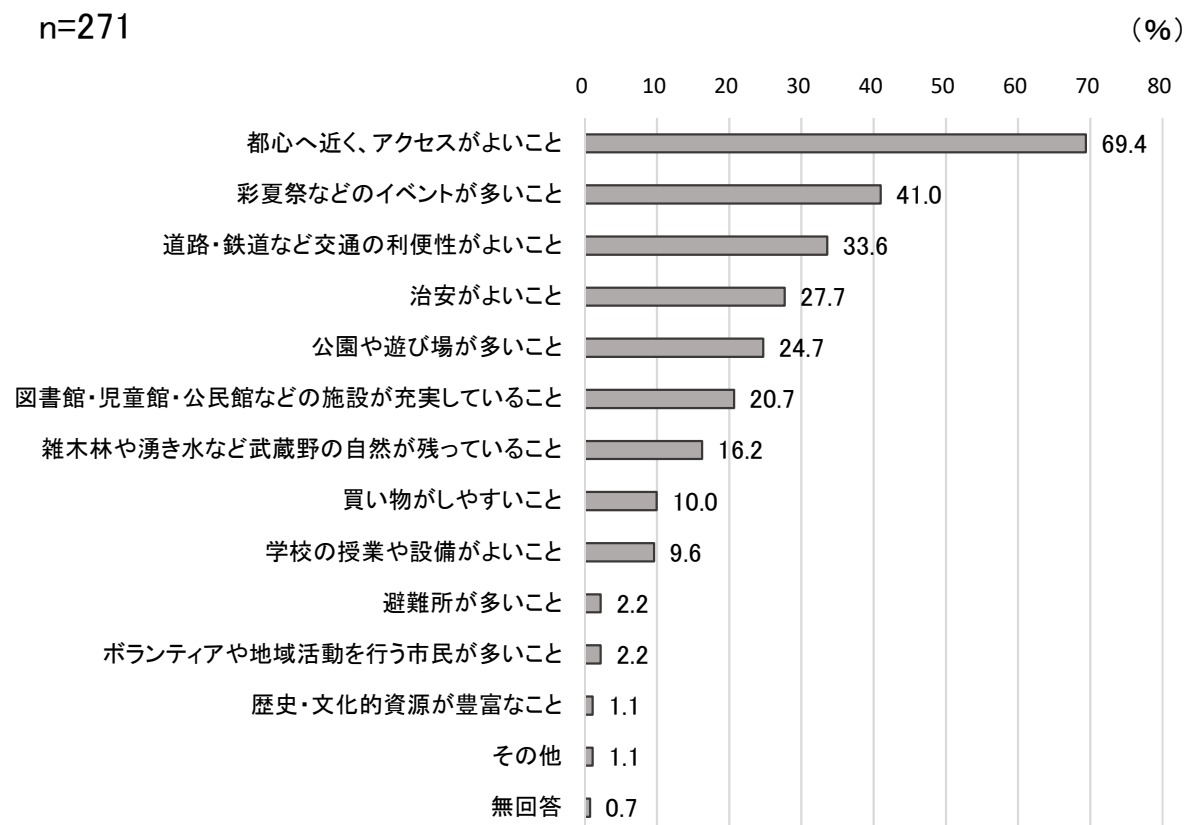
〈経年比較〉

上位項目に大きな違いはみられないが、「まちの美化や緑化の活動」、「自然や環境を守る活動」、「お祭りなどのレクリエーション活動」などは、令和5年に増加に転じた。



問9 あなたは、未来に生かしていきたい朝霞市の強みは何だと思いますか。次の中からあなたのお考えに最も近いものを3つまで選んでください。

未来に生かしていきたい朝霞市の強みは、「都心へ近く、アクセスがよいこと」の割合が69.4%で最も高く、続いて「彩夏祭などのイベントが多いこと」(41.0%)、「道路・鉄道など交通の利便性がよいこと」(33.6%)となっている。



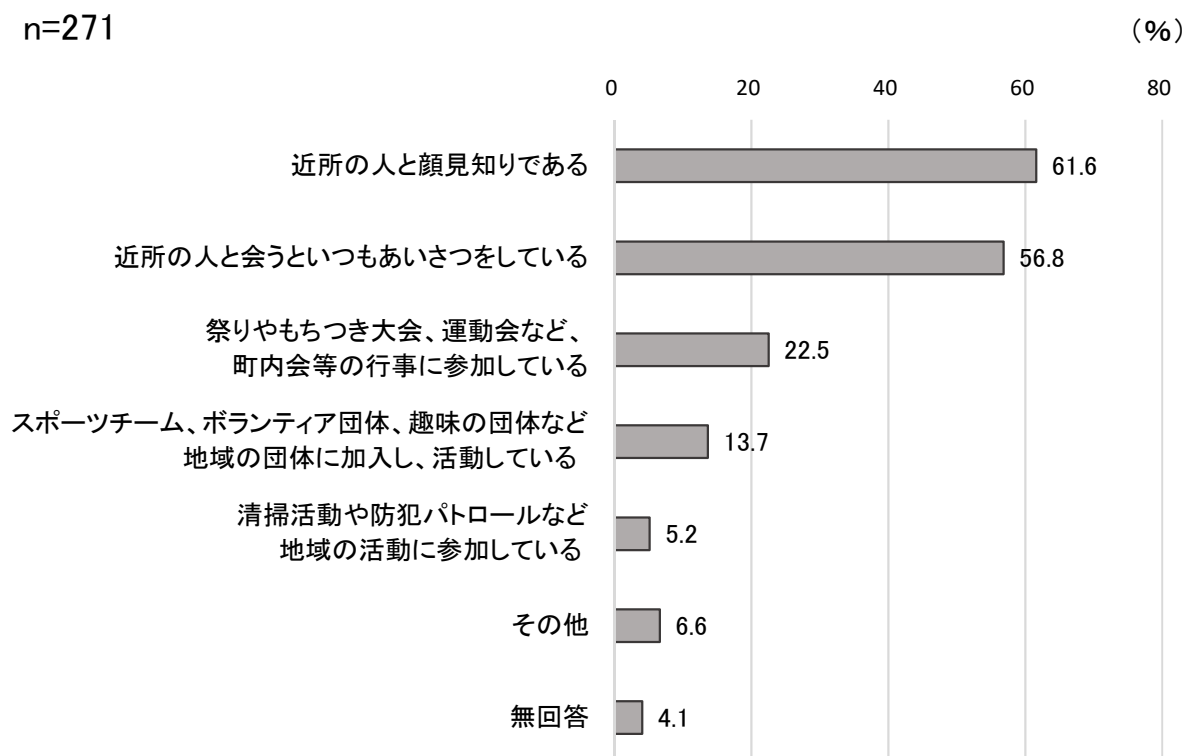
3. 地域との関わりについて

問10 あなたは、日頃、地域とどのような関わりをもっていますか。次の中からあなたに当てはまるものをすべて選んでください。

〈全体〉

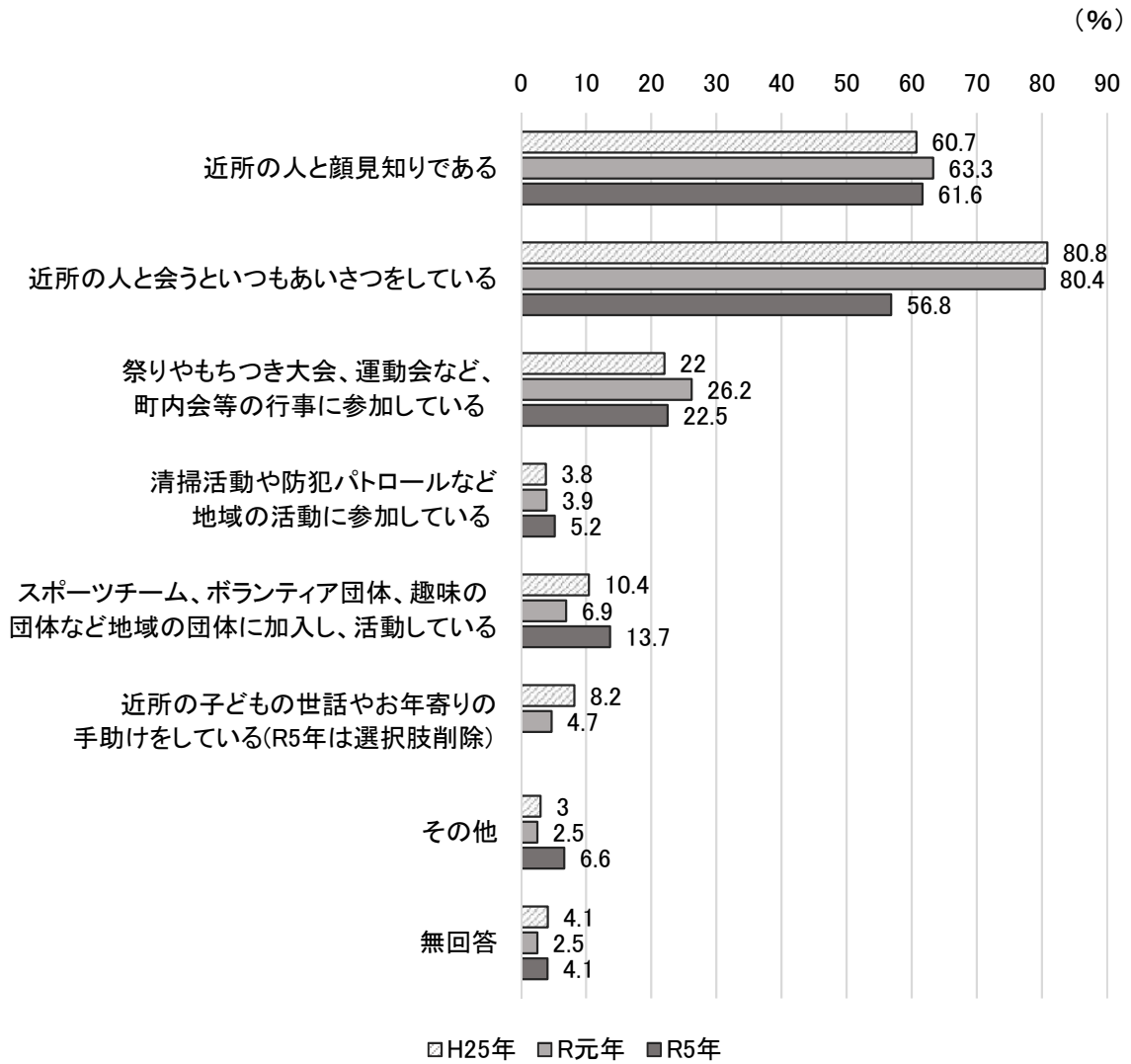
日頃の地域との関わりは、「近所の人と顔見知りである」の割合が61.6%で最も高く、続いて「近所の人と会うとあいさつをしている」(56.8%)となっている。

n=271



〈経年比較〉

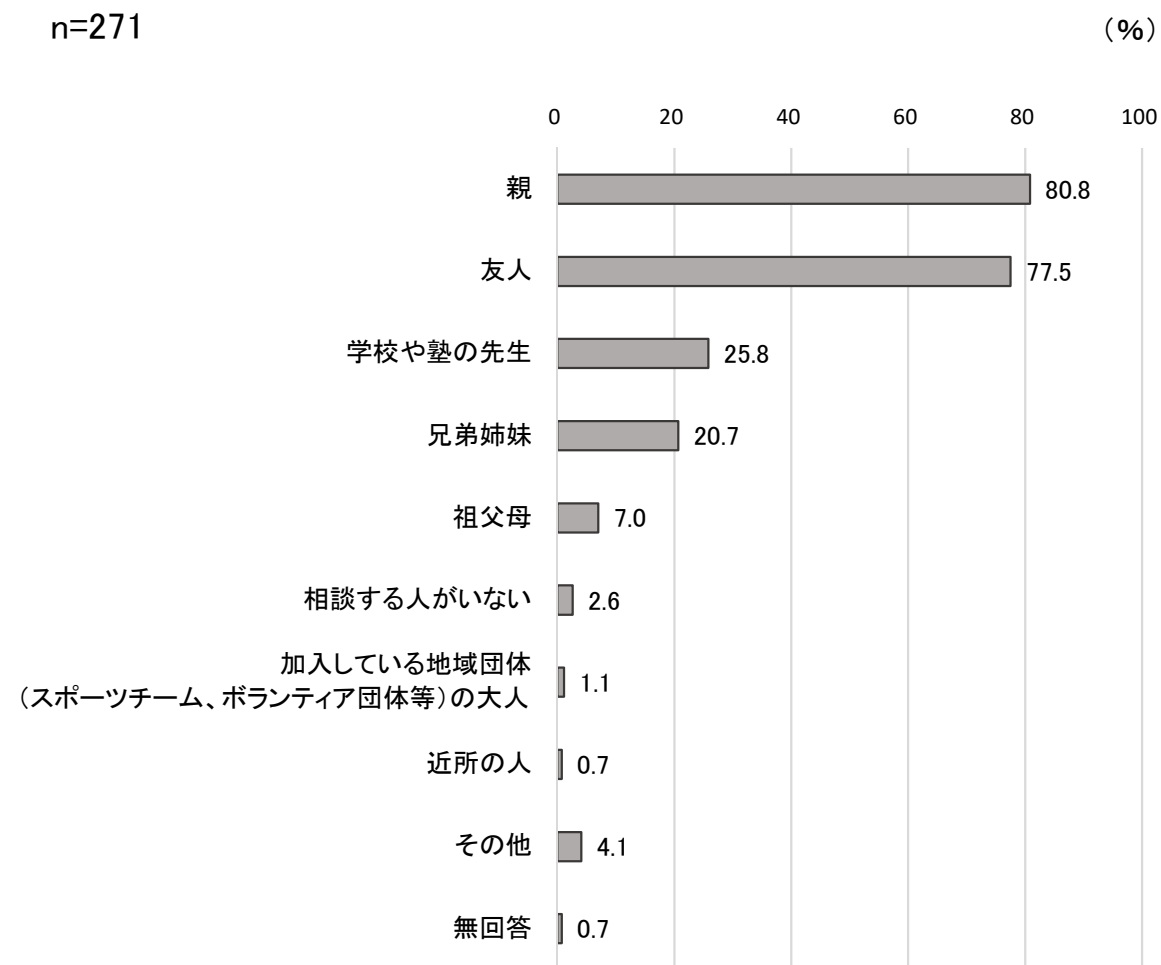
上位項目のうち、「近所の人と会うといつもあいさつをしている」の割合は、令和 5 年に大きく減少している。



問11 あなたは、困ったときや悩んだときに誰に相談することが多いですか。次の中から相談することが最も多い人の番号を3つまで選んでください。

〈全体〉

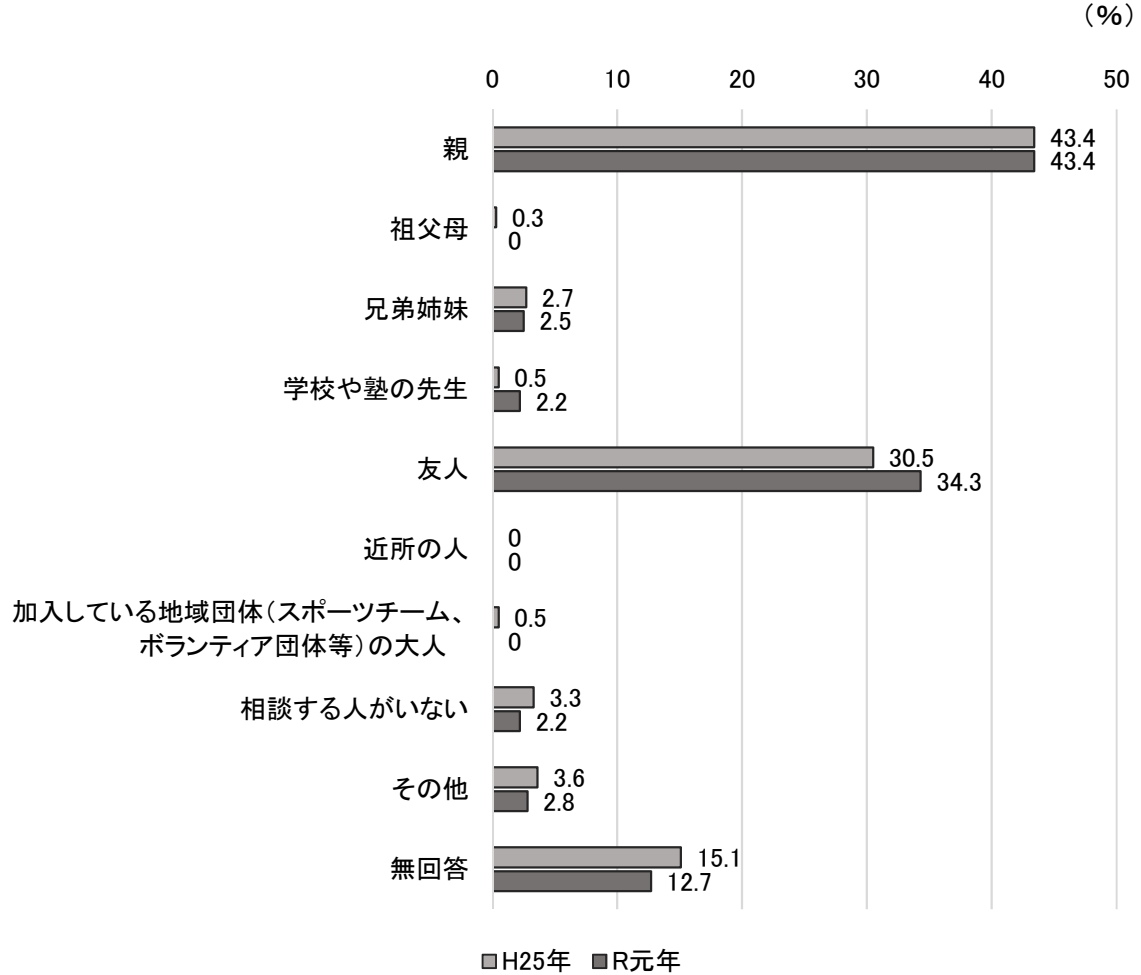
困ったとき、悩んだときに相談する相手は、「親」の割合が80.8%で最も高く、続いて「友人」(77.5%)となっている。



〈経年比較〉

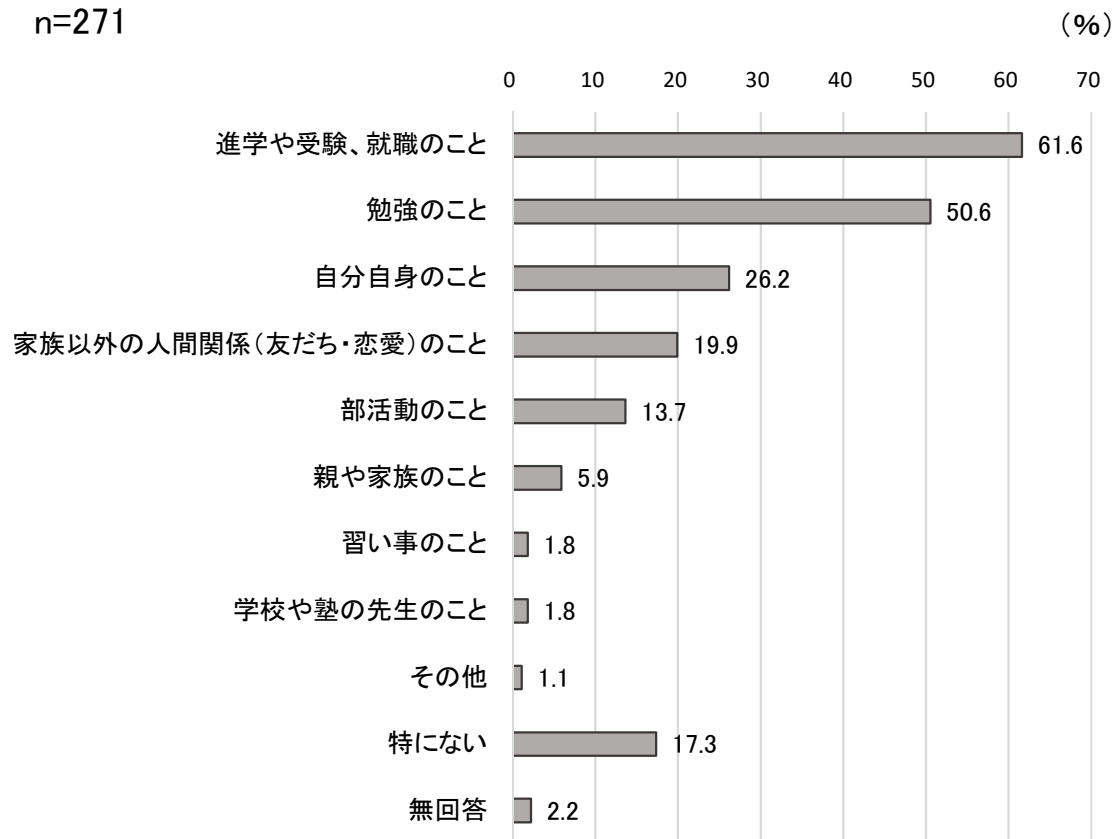
令和元年は、「友人」の割合が増加傾向となっている。

※令和5年に、単一回答から複数回答に変更しているため、令和元年結果は参考として示す。



問11-1 あなたが困っていることや心配なことは何ですか。次の中からあなたに当てはまるものを3つまで選んでください。

困っていることや心配なことは、「進学や受験、就職のこと」が61.6%と最も高く、続いて、「勉強のこと」(50.6%)が高い。

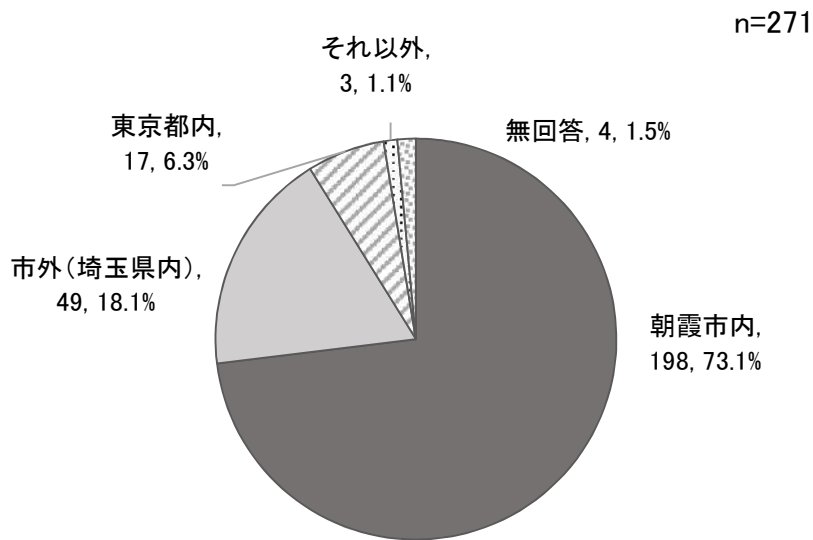


問12 あなたは、平日の放課後（働いている方は仕事が終わった後）や休日は、どこで何を
して過ごしていますか。次の中から、よく過ごしている場所（1つ）と、よくしていること（3
つまで）を選んでください。

【平日の過ごす場所】

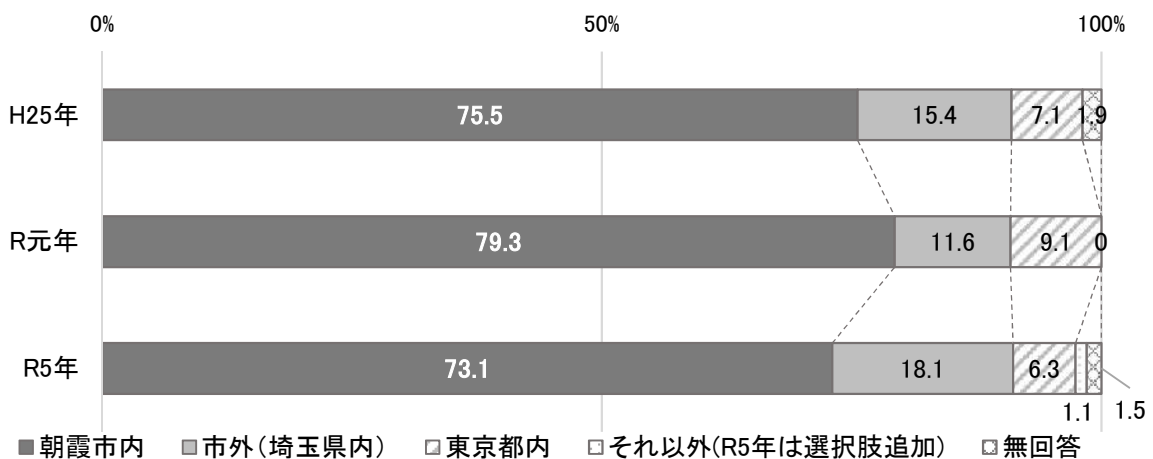
〈全体〉

平日によく過ごす場所は、「朝霞市内」の割合が73.1%で最も高く、続いて「市外（埼玉県内）」
（18.1%）となっている。



〈経年比較〉

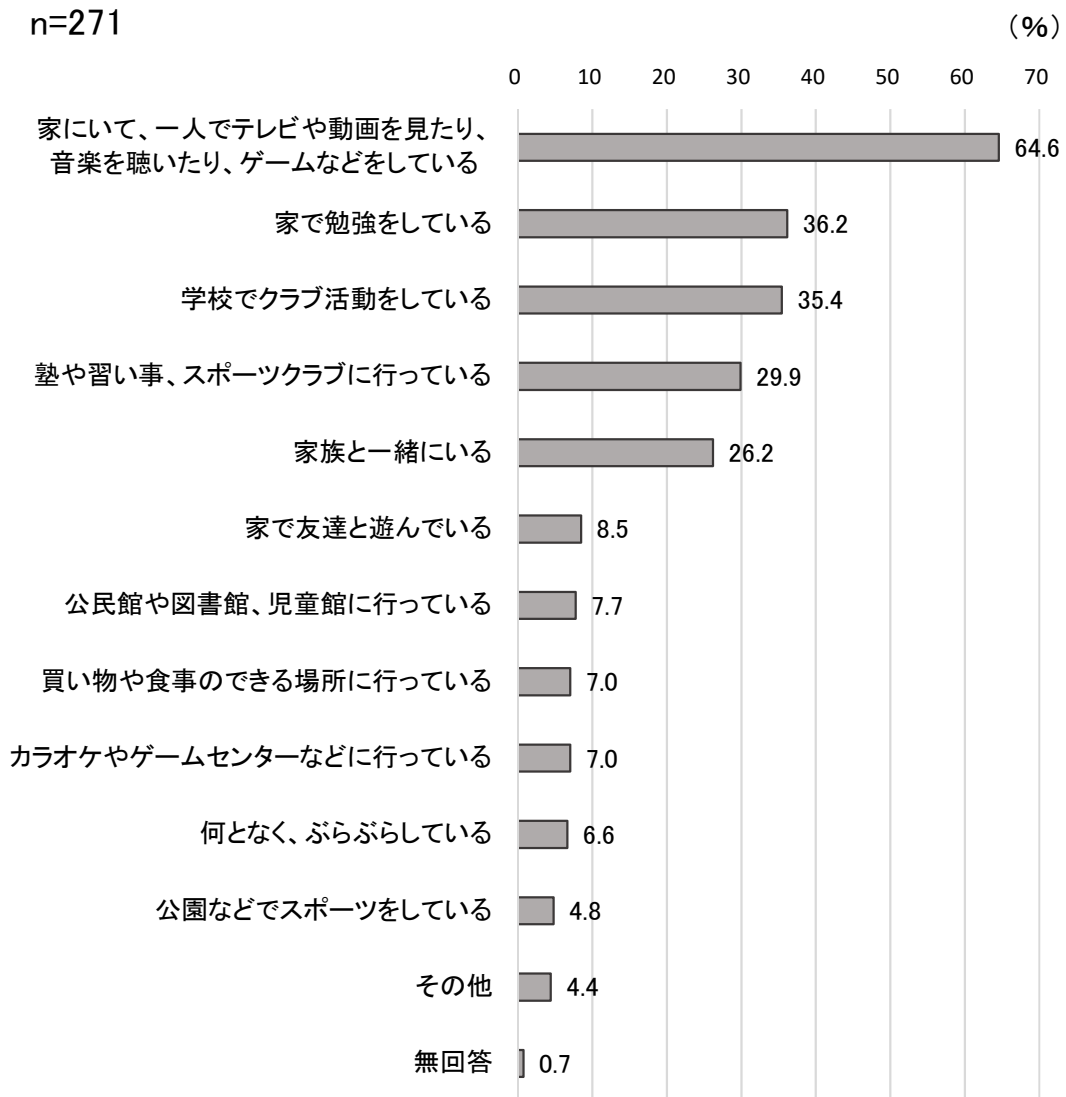
「朝霞市内」の割合が減少し、「市外（埼玉県内）」の割合が増加した。



【平日の過ごし方】

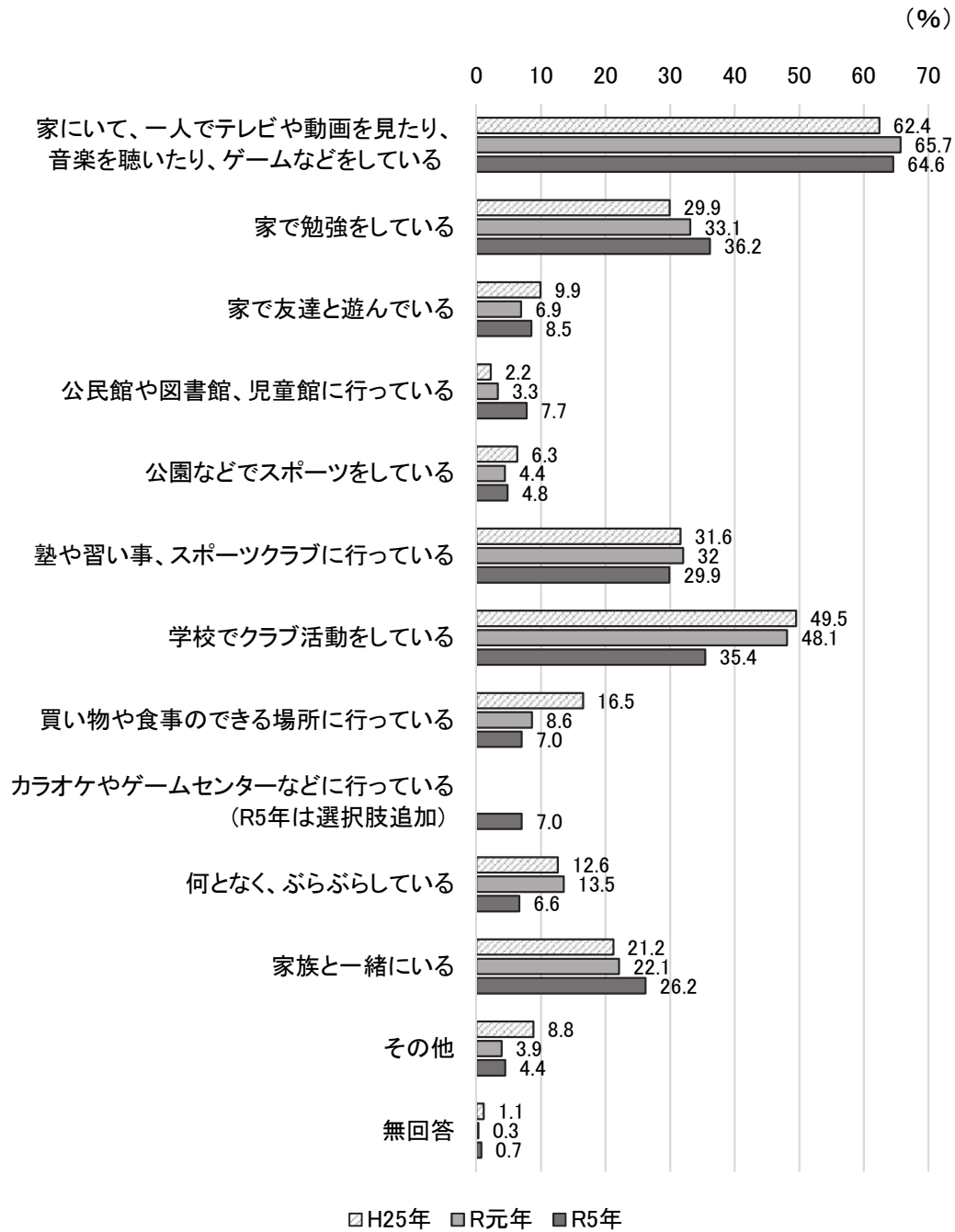
〈全体〉

平日の過ごし方は、「家にいて、一人でテレビや動画を見たり、音楽を聴いたり、ゲームなどを行っている」の割合が 64.6%で最も高く、続いて「家で勉強している」(36.2%)、「学校でクラブ活動をしている」(35.4%)となっている。



〈経年比較〉

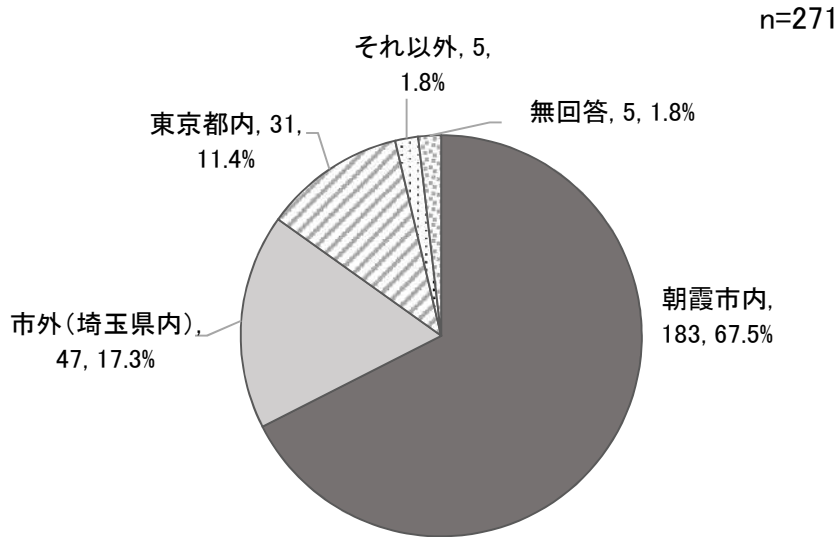
上位項目のうち、「家で勉強をしている」の割合は増加している。一方、「学校でクラブ活動をしている」の割合は減少している。



【休日の過ごす場所】

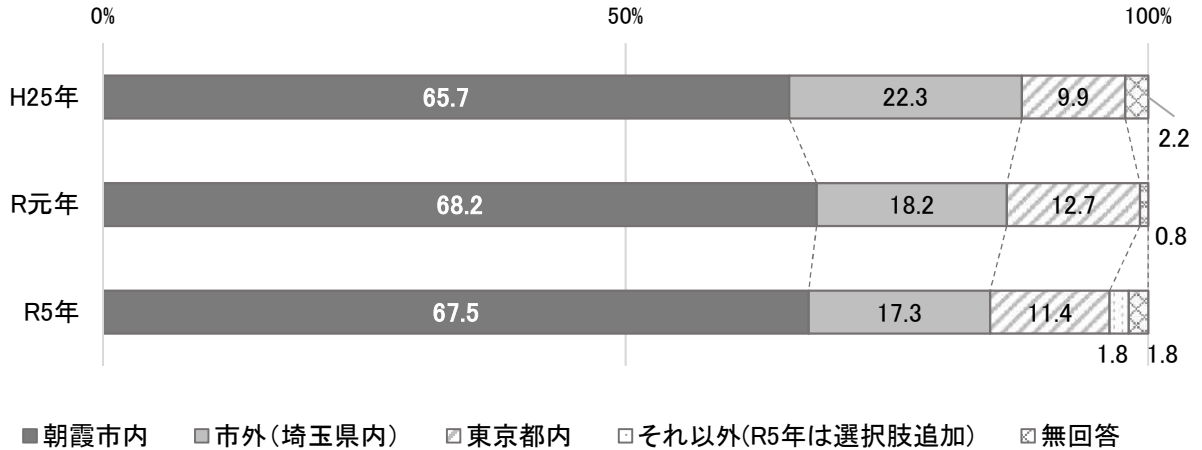
〈全体〉

休日によく過ごす場所は、「朝霞市内」の割合が 67.5%で最も高く、続いて「市外（埼玉県内）」（17.3%）となっている。



〈経年比較〉

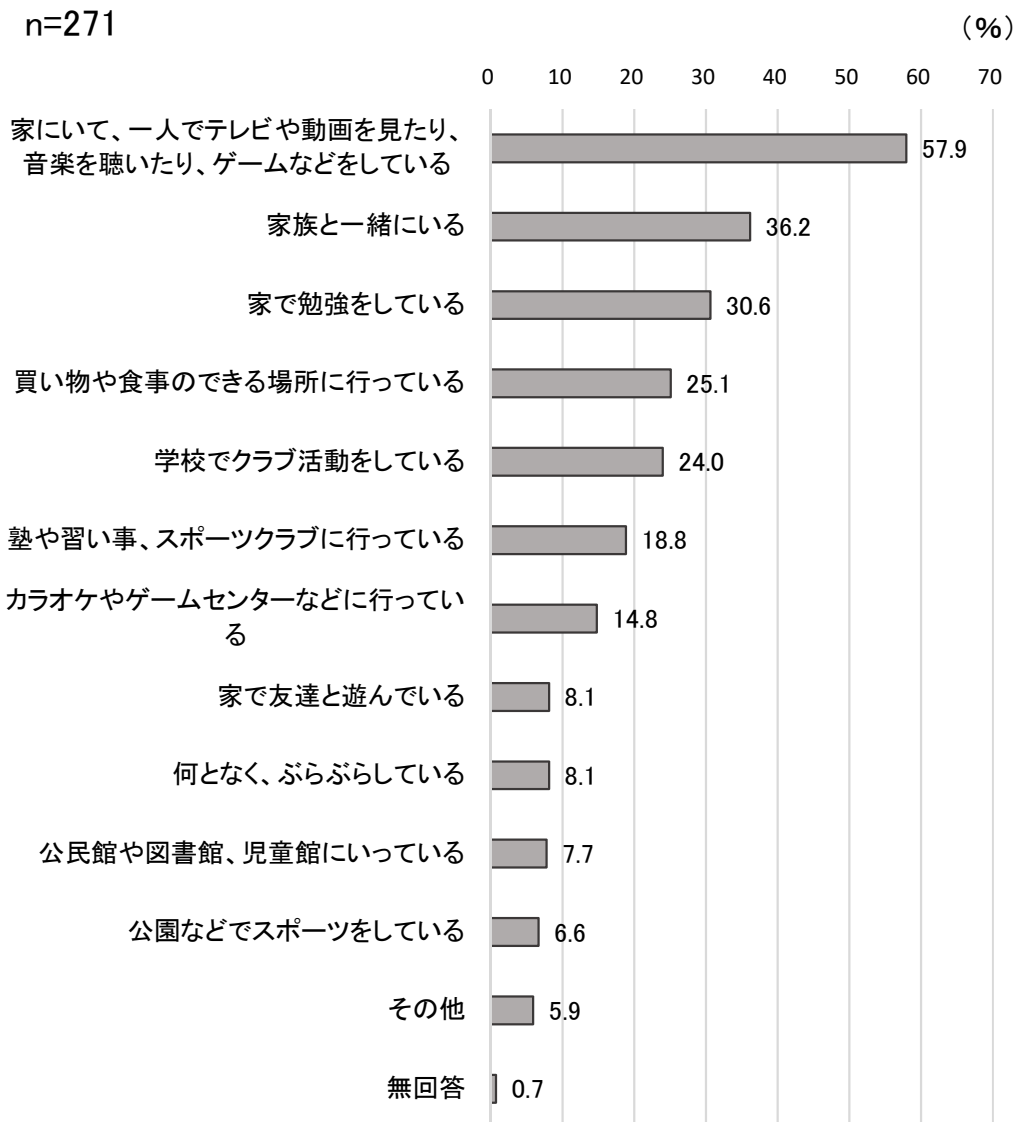
経年でみて、回答に大きな違いはみられない。



【休日の過ごし方】

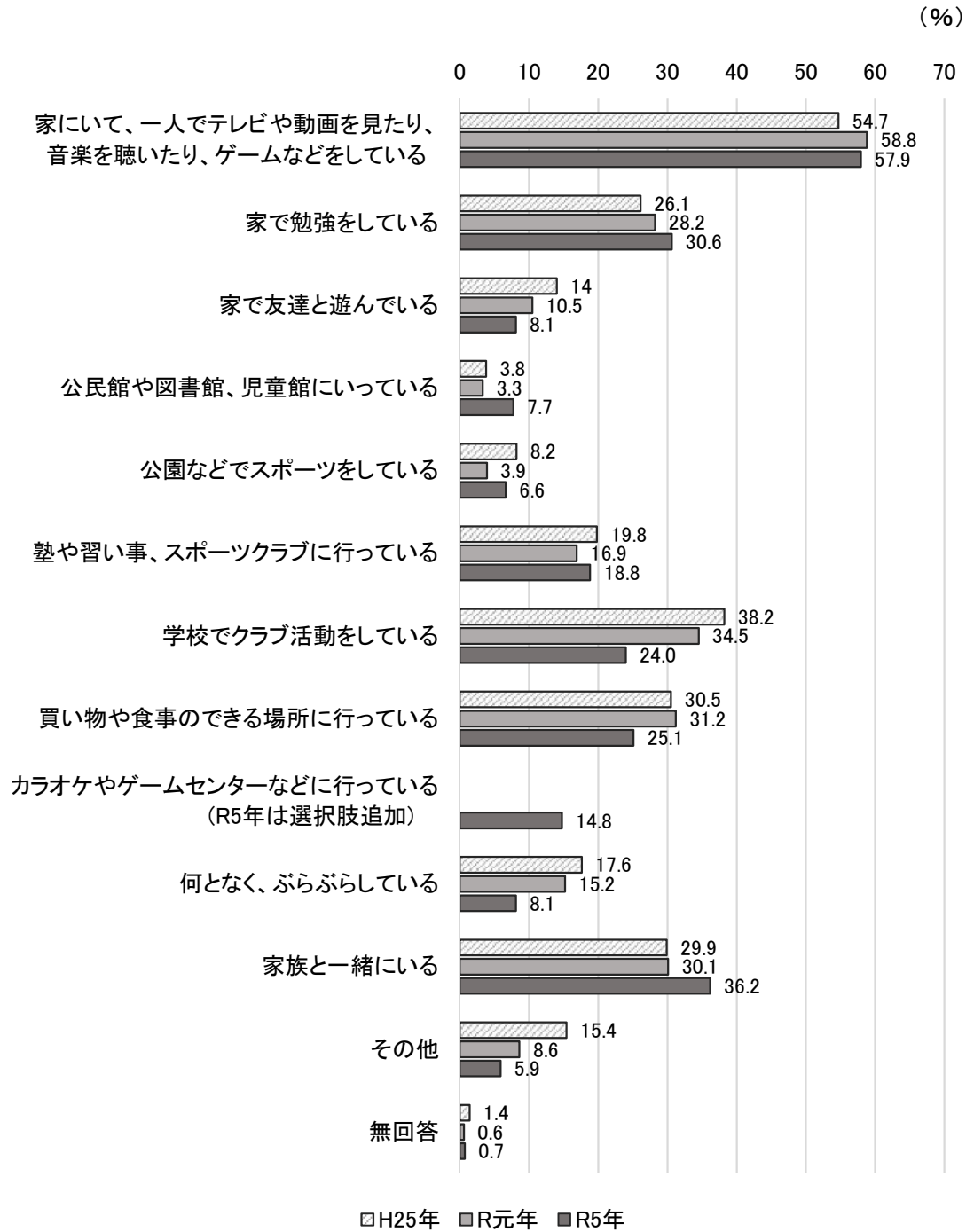
〈全体〉

平日の過ごし方は、「家にいて、一人でテレビや動画を見たり、音楽を聴いたり、ゲームなどを行っている」の割合が 57.9%で最も高く、続いて「家族と一緒にいる」(36.2%)、「家で勉強をしている」(30.6%)となっている。



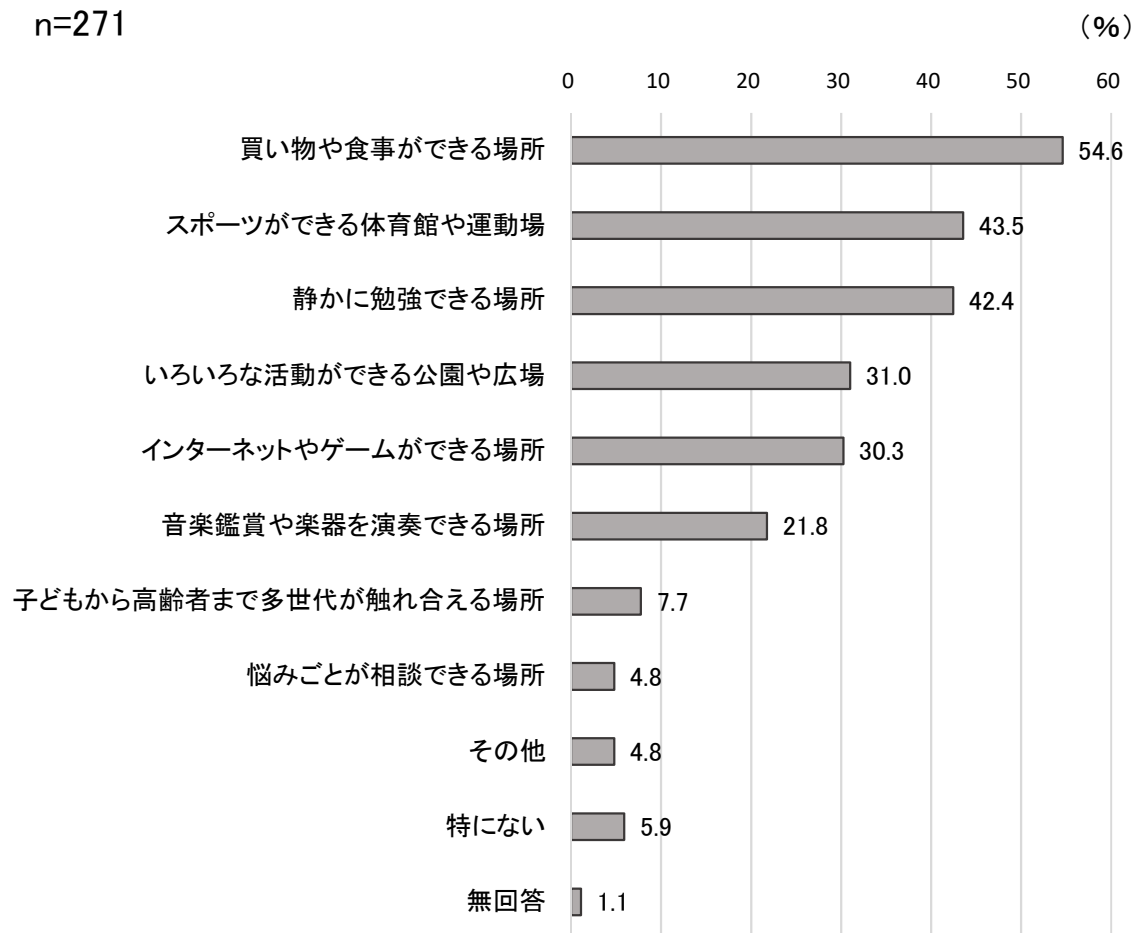
〈経年比較〉

上位項目のうち、「家で勉強をしている」、「家族と一緒にいる」の割合は増加している。一方、「学校でクラブ活動をしている」、「買い物や食事のできる場所に行っている」の割合は減少している。



問13 あなたは、学校や職場と家以外で、放課後や休日に過ごす場所としてどのような場所があればよいと思いますか。次の中から当てはまるものをすべて選んでください。

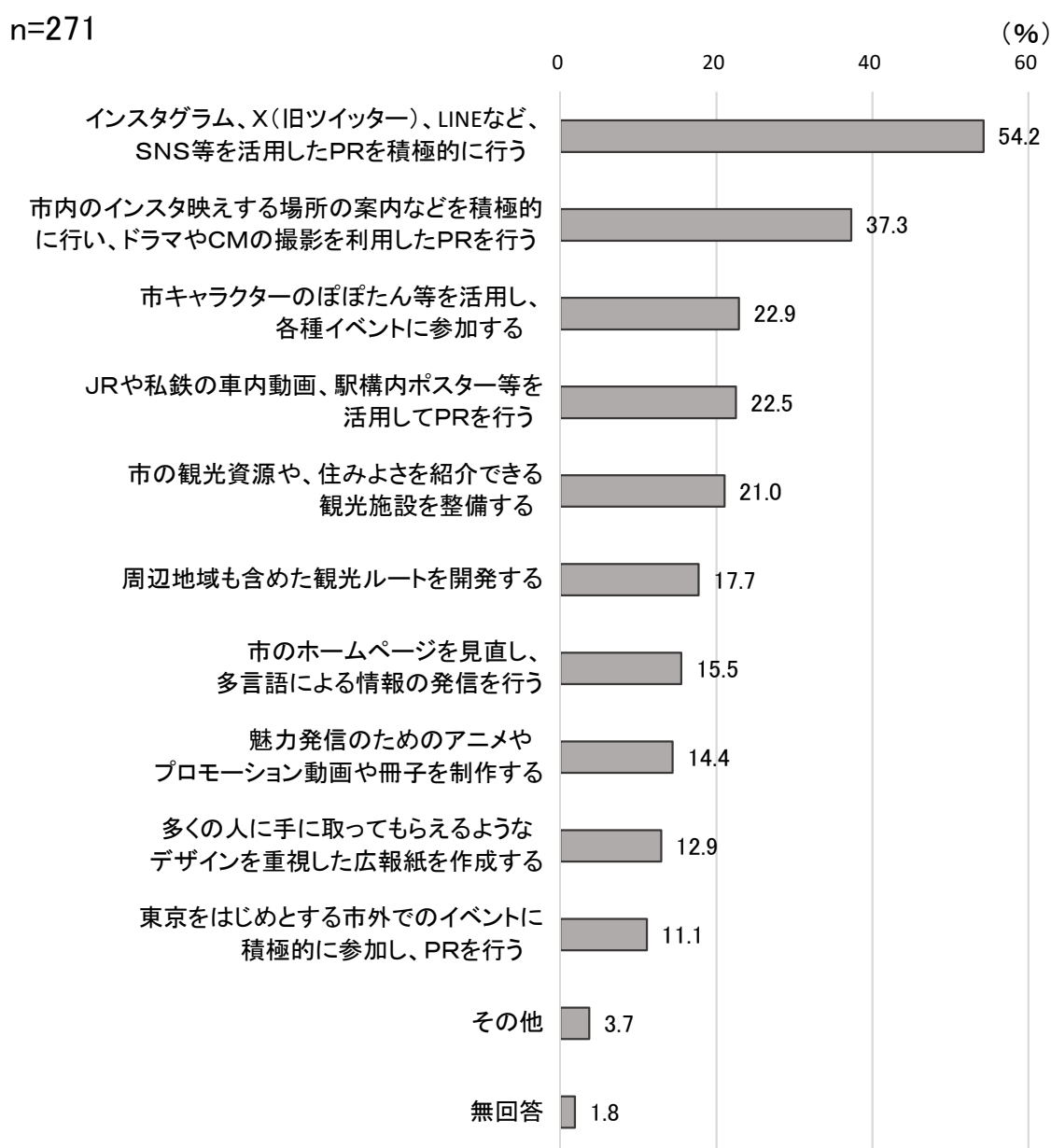
学校や職場と家以外で放課後や休日に望ましい場所は、「買い物や食事ができる場所」の割合が54.6%で最も高く、続いて「スポーツができる体育館や運動場」(43.5%)、「静かに勉強できる場所」(42.4%)となっている。



4. 市の取組について

問14 朝霞市の魅力や情報を市内外に発信する取組に関して、朝霞市がどのようなことに力を入れたらよいと思いますか。次の中から3つまで選んでください。

朝霞市の魅力や情報発信に関して力を入れるべき取組は、「Instagram、X(旧ツイッター)、LINEなど、SNS等を活用したPRを積極的に行う」の割合が54.2%で最も高く、続いて「市内のインスタ映えする場所の案内などを積極的に行い、ドラマやCMの撮影を利用したPRを行う」(37.3%)となっている。

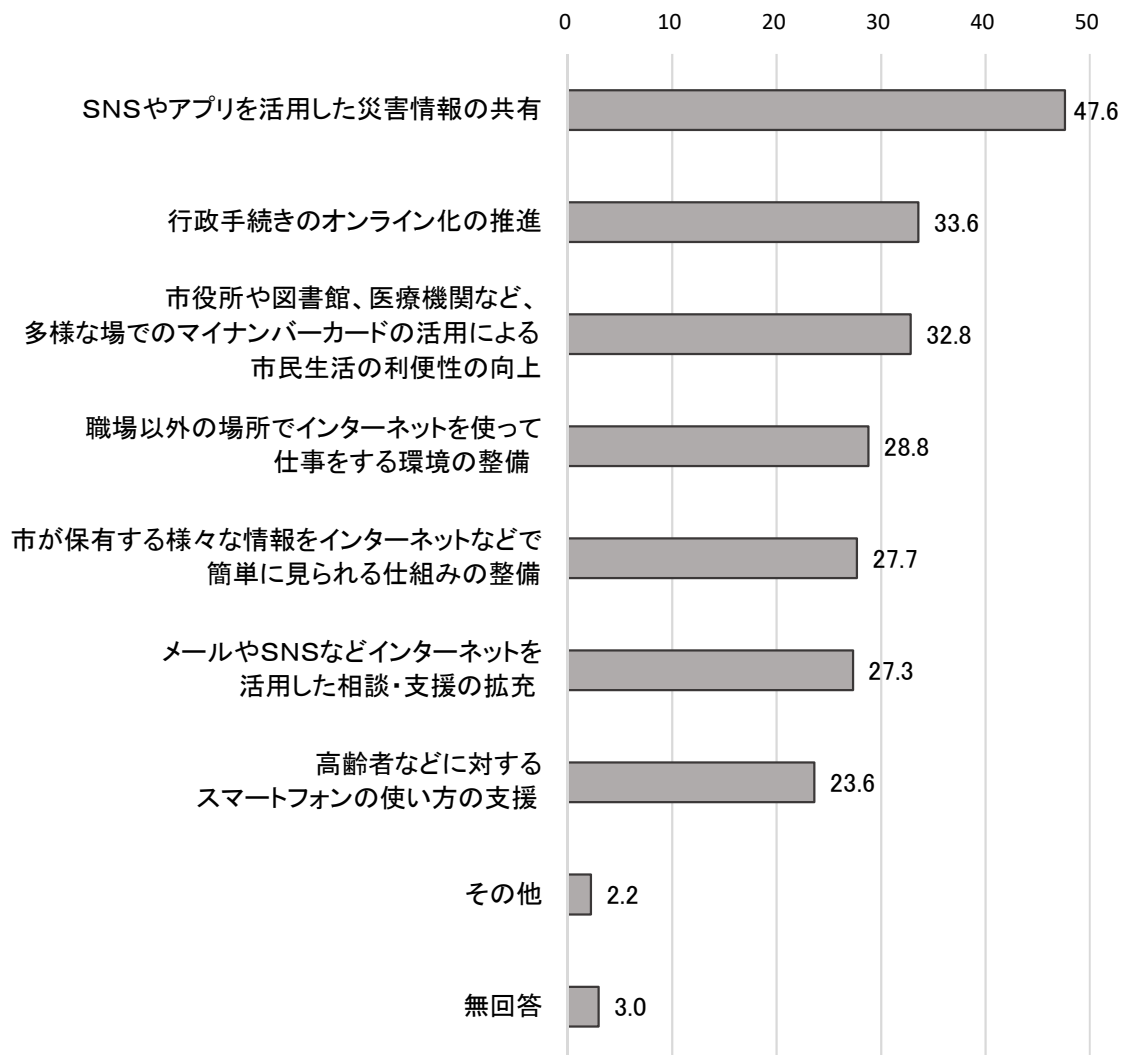


問15 朝霞市において、今後どのようなデジタル化の取組が重要と考えますか。次の中から3つまで選んでください。

重要と考えるデジタル化の取組は、「SNSやアプリを活用した災害情報の共有」の割合が47.6%で最も高く、続いて「行政手続きのオンライン化の推進」(33.6%)、「市役所や図書館、医療機関など、多様な場でのマイナンバーカードの活用による市民生活の利便性の向上」(32.8%)となっている。

n=271

(%)



5. 自由意見

問16 朝霞市の「自慢できるもの・こと」や「将来残したいもの・こと」はありますか。人物、場所、イベント、食べ物など自由に記述してください。

朝霞市の「自慢できるもの・こと」や「将来に残したいもの・こと」はありますかについて、自由意見欄に記入があったのは回答者271人のうち92人(33.9%)である。

【彩夏祭】

- ・ 「あさかの森」などの緑があふれる暮らしやすい場所があるところ。
- ・ 東京に近い。
- ・ 彩夏祭が最高に楽しい!!!
- ・ ぽぼたんが可愛い。(自まんのキャラクター)
- ・ 彩夏祭を将来に残したい。何十年も開催しているわけではないけれど、毎年何十万人の人が来ているし、何より楽しいので地域の活性化には欠かせないものだと思います。また、朝霞市外の鉄道駅にポスターを掲示して、もっと彩夏祭を盛り上げれば、他の市に住んでいる人にも、朝霞市の魅力が伝わるのではないかと思います。
- ・ 彩夏祭は自慢できるし将来残したい。朝霞の森のように小さい子から大人まで遊ぶことができる広い所は残しておきたい。
- ・ 彩夏祭やストリートテラス等のお祭りが多し。都心へのアクセスがよく、まわりは緑が多く、とれたての新鮮な野菜が食べられる等、住むにはとても快適なこと。
- ・ 駅前の人参のイルミネーション。散歩しやすい。彩夏祭。
- ・ 彩夏祭、毎年市外からも多くの人が集まるメインイベントなので、これからも続けて欲しい。むしろもっと規模を大きくし、沢山の人が満足できるものにして欲しい。
- ・ 彩夏祭、・ぽぼたん、・にんじんのオブジェ
- ・ 彩夏祭、都心へのアクセス。
- ・ 子供から大人まで楽しめ、利用できる朝霞の森・陸上競技場、野球場、体育館・彩夏祭、よさこい・四季折々のイベント(シンボルロードで行われているもの)
- ・ 地元の飲食店、グルメチャンピオンなど
- ・ 本田美奈子さん、他、朝霞の沢山の有名人をもっとアピール
- ・ 自衛隊イベント
- ・ おだやかな雰囲気をもっと残していきたい。彩夏祭などは朝霞市民からするとすごく自慢のできる良いイベントだと思います。
- ・ 彩夏祭。これだけは無くならないで欲しいです。彩夏祭は、学生だけ、朝霞市民だけではなく、色々な人が色々な所から足を運んで参加していて、参加者の夏を彩る良い祭りだと思います。そんな彩夏祭には、いつまでも色褪せず、長く続いて欲しいと思っています。

【イベント】

- ・ 祭やイベントごとは自慢できるし続けてほしいです。朝霞ストリートテラスの時、自分はボランティアで1回活動したことがあります。その時、大勢の人が「楽しい一日にしよう」と言って、とてもポジティブな人達を多く見ました。こういうのを将来残したいです。

- ・ イベントが多いと楽しい(現状維持)。
- ・ 朝霞はとても公園などが多く自然が多いです。またイベントもたくさんありとても賑やかで明るい町です。
- ・ "お祭りなどのイベントが多くある。黒目川などの美しい自然がある。"

【交通】

- ・ 交通の便が良い。→通学できる範囲が広く、進路の幅が広い。
- ・ 朝霞市の自慢できるところは交通のアクセスの良さだと思います。すぐに東京などの都会に行くことができ、電車の本数が多いです。なので、電車に関するアピールをもっとしていけたら良いと思います。電車だけでなく、朝霞駅はなかなかおしゃれな外観で写真映えも良いと思うので、そこも推していけばいいと思います。
- ・ 朝霞市の長所は、やはり交通の便である。高校生になり、通学もはじめ、電車を利用し移動することが増えた。北朝霞駅、朝霞台駅があることによって、他の市町村と比べ住みやすさや、行動範囲が広がっていると思う。しかし、前に違う市に住んでいる友達が朝霞に来た時に、「遊ぶ場所ないね〜。」と言われてしまった。公園や競技場などの設備は十分だと思うが、映画館やショッピングモールなど「朝霞のあの場所に行って遊びたい!!」という声上がるような施設がないように感じる。土地や自然を大切にしたいという市民の声があり、実現するのは厳しいかもしれないが、私と同年代くらいの子供も達は同じ意見を持っていると思う。東上線と武蔵野を接続するための町にはしたくない!!
- ・ 朝霞市は池袋や成増など東京の駅と近くて便利なので、交通の便がよい。朝霞には森林豊かな公園が多いので、自然保護をしつつ、将来も美しく残してほしい。
- ・ 緑が多く穏やかだけど、都内に近く交通の便がいいところ。

【自然・農産物】

- ・ 「あさかの森」などの緑があふれる暮らしやすい場所があるところ。
- ・ 畑、広い公園(朝霞の森など)。朝霞と言えば〇〇といえる、お土産があるといい。にんじんとか・・・。
- ・ 黒目川・朝霞の森・治安の良さ・豊かな自然・穏やかな雰囲気・青葉台。
- ・ 朝霞の良いところは都心にほどほどに近いけれど、都内ほどゴミゴミしていない。適度に自然が多く、ほどほどに空気がきれいいて、スーパーやドラックストアが多い点だと思います。引き続き、朝霞の森や周辺の公園や空き地(国有地内の樹木含む)、黒目川の遊歩道と公園や畑を残し、ゆとりのある街づくりをしてほしいです。溝沼に住んでいる祖父や祖母が言っている、「朝霞は歩行者やベビーカーを押す人が安心して歩ける道が少ない。ガードレールや車道と歩道の間の縁石を設置して、高齢者や子供が安心して歩けるようにしてほしい」ということを、市役所の人にお伝えしたいです。
- ・ 黒目川にカワセミがいること。あさかベーカリーがあること。
- ・ にんじんの生産。特撮ヒーローの撮影。←ヒーロー系大好き。なので朝霞が映ると嬉しい。黒目川の景色。
- ・ 北朝霞駅の人参モニュメントは結構気に入ってます。彩夏祭は最近行けてなかったけれど、好きなので残しておいてほしいです。黒目川の桜が綺麗で毎年見に行くので、これからもあってほしいです。
- ・ のどかで落ち着く黒目川の景観。
- ・ 黒目川沿いの BBQ できるところ
- ・ 朝霞の新鮮な野菜"

問17 あなたが朝霞市長だったとしたら、どのようなことをしてみたいですか。自由に記述してください。

「あなたが朝霞市長だったとしたら、どのようなことをしてみたいですか」について、自由意見欄に記入があったのは回答者271人のうち93人(34.3%)である。

【保健・医療】

- ・ 带状疱疹の50代以上へのワクチン費用補助。東京ではほとんどの市が対応しているのに朝霞市は対応できていない。遅れている。TVCMでは促進されているのに、市の補助がない。
- ・ 高校生まで医療費無料化。大学進学への補助。
- ・ 医療費20歳まで無償化。
- ・ "病院の増築(良い病院が少ない。とくに美容に力を入れておらず肌専門の皮膚科、整形外科)
- ・ 18歳まで公立私立校の無償化と医療費無料

【交通】

- ・ わくわく号の本数を増やす。(利用している人が多いため。)
- ・ 朝霞は坂が多いので、バスなどの交通機関を増やし、お年寄りも住みやすい町にしたい。
- ・ 朝霞台駅へのエレベーターの設置。朝霞市内にある(小中高関係なく)学校は20~30年おきに必ず建て替えを条例化する。プロ野球関連や鉄道関連の店が少なすぎるので一つは設置したい。市内でプロ野球試合が見れるように招待する。市バスで”快速”バスをつくる。
- ・ 交通の便や商業施設を豊かにする。
- ・ 市内でも、人口が集中し過ぎている地域(私の住むところなど)と、人口が比較的にはかなり少ない地域の差があるように、私の身近では感じられる。これが引き起こしているのが道路、特に歩道がせまくなっているという事態だと思う。それによって交通事故が、私の身の回りでは多くなってきているように感じる。よって、特に小学生、中学生の通学路を中心に、その道の安全性を向上してみたいと思う。かなり困難であるが、理想としては、人口の偏りも修正できれば解決に近づくように思う。
- ・ 私が住んでいるところは車がないと不便で学生としてはとても生活しづらいので、駅を増やす。バスの本数や、行先の駅の候補を増やす。
- ・ 今住んでいる朝霞市民により満足してもらえるようにする。朝霞市内を行き来しやすいように(朝霞駅から北朝霞駅など)次世代のモビリティを導入する。
- ・ "駅前の再開発バスロータリーを広くする(朝霞台)"

【公園・公共施設・都市開発】

- ・ ぼくが朝霞市長だったら、遊び場をいっぱい増やします。遊び場を増やしてボールが使える公園をたくさんつくります。あと、ゲームセンターなどが朝霞市には少ないので、大きなゲームセンターを開店してほしいです。イトーヨーカドーやイオンモール等の建物を建てていきたいです。とりあえず、積極的な活動をしていきます。
- ・ 誰もが参加できるイベントや、年齢別で楽しめるイベントを行いたい。公園や学校をもう少しキレイにして、子どもたちが気持ちよくできるようにしたい。せまい道路を広くしたり、道路に柵をつけたい。信号がない横断歩道はカーブミラーをつけたい。カーブミラーは冬もって見えないので、くもり止めもつけたい。

- ・ アスレチックが多い大きめの公園を造る。所沢ミュージアムの様な室内の公共施設を造る。大きめの室内に大人も楽しめるスライダーがあるプールを造る。
- ・ 城山バスケットコートのようなスポーツが出来る公園を作り、環境を良くしてバスケットゴールを増やし、室内に卓球やフットサル等も付けて欲しい。定期テストの回数を減らす、もしくはなくす!! (テストで怒られ自分を追い込ませないようにするため)。学校の体育館を2つにする。
- ・ バスケットゴールやサッカーゴール、何でも遊べる広場(ボールも使える)を設置したいです。(自由に遊べるところが少ないから。)今の朝霞市のように緑が多く、散歩をしたくなるような景色にしたいです。勉強に集中できて、ちょっとした売店がある建物をつくりたいです。市長みずからも参加する祭りを多く開催したいです。
- ・ ボールを使える公園を作る、広くする。
- ・ ゆっくり休憩できる机があったり自由に遊んだり運動できる公園をつくる。
- ・ "地域の人とベンチを作るイベントを開催し、作ったベンチを川や公園などに設置する。
- ・ 災害に備えた土地を守るための対策。川の氾濫、土砂災害から人や家を守るための地盤を固める工事を行う。お年寄りも多い地域がたくさんあるので、道の整備もしたい。自転車、歩行者のための道を作る。
- ・ もっと朝霞駅を大きくして行って他の地域とのつながりを強くしたい。朝霞駅周辺を商店街風に見たら、もっと賑わうと思う。
- ・ 市内をもっとお洒落な町にする。若者向けの店やゲーセンを増やし、市内で休日も遊びたいと思えるようにする。
- ・ 川の近く、土手の整備。
- ・ もっと緑のあふれる市にしたい。

【イベント】

- ・ 小中学校の同窓会を市が開催する。→朝霞市に関心を向ける機会が高まる。
- ・ 季節に合ったイベントや職業体験などしてみたい。
- ・ 祭りを増やして人との交流を盛んにする。
- ・ イベントをたくさんする。
- ・ 米軍跡地の活用→運動施設、商業施設に。中央公園野球場の駐車場の拡大、ネット増強→様々なスポーツイベントやプロ野球2軍試合の開催。・市を豊かにするためのチャリティーイベント。

【PR】

- ・ インスタグラムや X、SNS 等を活用して様々な場所や施設などの PR 活動を行う。歩行者が通りやすくなるように、特に通学路などの道幅をかえる整備をしたい。
- ・ 「朝霞」という名前は、初めて見る人は「あさぎり」とよんでしまったり、読めなかったりするそうです。なので、「あさぎりではなくあさかです!」など、少し自虐的な PR をしてみたいです。また「朝霞」は個人的に、とてもキレイな名前だと思っているので、その点でもアピールしたいです。
- ・ 朝霞市の良さを更に理解してもらうために、名産や名所のを詰め込んだ PR 動画を作成し、SNS 上に発信してみたいです。朝霞市の名産には人参、あさか道中など、名所には旧高橋家住宅、黒目川の桜など、様々な分野で数々の魅力があります。その魅力を一つの動画に纏め、全国に知ってもらい、地域を活性化する活動に力を尽くしてみたいです。その他に朝霞市内をより住みやすい街にするため、急な坂全てに手摺りを設置したいです。市内には急な坂が数多くあり、たまに登りにくそうにして

いる高齢者の方を見ることがあります。自分はそこで、手摺りをつければ苦勞する人も大幅に減少するのではないか、と考えました。若い人から高齢者まで安心して過ごしやすい街にすることで、朝霞市が更に近代的な街に発展し、賑やかな地域になっていくと思います。